

海老名市教育委員会

(平成29年 11月 定例会議事日程)

日時 平成29年11月22日(水)

午後2時00分

場所 海老名市役所701会議室

教育長報告

日程第 1 報告第 21 号 学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正に関する意見の申し出について

日程第 2 議案第 30 号 平成29年度全国学力・学習状況調査公表内容について



海老名市教育委員会

平成29年 11月定例会

◇教育長報告

1 主な事業報告

- 10月27日（金） 教育委員会10月定例会
第40回小学校連合運動会
部活動検討委員会
台風22号情報連絡会
- 28日（土） 市民文化祭郷土芸能部門ステージ
- 30日（月） 小中一貫教育綾瀬市教育委員会視察
教育部予算調整
学校施設再整備計画打合せ
- 31日（火） 市長定例記者会見
教育部予算調整
- 11月 1日（水） 朝のあいさつ運動
週部会
市制施行46周年記念式典
縣市町村教育長連合会幹事会・総会
- 2日（木） 広報えびな題字選考会
連合運動会実行委員会
教育部予算調整会議
- 3日（金） ボーイスカウト県央地区ラリー
海老名市文化スポーツ賞贈呈式
- 4日（土） 海老名市医師会創立30周年記念祝賀会
- 5日（日） 考古学講座
- 6日（月） 英語朝会（中新田小）
総合教育会議打合せ
- 7日（火） 11月校長会議
- 8日（水） 週部会
海小研教育講演会

- 9日（木） 特学親の会
学校保健研究協議会
授業改善の手引き作成員会
- 10日（金） 社会教育委員会議
よつば祭（海老名支援学校文化祭）
学校経営の在り方研究会
- 11日（土） 中学生人権作文コンテスト表彰式
教育セミナー
家庭と地域の教育を考えるつどい
- 13日（月） 指導係29計画進捗報告
学状公表打合せ
- 14日（火） 11月教頭会議
横須賀市議員団視察（プールの件）
有鹿小飼育動物獣医師支援訪問
- 15日（水） 11月臨時議会
映画パンフレット感謝状贈呈
- 16日（木） 英語デー（海老名小）
小学校支援級合同宿泊
初任者授業参観（上星小）
週部会
- 17日（金） 最高経営会議
小学校支援級合同宿泊
- 18日（土） 教研集会・母と女性教師の会（全体会）
- 19日（日） 第3回総合教育会議（門沢橋小）
- 20日（月） 初任者授業参観（有鹿小）
都市間交流報告会
- 21日（火） 英語朝会（有馬中）
音楽会（柏ヶ谷小）
全国学力・学習状況調査市結果説明会
- 22日（水） 週部会
教育課題研究会
教育委員会11月定例会
教育委員温故館企画展視察

2 新たな教育プランについて

学校教育を中心とした取組である第1期「えびなっ子しあわせプラン」の3か年計画が今年度で終了します。

○子どもたちが「学力」「集団力」「健康安全力」を義務教育9年間で確実に身につけるための取組

○新たな学校体制づくりのための「教育課程の見直し」「小中一貫教育とコミュニティ・スクールの導入」の取組

については、あらためて精査して成果と課題をまとめる必要がありますが、一定の成果が得られたと思っています。

その上に立って、新たな教育プランとしての第2期「えびなっ子しあわせプラン」については、基本的には、第1期の取組を継続したいと考えているところです。

今年度、5月の定例会で「試案」について、報告をさせていただきました。

そこでは、

- ①ひとりひとりの学び
- ②授業改善
- ③集団生活の価値
- ④子どもの安全（安心・安全・健康）
- ⑤学校の自立
- ⑥教育環境の最適化
- ⑦みんなの学校

という7つのキーワードを示しました。

その後、だいぶ日数が経ちましたが、あれこれ思案する中で、私としては、現在、次の3つのキーワードを重点として、現行のプランを継続しながら、新たな教育プランを構成しようと考えています。

- 1 授業改善
- 2 社会に開かれた教育課程
- 3 みんなの学校



1 授業改善

まずは、海老名の子どもたちの今と将来のしあわせのために、身につける力として示した「学力」「集団力」「健康安全力」を必要な「能力」として再構成し、その能力を身につけるための授業改善に取り組みたいと考えています。

また、その場合の「授業」を各教科等の学習はもちろん、広義に、学校教育活動を「授業」と捉え、改善を図りたいと考えています。

授業を中心に学校教育活動のこれまでの経過をふり返ると、学習指導要領が新しくなるたび教育内容への対応はなされてきましたが、それに合わせて大きく指導法が改善されることはありませんでした。

授業改善は、教職員の本懐です。だれもがよい授業をしたいと願っています。

主体であるひとりひとりの子どもが、しあわせに生きるための能力を身につけるためには、どのような指導・支援がよいのか、どのような授業、学校教育活動を実践するべきなのか。

そのような意味で、授業改善を重点としたいと考えています。

2 社会に開かれた教育課程

これまでの学校教育活動は学校内で閉じられる、完結する傾向がありました。

このことは、学校で身につけた能力が、ある意味、社会での汎用性につながらず、学校が社会と隔離した特別な教育の場であるという認識を生むことにつながってきました。

一面的な見方かもしれませんが、学校での勉強がよくできて、学校の成績がよくても、社会では必ずしも通用しない、よりよい社会生活を営むことには、直接的にはつながらないということが言われています。

子どもたちは、地域の一員として社会生活をしながら学校に通います。また、学校を卒業すれば社会の一員として社会生活を営みます。

そういう意味で、学校は、これまで以上に、学校教育活動を社会とつながっている設定の中で展開することが求められていると考え、社会に開かれた教育課程を編成することを、重点のひとつとして掲げたいと考えています。

具体的には、これまでの、地域学習・郷土学習などの場面、地域教材、地域人材などの活用を整理し、子どもたちが身につけるべき能力の視点から、それらを推進・充実する実践が必要であると考えているところです。

3 みんなの学校

第1期の取組で、新たな学校体制として「小中一貫教育」「コミュニティ・スクール」の導入を図りました。(図る予定です。)

まずは、3年から5年をかけて、その取組を充実・定着させる必要があると考えています。

しかしながら、私は、導入の視点は、あくまでも子どもたちと学校側からのものであり、今後の学校のあるべき姿を考えると、例えば、学校施設は地域の公共施設、教育は一生涯の教育と考え、公共施設の中に一部に学校施設があり、義務教育期間はその限られた一部と考え、地域の教育施設としての「みんなの学校」という捉え方をすべきではないかと考えています。

特に、「コミュニティ・スクール」を展開する中で、「みんなの学校」という視点から充実・深化させる必要があると考え、重点として掲げたいと考えているところです。

今後、この3つの取組の重点が相互につながり、そのつながりの内側に、めざすべき子どもの姿、学校の姿があるというイメージを図式化して示したいと考えています。

また、12月定例会において、再度、具体的に提案いたしますので、引き続き、ご意見をいただければと思います。



以上でございます。

報告第21号

学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正に関する意見の申し出について

学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正に関する意見の申し出について、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和49年教委規則第2号）第3条第1項の規定により臨時に代理し執行したので、同条第2項の規定により報告する。

平成29年11月22日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤文康

報告理由

学童利用希望者数は増加傾向が続いており、特に今年度の一年生は想定以上の人数となったことを踏まえ、来年度の新一年生の本格的な受け入れ前に、事業所の受け入れ体制を整えること等が必要なため

条例の一部改正に関する意見の申し出について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、海老名市長から意見を求められたが、急施を要したので、教育長が臨時に代理して意見を申し出たため、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和49年教委規則第2号）第3条第2項の規定により報告をする。

1 意見を求められた条例

学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

2 改正理由

学童利用希望者数は増加傾向が続いており、特に今年度の一年生は想定以上の人数となったことを踏まえ、来年度の新一年生の本格的な受け入れ前に、事業所の受け入れ体制を整えること等が必要なため、条例の一部改正をするものである。

3 海老名市長への申し出文書

別紙のとおり

4 海老名市長からの文書

別紙（写）のとおり

5 教育長が臨時代理をした理由

文書法制課より、教育委員会からの意見の申し出を受けてから、条例の制定等の起案をするため、議会日程から逆算すると早急に回答願いたいとのこと。

議会の議決を経るべき案についての意見の申出に関することは、教育委員会が決定する事項の一つだが、本案件については、教育委員会で意思決定されていること、また、10月25日に開催された最高経営会議にて決定されたものであり、臨時教育委員会を開催する時間がないことから、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則第3条第1項の規定により教育長が臨時に代理して決定し、執行した。

なお、11月15日に開催された第2回海老名市議会臨時会において議決済みである。

海教総収第 448 号
平成 29 年 11 月 2 日

海老名市長 内 野 優 殿

海老名市教育委員会



条例の改正に関し意見を求めることについて

このことについて、下記の条例を改正するため、平成 29 年第 2 回海老名市議会臨時会に上程することに異論ありません。

記

- 1 学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

事務担当：教育総務課総務係
志村 (内線 656)



海文発第7号

平成29年11月2日

海老名市教育委員会 殿

海老名市長 内野 優



条例の改正に関し意見を求めることについて

このことについて、海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例を改正するため、平成29年第2回海老名市議会臨時会に別紙のとおり上程したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、貴教育委員会の意見を求める。

議案第 57 号

海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部
改正について

海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する
条例を別紙のとおり定める。

平成 29 年 11 月 15 日提出

海老名市長 内 野 優

提案理由

学童保育事業の利用者数の増加に備え、児童の受入れ体制を整えたいため

海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部
を改正する条例

海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成26年条例
第27号）の一部を次のように改正する。

附則第2条第1項中「平成30年3月31日」を「平成33年3月31日」に改め
る。

附則第2条第3項中「平成30年3月31日」を「平成33年3月31日」に改め、
「までの間」の次に「、第11条第2項に規定する支援員が3人以上である場合は」
を加える。

附 則

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

新（改正案）	旧（現行）
<p>海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例</p> <p>本則 略</p> <p>附 則</p> <p>第1条 略 (経過措置)</p> <p>第2条 この条例の施行の際現に学童保育事業を行っている者において、この条例の施行の日から<u>平成33年3月31日</u>までの間、第10条第2項の規定の適用については、同項中「1.65平方メートル以上」とあるのは、「この条例の施行の日の前日において事業所ごとに定められている児童の定員数により算出された児童1人当たりの専用区画の面積」とする。</p> <p>2 この条例の施行の日から平成32年3月31日までの間、第11条第3項の規定の適用については、同項中「修了したもの」とあるのは、「修了したもの（平成32年3月31日までに修了することを予定している者を含む。）とする。</p> <p>3 この条例の施行の際現に学童保育事業を行っている者において、この条例の施行の日から<u>平成33年3月31日</u>までの間、<u>第11条第2項に規定する支援員が3人以上である場合は</u>、第11条第4項の規定の適用については、同項中「40人」とあるのは、「この条例の施行の日の前日において事業所ごとに定められている児童の定員数」とする。</p> <p>以下（略）</p>	<p>海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例</p> <p>本則 略</p> <p>附 則</p> <p>第1条 略 (経過措置)</p> <p>第2条 この条例の施行の際現に学童保育事業を行っている者において、この条例の施行の日から<u>平成30年3月31日</u>までの間、第10条第2項の規定の適用については、同項中「1.65平方メートル以上」とあるのは、「この条例の施行の日の前日において事業所ごとに定められている児童の定員数により算出された児童1人当たりの専用区画の面積」とする。</p> <p>2 この条例の施行の日から平成32年3月31日までの間、第11条第3項の規定の適用については、同項中「修了したもの」とあるのは、「修了したもの（平成32年3月31日までに修了することを予定している者を含む。）とする。</p> <p>3 この条例の施行の際現に学童保育事業を行っている者において、この条例の施行の日から<u>平成30年3月31日</u>までの間、<u>第11条第4項の規定の適用については</u>、同項中「40人」とあるのは、「この条例の施行の日の前日において事業所ごとに定められている児童の定員数」とする。</p> <p>以下（略）</p>

附 則

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

議案第30号

平成29年度全国学力・学習状況調査公表内容について

別紙のとおり、平成29年度全国学力・学習状況調査公表内容について、議決を求める。

平成29年11月22日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤文康

提案理由

市の公表及び学校別公表内容について審議いただきたいため

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査

海老名市の結果



海老名市小学校連合運動会・海老名市中学校総合文化祭

- はじめに
- 平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果の分析による
海老名市の児童生徒の状況について（ダイジェスト版）
- 海老名市の結果
- 学力向上のための「8つの教育施策」について

平成 29 年 1 2 月

海老名市教育委員会

はじめに

海老名市教育委員会では、平成26年度より全国学力・学習状況調査における市の結果と海老名市立小中学校全19校（小学校13校、中学校6校）の結果を公表しています。

つきましては、次のとおり平成29年度の調査の結果を公表します。

公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

また、公表をすることによって、保護者や市民の皆様は、市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

◆公表の目的

- ①ひとりひとりの児童・生徒が、自分自身を改善する。
- ②学校が指導の改善に生かす。
- ③海老名市教育委員会が教育施策の改善に生かす。
- ④保護者・市民に公表し、学習習慣や生活習慣の改善に向けて協力を得る。

◆公表の方法

<市全体の結果>

- 平均正答率や分布、質問紙の結果を、全国・県との比較で、数値や文章で表記する。
- 平成26年度からの経年比較の結果を記載する。
- 分析とともに今後の具体的な施策を記載する。
- 地域や家庭と協力して取り組むことを記載する。
- 市のHPにて公表する。（印刷物での配布はしない）
- 「結果概要」「ダイジェスト版」を作成し、公表する。

<各校の結果>

- 全校が同じ構成で公表するが、様式・内容については学校裁量とする。
- 平均正答率は記載せず、文章で表記する。
- 分析とともに「これまでの取組から」「今後の具体的な取組について」を記載する。
- 家庭との協力について記載する。
- 冊子で全家庭に配布する。
- 市のHPにて公表する。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析による海老名市の児童生徒の状況について(ダイジェスト版)

神奈川県海老名市教育委員会
平成29年4月18日実施
小学校第6学年・中学校第3学年

3 海老名市の教育施策(学力・学習状況等の改善のために)

- 1 少人数学級・少人数指導のための教員を配置します
- 2 補助指導員を配置します
- 3 教員の研修・研究を推進します
- 4 コンピュータ利用教育を推進します
- 5 授業の改善に取り組みんでいます
- 6 「学校応援団」による学校支援を進めています
- 7 学習支援ボランティアを充実します
- 8 小中一貫教育を推進します

4 ご家庭で協力していただきたいこと

☆テレビ、ゲーム、携帯電話・スマートフォンは、時間とルールを決めて使います。

携帯電話等を所持する児童生徒は、年々増加しています。

情報ツール等についても家族で話し合います。

☆家庭学習は時間を決めて、毎日行いましょう。

宿題(予習・復習)を中心に、計画的に取り組みましょう。

☆授業参観や学校の行事に参加しましょう。

子どもの頑張る姿を見て、たくさんほめましょう。

☆地域の方々と顔が見える「つながり」を作りましょう。



ご協力をおねがいします!

1 学力調査結果の概要

全国と比べてやや下がっています

全国	74.8	57.5	78.6	45.9
海老名市	73.5	56.3	75.4	43.1
国語A	算数A	国語B	算数A	算数B

平均正答率のグラフ(%)

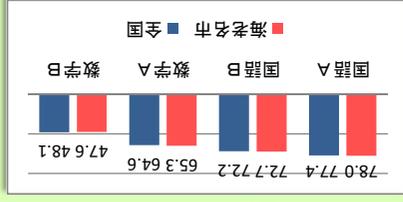


中学校

全国と比べてやや上回っています

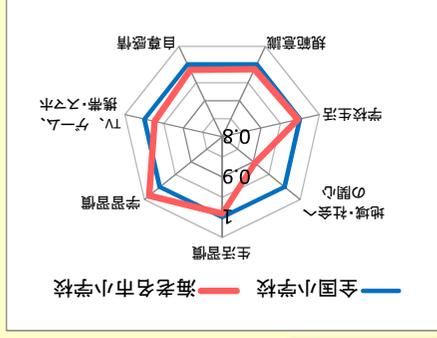
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
海老名市	78.0	72.7	65.3	47.6
国語A	国語B	数学A	数学B	

平均正答率(%)



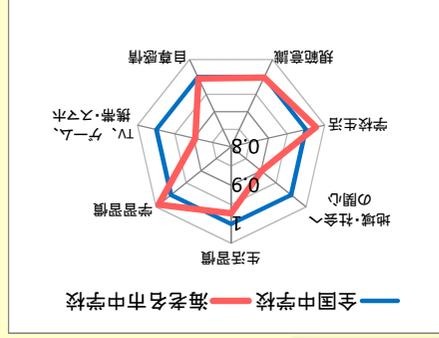
2 児童生徒質問紙調査結果の概要

小学校 学習習慣は良好です



- ◆家庭での学習時間に改善が見られます
- ◆TV・ゲームの時間が長いです
- ◆地域の行事への参加が少ないです

児童・生徒質問紙より(全国平均を「1」としたときの比較)



中学校 学習習慣、学校生活は良好です

- ◆学校生活が充実しています
- ◆携帯・スマホの時間がかなり長いです
- ◆地域・社会への関心が低いです

教科に関する調査の結果

*平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

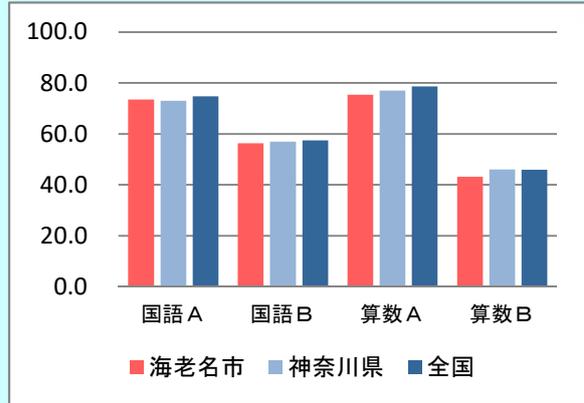
小学校

全国と比べてやや下回っています

平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
海老名市	73.5	56.3	75.4	43.1
神奈川県	73.0	57.0	77.0	46.0
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

平均正答率のグラフ(%)



★国語は、全国と比べて平均正答率が同程度です。

★算数は、昨年度と比べて全国との差が大きくなっています。



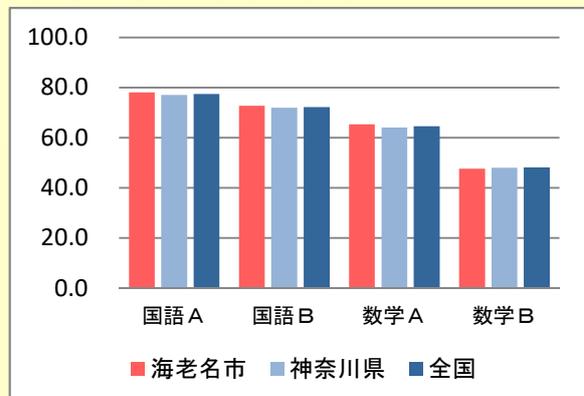
中学校

全国と比べてやや上回っています

平均正答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
海老名市	78.0	72.7	65.3	47.6
神奈川県	77.0	72.0	64.0	48.0
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

平均正答率のグラフ(%)



★国語・数学Aは、全国と比べて平均正答率が上回っています。

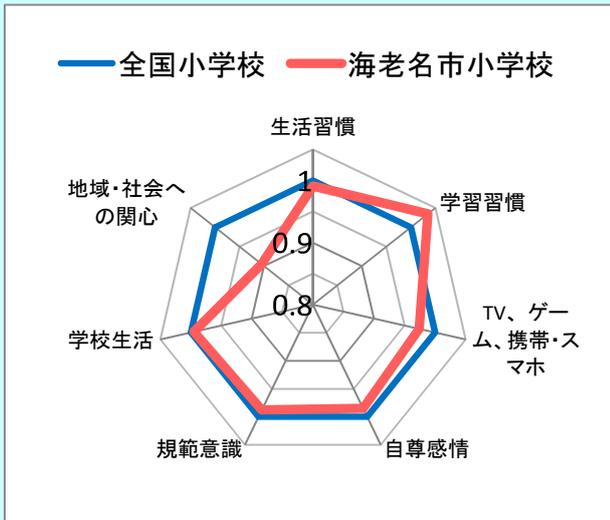
★数学Bは、全国と比べてやや下回っています。



児童生徒に対する質問紙調査の結果

小学校

学習習慣は良好です



児童質問紙より（全国平均を「1」としたときの比較）

○基本的な生活習慣、学校生活については、身についています。

○昨年度までと比べ、家庭学習の定着など、学習習慣の改善が見られます。

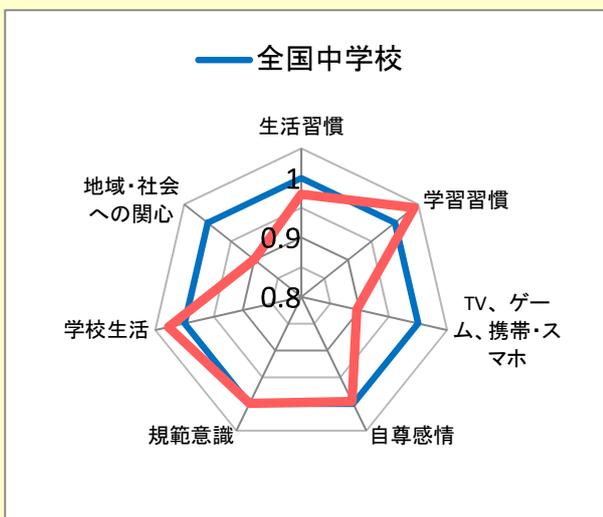
○TV・ゲームや携帯・スマホの時間について、学校と家庭が連携して対応する必要があります。

○地域のイベントに積極的に参加するなど、学校と地域の相互連携の必要があります。



中学校

学習習慣、学校生活は良好です



生徒質問紙より（全国平均を「1」としたときの比較）

○学習習慣については、これまでと同様に身についています。

○集団として協力し達成感を味わい、充実した学校生活を送っています。

○TV・ゲームや携帯・スマホの時間が長く、それを含めて生活習慣を改善する必要があります。

○引き続き、地域とかかわる機会を広げ、地域の一員としての活動を充実させる必要があります。





学力調査結果

小学校国語A・B

小学校算数A・B

中学校国語A・B

中学校数学A・B



小学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、ことわざ、言葉の意味や使い方、文章の読み取り、手紙の構成などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.3ポイント下回っています

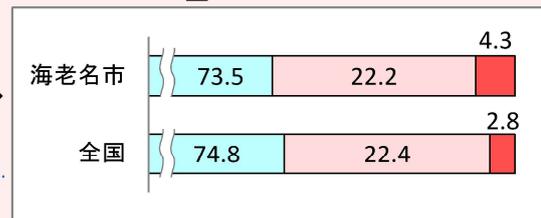
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	73.5	73.0	74.8	-1.3

誤答の様子を…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

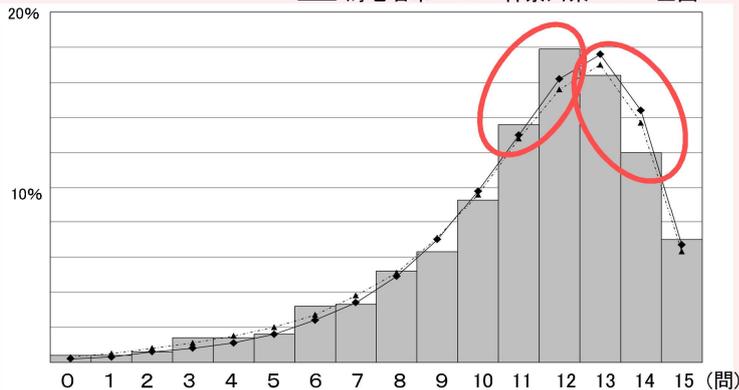


無解答率(何も書かなかった)は4.3%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
11~12問の児童が特に多く
13~14問の児童が少ないことがわかります

* 正答率50%以下(0~7問)の児童の割合は12.2%でした。(全国は10.4%)

* 正答率80%以上(12~15問)の児童の割合は53.3%でした。(全国は54.7%)

領域別の正答率

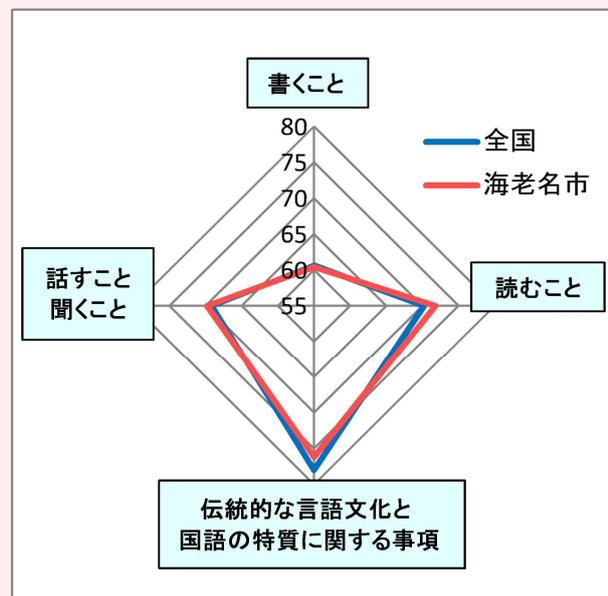
「話すこと・聞くこと」「読むこと」
が全国をやや上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	69.8	69.2	+0.6
書くこと	60.4	60.6	-0.2
読むこと	71.8	70.2	+1.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.2	78.0	-1.8

* 「読むこと」については、1.5ポイント以上、上回っていました。

* 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、1.8ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 俳句について話し合った文を読んで話合いの要点を選ぶ。(+3.0)
	○ 古文を音読して気がついたことのメモを見て、何をまとめたものか選ぶ。(+1.8)
	○ お礼の手紙を読んで、書かれた内容の説明を選ぶ。(+1.2)

全国を下回った設問	○ 漢字を書く。(対象) (-9.7) (置いてある) (-5.3)
	○ 漢字を読む。(事務室) (-3.1) (指示) (-2.0)
	○ ことわざの意味を読んで、正しい使い方の文を選ぶ。(もちもち屋) (-1.9)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

漢字の読み書きの設問

—— 部の漢字の読みをひらがなで、--- 部のひらがなを漢字で、それぞれていねいに書きましょう。

4年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

1 日時 2月19日(月)～2月22日(木) 10時25分から10時45分まで

2 集合場所 多目的ルーム

3 参加たいしょう 4年生のきぼう者
(1) (全国との比較-9.7) (2) (全国との比較-1.0)

4 申し込み期限と申し込み方法

(3) (全国との比較-1.9)

- ・ 2月14日(水)までに申しこんでください。
 - ・ 事務室前に申し込み用紙と箱がおいてあります。用紙にクラスと名前を書いて、
- (4) (全国との比較-3.1) (5) (全国との比較-5.3)
- 箱に入れてください。

5 お願い

- ・ 当日は、全員が体験ができるように、放送委員の指示にしたがってください。

(6) (全国との比較-2.0)

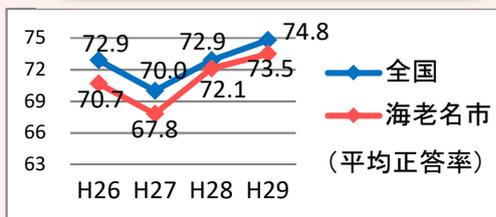


☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が11～12問の児童が多く、13～14問の児童が少ないことから各領域において確実な定着を図る必要がある。
- ◆ これまでも言語に関する事項に課題が見られたが、今年度は特に漢字の読み書きに大きな課題があり、確実に身につけるための指導の工夫が求められる。
- ◆ 文章中から表現の仕方や必要な情報を読み取ることができており、経年比較から見ても確実に読む力が伸びてきている。

これまでとの比較



◆ 平成29年度は平成28年度に比べて差が大きくなっているが、以前よりは差が小さい。

◆ 平成26・27年度は全領域において全国を下回っていたが、平成28年度は3領域、平成29年度は2領域で全国を上回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「言語事項を確実に身につける」ために
 - 漢字について、日常の中で繰り返し指導するなど、工夫を図る。
- ◆ 「基礎的な力の定着を図る」ために
 - 一問一答ではなく、複数のことを考えあわせてよりよい考えを導くような活動を継続する。

小学校国語B (主として「活用」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。話し合いや協力依頼文づくりなどの身近な場面をとおして、まとめる、比べる、自分の考えを持つ、表現するなどの問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.2ポイント下回っています

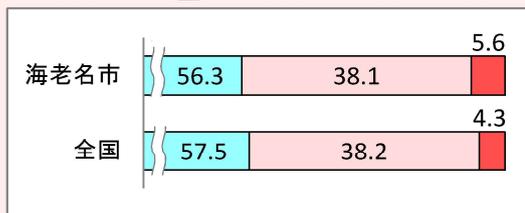
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語B	56.3	57.0	57.5	-1.2

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

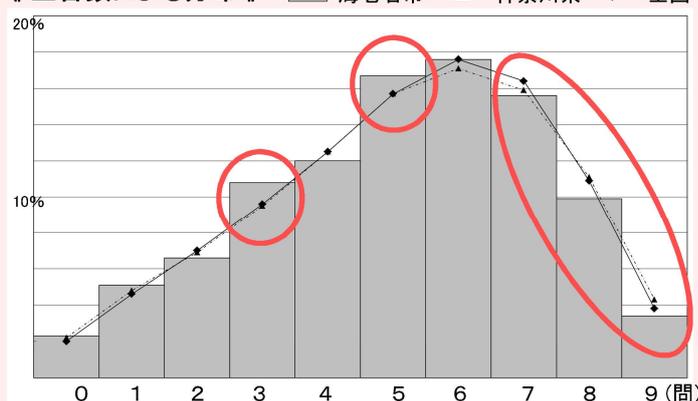
■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は5.6%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》



全国と比較すると
正答数が3問、5問の児童が多く
7問以上の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~4問)の児童の割合は
36.7%でした。(全国は35.6%)

* 正答率80%以上(8~9問)の児童の割合は
13.2%でした。(全国は14.6%)

領域別の正答率

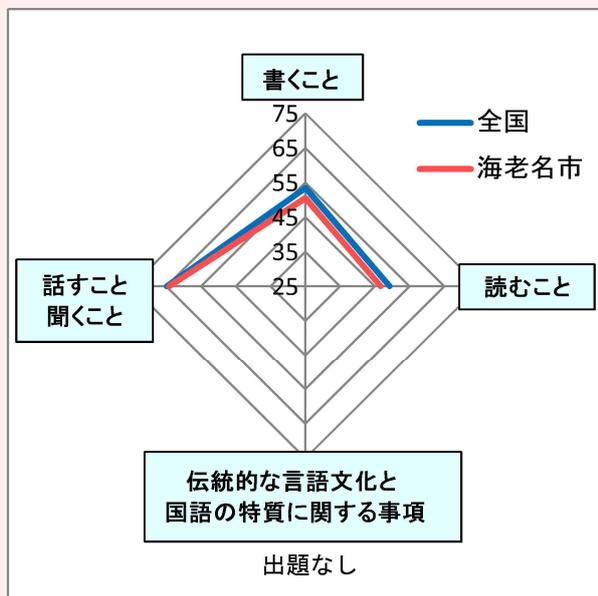
3領域において全国と比較して
やや下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	64.2	64.9	-0.7
書くこと	50.5	53.4	-2.9
読むこと	46.6	49.2	-2.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	この領域は今年度出題なし		

* 「書くこと」「読むこと」については、2.5ポイント以上、下回っていました。

* 特に「書くこと」については、2.9ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○スピーチ練習の話合いの文を読んで、メモを使う良さを40字以内で書く。(+3.1)
	○物語についての話合いの文を読んで、発言の意図を選ぶ。(+2.1)
	○協力者を募る文章について、工夫した点を選ぶ。(+1.5)

全国を下回った設問	○折り紙の魅力について、条件にあわせて80字以上100字以内で書く。(-6.9)
	○物語の中から理由を探し、条件にあわせて60字以上100字以内で書く。(-6.9)
	○協力者を募る文章を、条件にあわせて30字以上60字以内で書く。(-3.4)

国語Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

目的に応じて、自分の考えをまとめる設問 (全国との比較-6.9)

【スピーチの練習の様子】(動画で記録したもの)



折り紙のみりょくは、色やもようがきれいな紙を折って、いろいろな形を作ることができることだと、私は思います。

【グループの話合いの様子】

上野 それなら、折り紙のみりょくをもっとたくさん伝えた方がいいんじゃないかな。
北川 折り紙のみりょくは、どこでも手軽にできることだと思うよ。
上野 ぼくは、紙一枚から立体的な形ができるということがみりょくだと思うな。
北川 「手裏剣」のように、組み合わせて形をつなげられることもみりょくだよね。

石田さんは、友達の助言を受け、【スピーチの練習の様子】の中の「」について、もう一度考えています。石田さんは、どのように話すとよいですか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

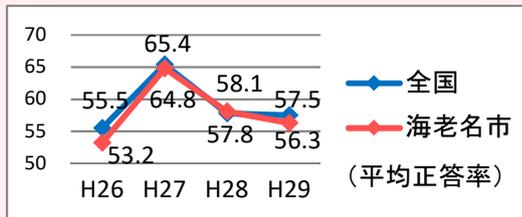
- 〈条件〉 ○ 折り紙のみりょくについて、【スピーチメモ】と【グループの話合いの様子】で出された意見から、それぞれ取り上げて書くこと。
○ スピーチとしてふさわしい言葉づかいにすること。
○ 書き出しの言葉に続けて、八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。 正答は省略

☆国語Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が3問、5問の児童が多く、7問以上の児童が少ないことから、基礎的な力の確実な定着が求められる。
- ◆ 記述式の問題の正答率が特に低いことから、目的や条件に合わせて自分の考えをまとめることに課題が見られる。
- ◆ ほとんどの設問について無解答率が全国と比べて高く、後半の設問ほどその差が大きくなっていることから、粘り強く問題に取り組む力を身につける必要がある。

これまでとの比較



- ◆ 平成26年度から徐々に全国との差が縮まり、平成28年度は上回ったが平成29年度は下回っている。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」については、これまで出題があれば全国を上回っていたが、平成29年度はそれを含めすべての領域で全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「書くことの力を高める」ために
 - 日頃の授業の中で、目的や定められた字数などの条件にあわせて文章を書くことを継続的に指導する。
- ◆ 「読むことの力を高める」ために
 - 目的にあわせて根拠を明確にして読み取り、自分の考えをまとめることを指導する。

小学校算数A (主として「知識」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。四則計算、単位量当たりの大きさ、図形の性質、重さ・長さの比較などの問題の他、身近な調査をして結果を表にまとめる力を調べる問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
3.2ポイント下回っています

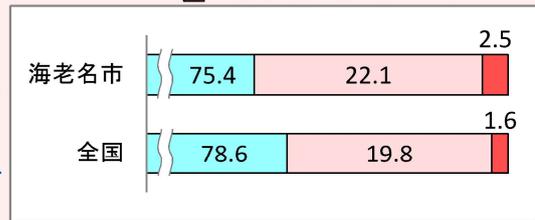
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数A	75.4	77.0	78.6	-3.2

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

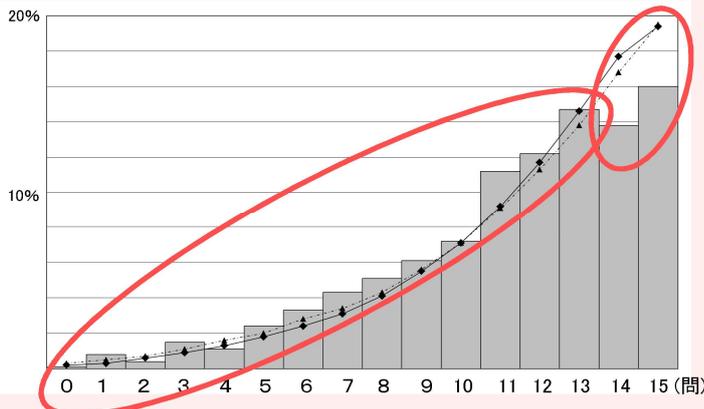


無解答率(何も書かなかった)は2.5%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が13問以下の児童が多く
14問以上の児童が極端に少ない
ことが傾向としてわかります

* 正答率50%以下(0~7問)の児童の割合は
13.8%でした。(全国は10.6%)

* 正答率80%以上(12~15問)の児童の割合は
56.5%でした。(全国は63.4%)

領域別の正答率

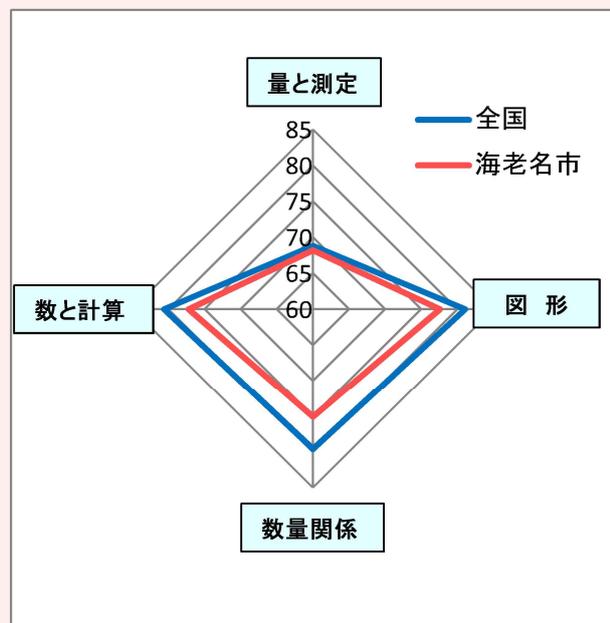
全領域において全国と比較して
下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	77.2	80.6	-3.4
量と測定	68.2	68.8	-0.6
図形	77.6	81.1	-3.5
数量関係	75.1	79.6	-4.5

* 「数と計算」「図形」については、約3.5ポイント下回っていました。

* 「数量関係」については、4.5ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った
設問

- 1m60円のリボンを0.4m買ったときの代金を求めるための数直線を書く。(+1.6)
- 小数のたし算をする。(10.3+4) (+0.4)

全国を下回った
設問

- 小数のわり算の答えを分数で表す。(5÷9) (-12.3)
- たし算・かけ算の混合計算をする。(6+0.5×2) (-10.8)
- 調査結果を表をまとめたときの合計欄にあてはまる数を書く。(-6.7)

算数Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

計算をする設問

5÷9 (商を分数で表しましょう。) (全国との比較-12.3)

6+0.5×2 (全国との比較-10.8)

資料から表を作ったときの合計欄に入る数を求める設問

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、右の①の表のように記録しました。その記録を②の表にまとめます。②の表のオにあてはまる数を書きましょう。(全国との比較-6.7)

② 飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

① 飼っている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

正答 13

○…飼っている
×…飼っていない

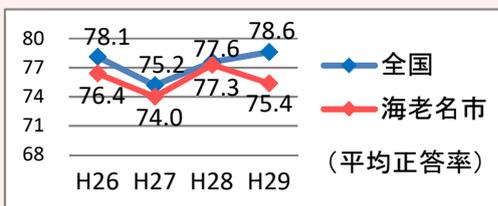
○…飼っている
×…飼っていない

☆算数Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が13問以下の児童が多く、14問以上の児童が極端に少ない傾向があることから、全領域において基礎的な力の定着を図る必要がある。
- ◆ 数と計算、数量関係の領域においては、分数の意味や四則混合計算、表の意味などの理解に大きな課題がある。
- ◆ ほとんどの設問について無解答率が全国と比べて高く、後半の設問ほどその差が大きくなっていることから、国語と同様の傾向が見られる。

これまでとの比較



- ◆ 平成26年度から全国との差が徐々に小さくなっていったが、平成29年度は差が大きく広がっている。
- ◆ 平成28年度は「量と測定」「数量関係」において全国を上回ったが、それ以外の年は全領域において全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「計算力を高める」ために
 - 四則計算や小数、分数の計算を組み合わせた多様な問題をくり返し解くように指導する。
- ◆ 「知識・理解の確実な定着」のために
 - 具体物やICT教材などを活用して、実感をともなった理解ができるように指導する。

小学校算数B (主として「活用」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。身近な事象について、式・表・グラフなどを利用しながら解決したり、算数の考えを使って説明したりする問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
2.8ポイント下回っています

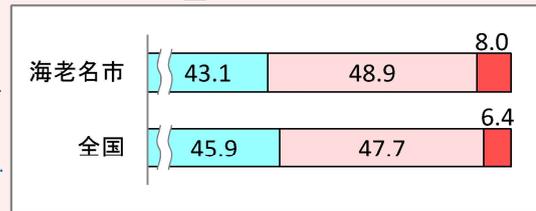
《 平均正答率 (%) 》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数B	43.1	46.0	45.9	-2.8

誤答の様子は…

《 誤答の内訳 (%) 》

■ 正答 □ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

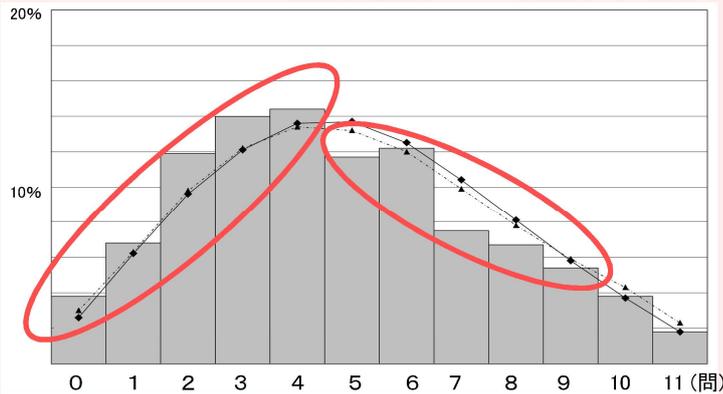


無解答率(何も書かなかった)は8.0%でした。

分布の様子は…

《 正答数による分布 》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が4問以下の児童が多く
5~9問の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~5問)の児童の割合は
62.5%でした。(全国は57.7%)

* 正答率80%以上(9~11問)の児童の割合は
10.9%でした。(全国は11.2%)

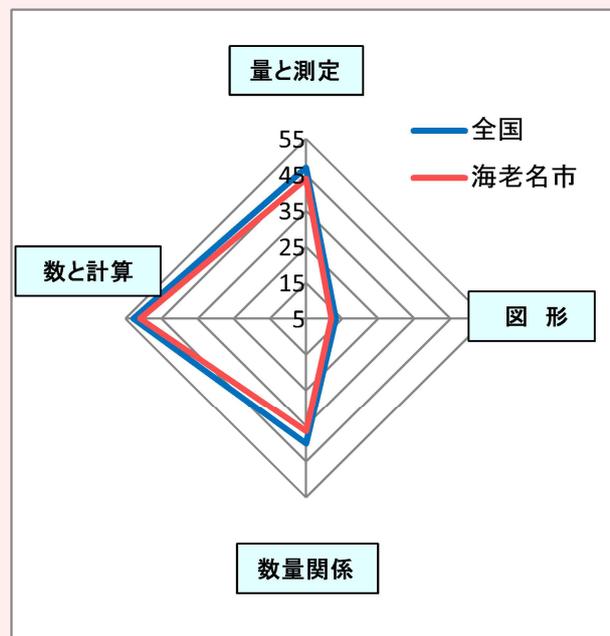
領域別の正答率

全領域において全国と比較して
下回っています

《 平均正答率 (%) 》

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	50.9	52.8	-1.9
量と測定	43.9	47.0	-3.1
図形	12.0	13.2	-1.2
数量関係	36.5	40.0	-3.5

* 「量と測定」「数量関係」については、3ポイント以上、下回っていました。特に「数量関係」については、3.5ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	なし 〔すべての設問において全国と同値または下回りました〕
	《全国と同値だった設問》 ○ 4本の平行な直線を使って手紙を3等分に折る方法を読んで、13本のときの方法を考える。(±0)

全国を下回った設問	○ 満月の見た目の大きさについて、最少の直径の長さ最大の直径の長さを正しく表している図を選ぶ。(−7.2)
	○ 仮の平均を使って平均を求めている式を参考にしながら、別の値を仮の平均として求める方法を書く。(−6.0)
	○ 調査結果を表にまとめるとき、示された数が表のどこに入るのか選ぶ。(−4.3)

算数Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

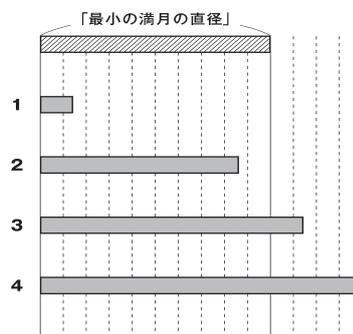
割合が示された文章を読んで、正しい図を選ぶ設問 (全国との比較-7.2)

※「月の大きさは変わらないが、地球からの距離により見かけの大きさが変わる」という説明を読んで

「最大の満月の直径」と「最少の満月の直径」を比べたとき、「最少の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

「最少の満月の直径」を▨、「最大の満月の直径」を■として、図に表します。

「最少の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、右の1から4までの中から1つ選んでその番号を書きましょう。



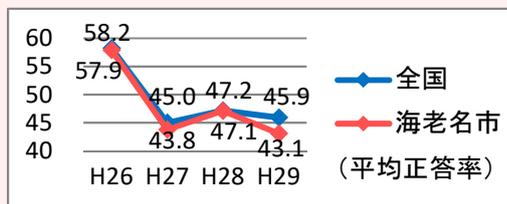
正答 3

☆算数Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が4問以下の児童が多く、5～9問の児童が少ないことから、基礎的な力を生かして問題を解決する力を高める必要がある。
- ◆ 「数量関係」の領域については、割合や平均などの理解が不十分なことから、その活用が難しい状況が見られる。
- ◆ すべての設問において全国より無解答率が高いことから、設問の意図を読み取る力を身につける必要がある。

これまでとの比較



◆ 平成28年度は差が縮まり全国と同程度になったが平成29年度はこれまで以上に差が広がっている。

◆ 平成28年度は2領域において全国を上回っていたが、平成29年度は全領域において全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「学習した内容を活用する力を高める」ために
 - 数量関係については、算数的活動を多く取り入れ、具体的なイメージを持てるように指導する。
 - 既習事項を使って身近な問題を解決する楽しさを味わわせ、問題解決への意欲を高めるように指導する。

中学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、ことわざ、言葉の意味や使い方、分かりやすい話し方や書き方、文章の読み取り、書写などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.6ポイント上回っています

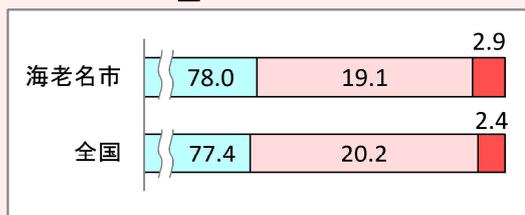
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	78.0	77.0	77.4	+0.6

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

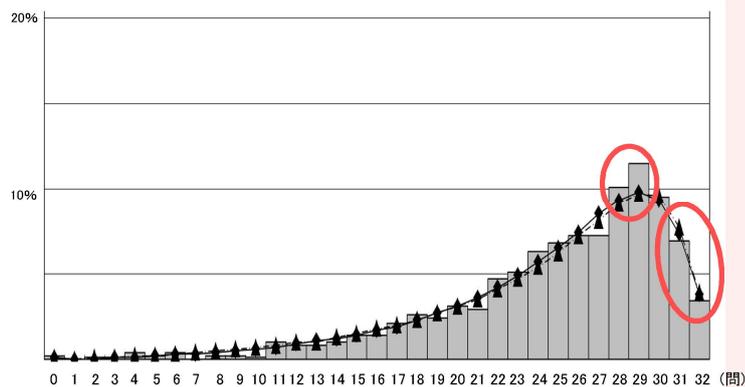


無解答率(何も書かなかった)は2.9%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が28、29問の生徒が
特に多く
31問以上の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~16問)の生徒の割合は8.2%でした。(全国は9.7%)

* 正答率80%以上(26~32問)の生徒の割合は55.8%でした。(全国は55.3%)

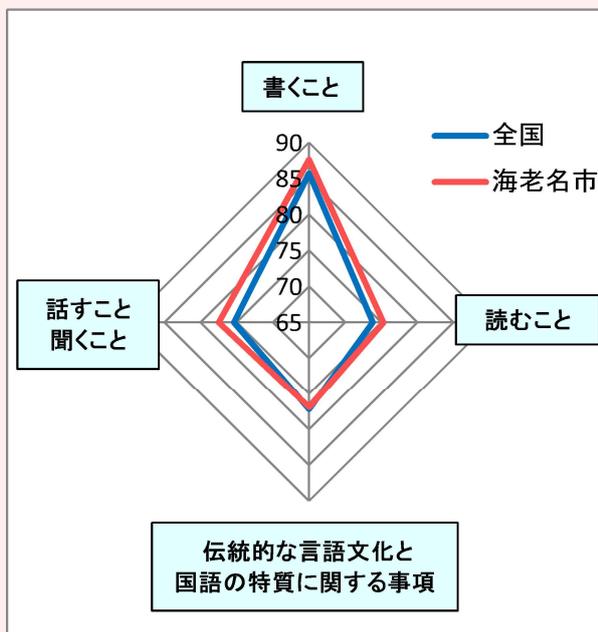
領域別の正答率

3領域において全国と比較して
やや上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	77.5	75.4	+2.1
書くこと	87.6	85.7	+1.9
読むこと	75.3	73.8	+1.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	77.2	-0.3

- * 「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、約2.0ポイント上回っていました。
- * 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については下回っていますが、ほとんど差がありませんでした。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- 相手にうまく伝わらなかった発言を修正して書く。(+4.2)
- 文章の中に入れる適切な語句を選ぶ。(急がば回れ) (+3.4)
(えりを正す) (+3.1)

全国を下回った設問

- 漢字を書く。
(雨で運動会がエンキになる) (-10.5)
(組織のキボを大きくする) (-4.5)
(店をイトナむ) (-1.5)
- 「徒然草」の作品の種類を選ぶ。
(随筆) (-6.0)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

漢字の読み書きの設問

次の文中の——線部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

雨で運動会がエンキになる。(全国との比較-10.5)

組織のキボを大きくする。(全国との比較-4.5)

店をイトナむ。(全国との比較-1.5)

正答 延期

正答 規模

正答 営(む)

次の文中の——線部の漢字の正しい読みをひらがなでていねいに書きなさい。

水が垂れる。(全国との比較-1.3)

正答 た(れる)

古典の種類を選ぶ設問 (全国との比較-6.0)

※「徒然草」の冒頭の部分と、その現代語訳を読んで

「徒然草」の作品の種類として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 随筆 2 漢文 3 物語 4 和歌

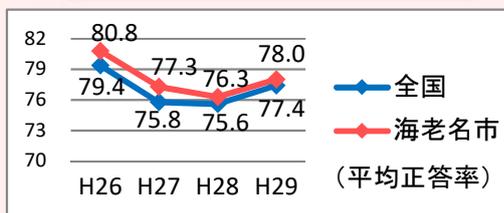
正答 1

☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が28～29問の生徒が特に多く、31問以上の生徒が少ないことから、基礎的な力はおおむね身につけているが、さらに確実な定着を図る必要がある。
- ◆ 漢字の習得に大きな課題があり、出題が小学校の配当漢字であることから、くり返し指導するなど指導の工夫が求められる。
- ◆ ほとんどの設問について無解答率が全国と比べて高く、年々その傾向が強くなっていることから、粘り強く問題に取り組む力を身につける必要がある。

これまでとの比較



- ◆ 4年間とも全国を上回っているが、平成28・29年度はその差が徐々に小さくなっている。

- ◆ 平成26・27年度は全領域において全国を上回ったが、平成28・29年度は1領域において全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「言語事項を確実に習得する」ために
 - 既習の漢字を日常生活や他教科の学習の中で適切に使用するように指導する。
- ◆ 「読む力を高める」ために
 - 文学的な文章を読むときには、文脈に即して語句の意味を的確にとらえながら読むように指導する。

中学校国語B (主として「活用」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。必要な情報を読み取ること、目的に応じて効果的に話すこと、根拠を明確にして自分の考えを書くことなどが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.5ポイント上回っています

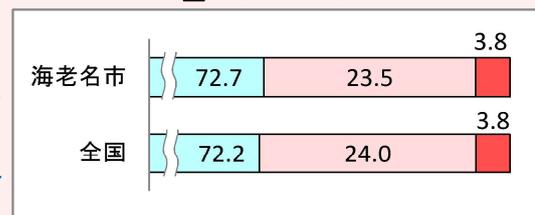
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語B	72.7	72.0	72.2	+0.5

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

□ 正答 □ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

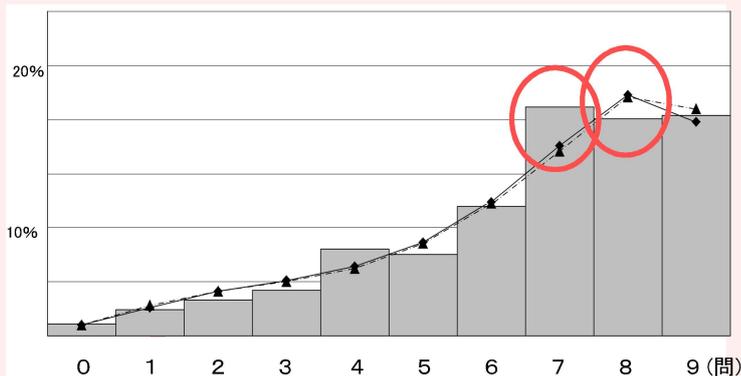


無解答率(何も書かなかった)は3.8%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が7問の生徒が特に多く
8問の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~4問)の生徒の割合は
19.0%でした。(全国は19.1%)

* 正答率80%以上(8~9問)の生徒の割合は
40.4%でした。(全国は42.1%)

領域別の正答率

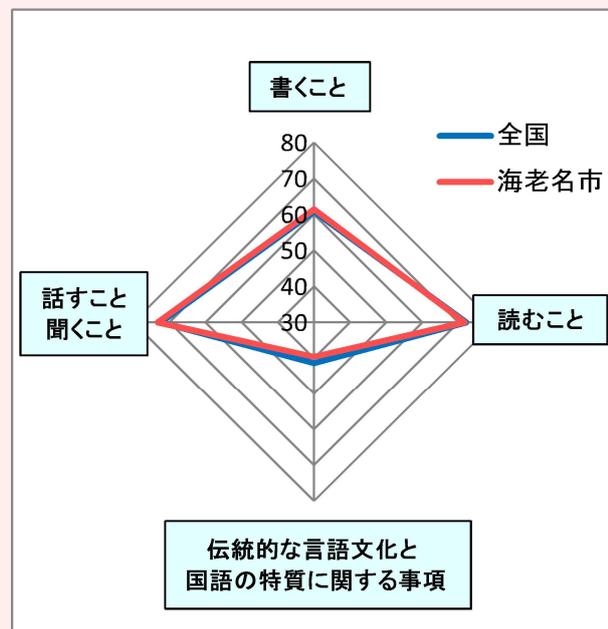
「話すこと・聞くこと」「書くこと」
が全国をやや上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	73.3	72.4	+0.9
書くこと	61.4	60.8	+0.6
読むこと	71.7	72.1	-0.4
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	39.6	41.4	-1.8

* 「話すこと・聞くこと」については、約1ポイント上回っていました。

* 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国的に正答率が低い状況ですがさらに1.8ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 文学作品を紹介する下書きを読んで、文の構成として適切なものを選ぶ。(+2.8)
	○ 2つの資料を読んで、太宰治と他の作家との関係を正しく書かれているものを選ぶ。(+1.3)
	○ スピーチ後にもらった友人の助言が何を伝えようとしているのかを選ぶ。(+1.2)

全国を下回った設問	○ 本の一部を読んで、比喩を用いた表現に着目しながら、条件にあわせて「心に残った一文」と「感想」を書く。(-1.8)
	○ 本の一部を読んで、文章中の示された部分が誰の言葉かを書く。(-1.2)

国語Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

本の一部を読んで、条件にあわせて文章を書く設問 (全国との比較-1.8)

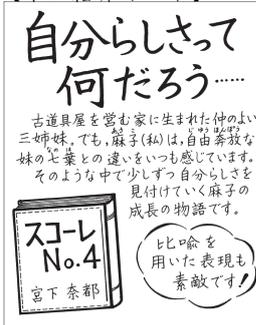
※ 図書委員の書いた「本の紹介カード」と「本の一部」を読んで

青山さんは【本の紹介カード】になる「比喩を用いた表現に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどを、あとの【読書の記録】に書いています。あなたなら【読書の記録】の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 〈心に残った一文〉は、【本の一部】から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2 〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。 正答は省略

【本の紹介カード】

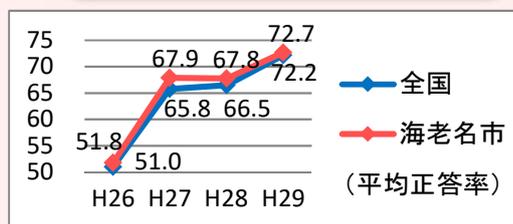


☆ 国語Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が7問の生徒が特に多く、8問の生徒が少ないことから、基礎的な知識を活用する力はおおむね身につけているが、さらに活用力を高める必要がある。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」の領域については、全国と比べて平均正答率が高く、目的に応じて資料を活用して問題解決する力について指導の成果が見られる。
- ◆ 記述式の設問では、これまでと同様に、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られる。

これまでとの比較



- ◆ 4年間とも全国を上回っているが、平成28・29年度はその差が徐々に小さくなっている。
- ◆ 平成26年度から3年間、全領域において全国を上回っていたが、平成29年度は2領域において下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「読む力を高める」ために
 - 学校図書館を利用して、文学作品に親しんだり新聞や雑誌を活用したりするように指導する。
 - 文章を読んで必要な情報を読み取ることと、根拠を明確にして自分の考えを書くことを複合的に指導する。

中学校数学A (主として「知識」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

数学に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。正負の数や文字式・方程式の計算、図形、関数、資料を整理する方法、確率などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.7ポイント上回っています

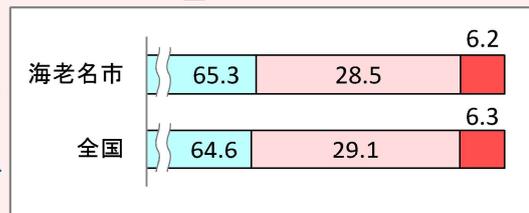
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
数学A	65.3	64.0	64.6	+0.7

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

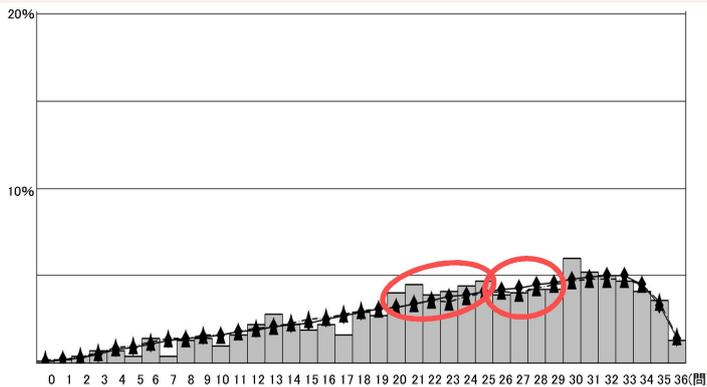


無解答率(何も書かなかった)は6.2%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が20~25問の生徒が多く
26~29問の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~18問)の生徒の割合は25.5%でした。(全国は28.2%)

* 正答率80%以上(29~36問)の生徒の割合は34.0%でした。(全国は33.5%)

領域別の正答率

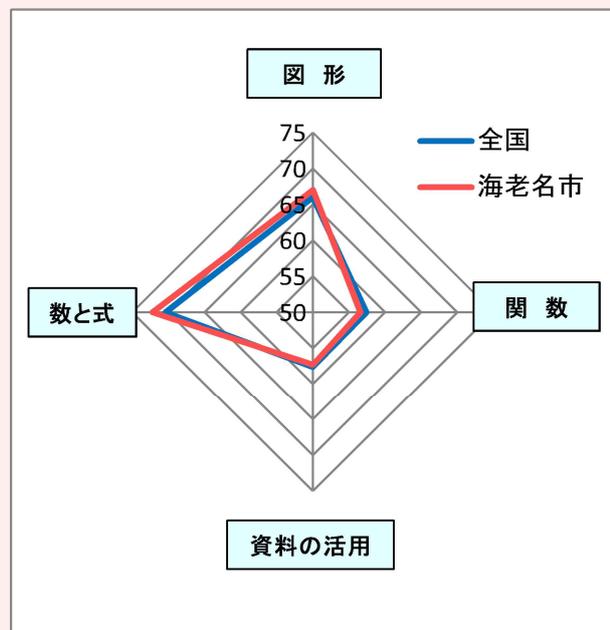
「数と式」「図形」が全国と比較してやや上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
数と式	72.2	70.4	+1.8
図形	67.0	66.0	+1.0
関数	56.6	57.4	-0.8
資料の活用	57.3	57.6	-0.3

* 「数と式」「図形」においては、1ポイント以上、上回っていました。

* 「関数」については、0.8ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った
設問

- 図を見て、示された角に対する錯角を選ぶ。(+8.3)
- 7人の反復横とびの結果を見て、記録の範囲を求める。(+5.4)
- 文字式の計算をする。
 $(2x+5y)-(6x-3y)$ (+5.3)

全国を下回った
設問

- 最高気温をまとめた表から、相対度数を求める。(-11.1)
- 示された直方体について、ある辺に対する平行な面を1つ選んで書く。(-9.5)
- 長方形の縦の長さとの面積の関係を「…は…の関数である」という形で書く。(-4.3)

数学Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

相対度数を求める設問 (全国との比較-11.1)

ある市の平成28年6月1日から30日までについて、日ごとの最高気温を調べました。右の度数分布表は、その結果をまとめたものです。
22℃以上24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。

正答 0.1

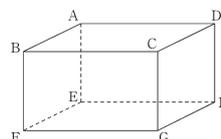
日ごとの最高気温

階級(℃)	度数(日)
以上 未満	3
22～24	8
24～26	7
26～28	6
28～30	5
30～32	1
32～34	1
合計	30

立体における「辺に平行な面」を求める設問 (全国との比較-9.5)

右の直方体には、辺CGに平行な面がいくつかあります。
そのうちの直方体の面を1つ選んで書きなさい。

正答 面ABFE または 面AEHD

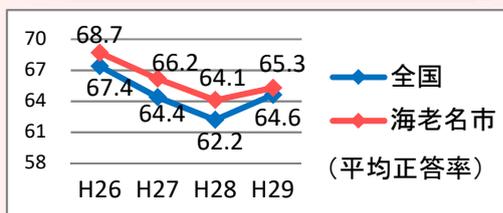


☆数学Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が20～25問の生徒が多く、26～29問の生徒が少ないことから、基礎的な力の定着を図る必要がある。
- ◆ 「数と計算」の領域については全国に比べて平均正答率が高く、正負の数や文字式の計算力がよく身につけている。
- ◆ 引き続き1年次の学習内容の定着に課題が見られ、特に「関数」「資料の活用」の領域については、既習事項を生かしながら問題を解決する指導の工夫が求められる。

これまでとの比較



- ◆ 4年間とも全国を上回っていて、平成28年度まで差が徐々に大きくなっていったが、平成29年度は差が小さくなっている。
- ◆ 平成26年度から3年間、全領域において全国を上回っていたが、平成29年度は2領域において下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「基礎的な力の定着を図る」ために
 - 既習事項を生かしながら問題を解決するように指導する。
 - 学習内容の定着を把握し、それに対応した指導を展開する。
 - 具体物やICT教材を活用するなどの数学的活動を取り入れ、指導する。

中学校数学B (主として「活用」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

数学に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。身近な事象について、文字式・平面図・表・グラフ・数量を求めるための手順などを利用しながら解決したり、説明したりする問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.5ポイント下回っています

《平均正答率(%)》

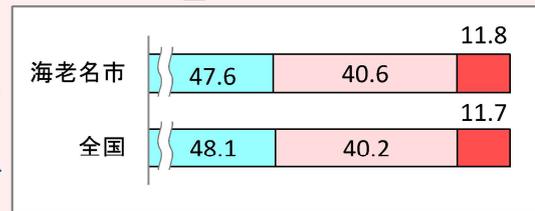
	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
数学B	47.6	48.0	48.1	-0.5

誤答の様子は…

分布の様子は…

《誤答の内訳(%)》

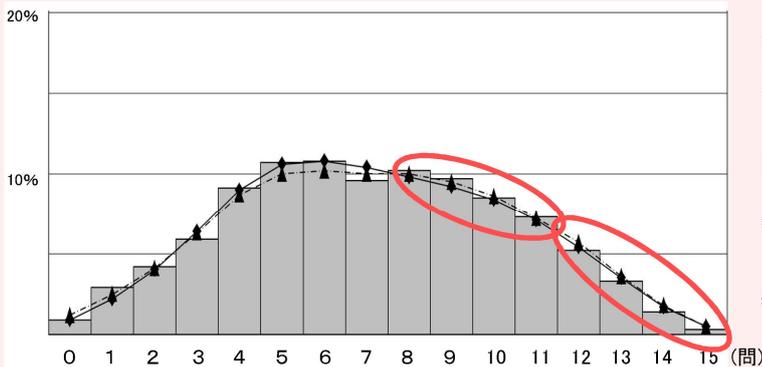
■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は11.8%でした。

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が8~11問の生徒が多く
12問以上の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~7問)の生徒の割合は
54.1%でした。(全国は54.2%)

* 正答率80%以上(12~15問)の生徒の割合は
10.1%でした。(全国は11.0%)

領域別の正答率

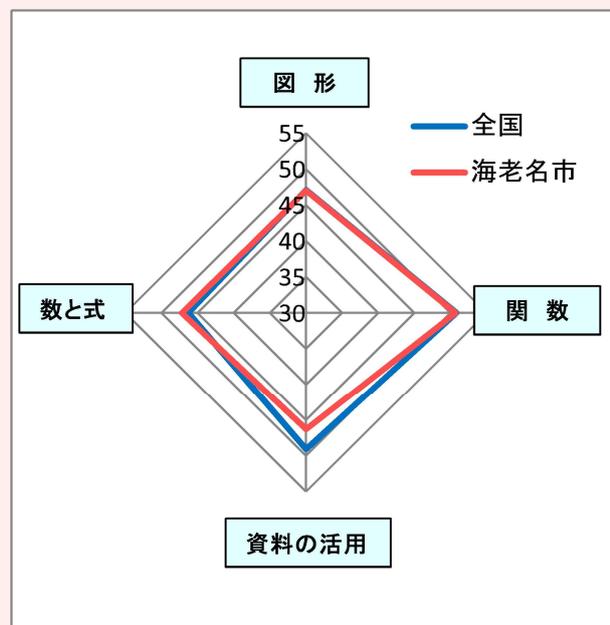
3領域において全国と比較して
やや下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
数と式	47.2	46.3	+0.9
図形	47.0	47.1	-0.1
関数	50.7	50.8	-0.1
資料の活用	46.3	49.1	-2.8

* 「数と式」については、0.9ポイント上回っていました。

* 「資料の活用」については、全国的に正答率が低い状況ですが、さらに2.8ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 2つの角の大きさが等しいことを三角形の合同を利用して証明する。(+7.6)
	○ ストローを並べてつながった六角形をつくる時、5個つくるために必要なストローの本数を求める。(+1.7)
	○ 節水量に関する「 $b=12a+5 \times 2$ 」という式について、 $3 \leq a \leq 5$ のときのbの変域を求める。(+0.8)

全国を下回った設問	○ 全校女子の運動量調査の結果から自分がどの位置にいるのかを調べるために使う値の名称を選ぶ。(-5.6)
	○ 正三角形の辺上を2点が動くときにできる角の大きさについて、正しいものを選ぶ。(-4.8)
	○ 万華鏡の中にできる模様から、どのような模様の正三角形を入れればよいか選ぶ。(-2.1)

数学Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

資料を読み取るための必要な値を求める設問 (全国との比較-5.6)

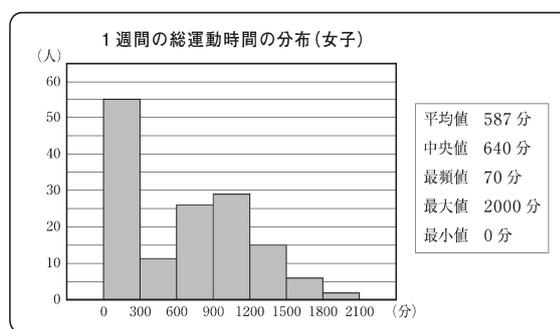
* 全校生徒の女子の1週間の総運動時間をまとめた表と右のグラフを見て

若菜さんの1週間の総運動時間は670分です。全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間より長い人が多いのか短い人が多いのかは、670分とある値を比べることでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア 平均値 イ 中央値
ウ 最頻値 エ 最大値
オ 最小値

正答 イ

若菜さんが調べたこと

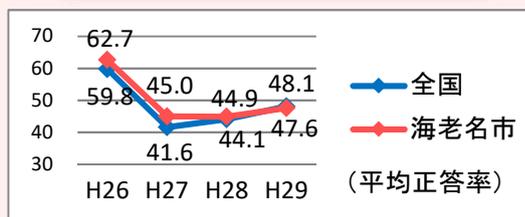


☆数学Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が8~11問の生徒が多く、12問以上の生徒が少ないこと、4領域中3領域で全国を下回ったことから、基礎的な力を生かして問題解決する力を高める必要がある。
- ◆ 平均正答率がこれまで常に全国を上回っていたが、その差が徐々に縮まり、今年度初めて下回ったことから、活用力を高める指導の改善が求められる。
- ◆ ほとんどの設問について無解答率が全国と比べて高く、学習内容の習得に二極化が見られることから、ひとりひとりに応じたいい指導を工夫する必要がある。

これまでとの比較



- ◆ 平成26年度から3年間、常に全国を上回っていたが平成29年度は初めて全国を下回っている。
- ◆ 平成26年度は全領域において全国を上回ったが平成27年度は1領域、平成28年度は2領域、平成29年度は3領域において全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「資料を活用する力を高める」ために
 - 表やグラフを作成したり読み取ったりすることによって問題解決する機会を多く取り入れる。
- ◆ 「ひとりひとりの活用力を高める」ために
 - 問題解決の時間や主体的な学習を保障するなどの指導の工夫を図る。



児童生徒質問紙調査結果

◆子どもたちの生活の様子

- ◇生活習慣
- ◇学習習慣
- ◇規範意識・自尊感情など
- ◇学校・学級生活
- ◇家庭・地域

◆子どもたちの学習の様子

- ◇言語活動について
- ◇学習についての関心・意欲・態度

◆クロス集計

- ◇教科に関する調査との関係（小学校・中学校）

◆ご家庭で協力していただきたいこと

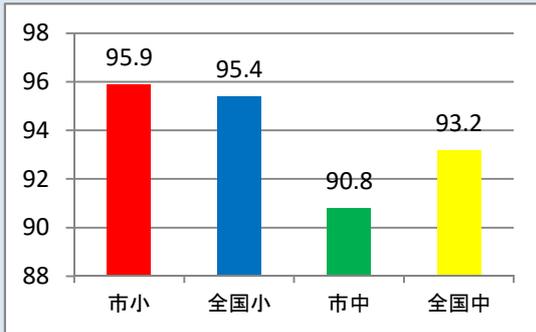


生活習慣

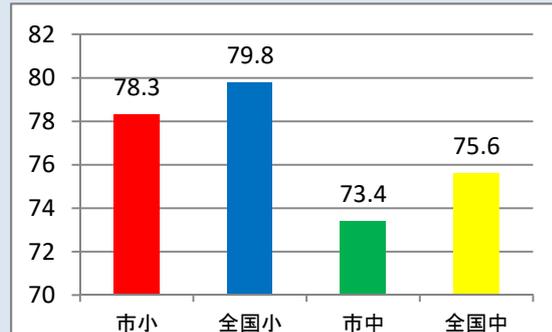
今年度の結果

○早寝・早起き・朝ごはんの習慣は、心身ともに健やかな成長につながるという認識が、定着しつつあります。今後も、家庭と連携し、子どもたちの生活習慣改善へ向け、取り組んでいく必要があります。

朝食を毎日食べている

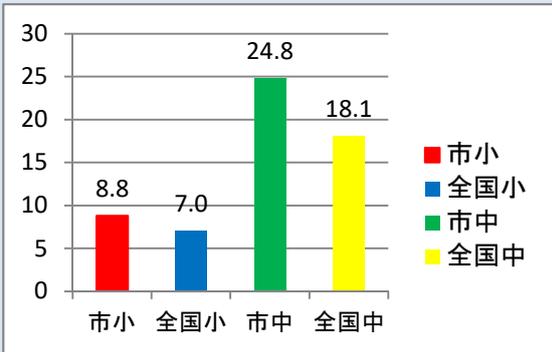


毎日同じくらいの時間に寝ている

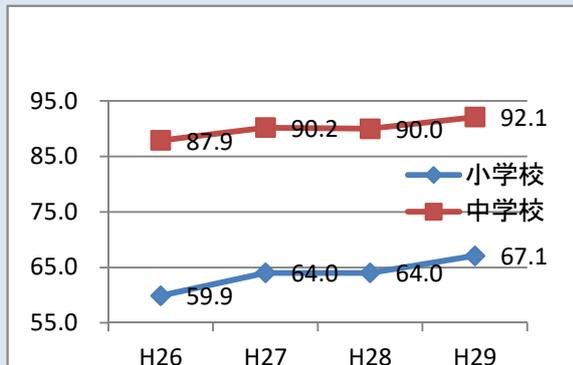


※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を足した数値で示しています。

普段(月～金曜日)、1日当たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを3時間以上している

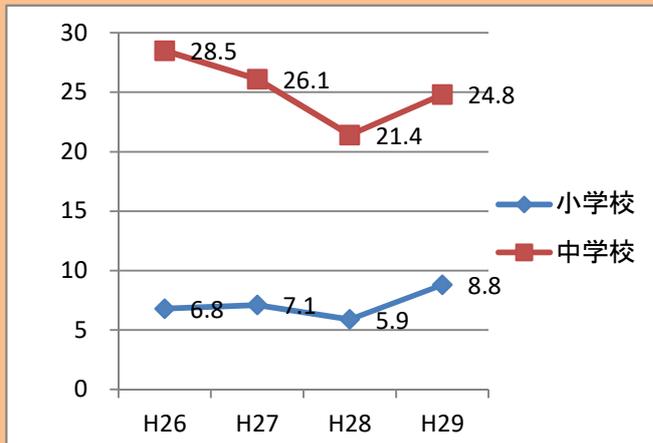


携帯電話・スマートフォン所持率 ＜経年推移＞



4年間の比較

普段(月～金曜日)、1日当たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを3時間以上している



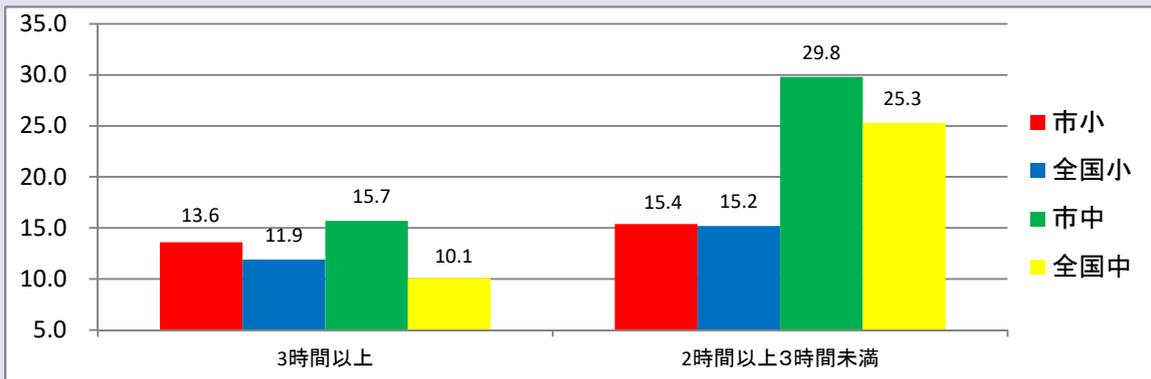
◎携帯電話・スマートフォンの利用時間については、長時間利用している児童生徒の割合が増加(中学生では4人に1人)に転じています。所持率の増加に伴い、各家庭でのルール作り等について、所持し始める小学校段階からの周知徹底を図る必要があります。

学習習慣

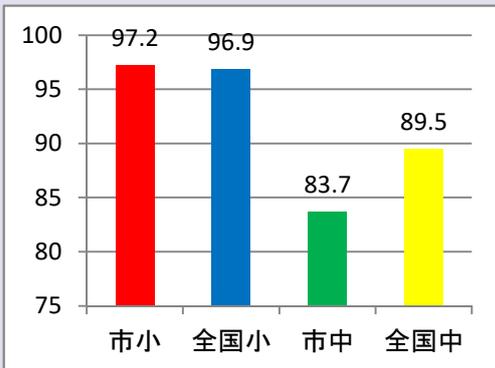
今年度の結果

○家庭学習については、内容、状況等を把握し、家庭の協力を得ながら、学校における指導につなげる必要があります。

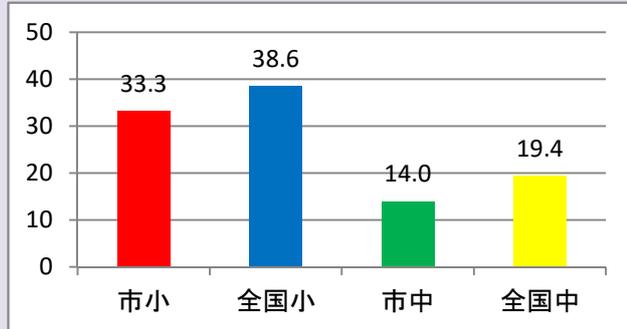
普段(月～金曜日)、1日当たり、学校の授業以外に勉強する時間(学習塾、家庭教師も含む)



家で学校の宿題をする



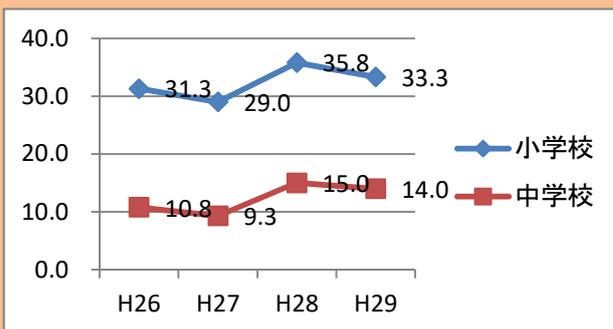
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・図書室・地域の図書館に行く(月1回以上)



※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を足した数値で示しています。

4年間の比較

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・図書室・地域の図書館に行く(月1回以上)



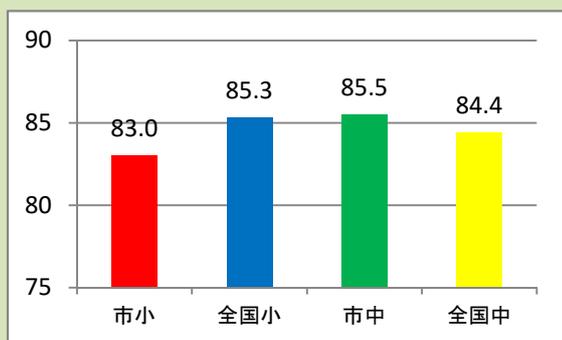
◎学校の図書室や図書館を利用については、今後も積極的な利用を図るため、学校と家庭が連携、協力して取り組む必要があります。

規範意識・自尊感情など

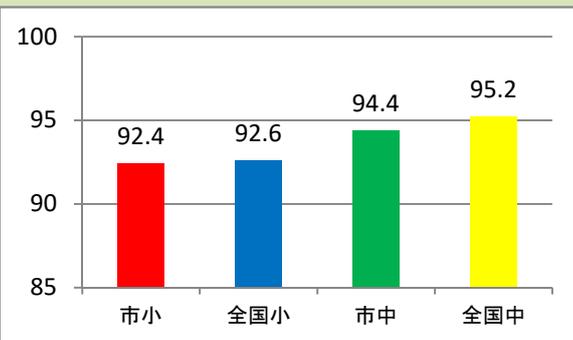
今年度の結果

○規範意識・自尊感情については、昨年度に引き続き、比較的良好です。

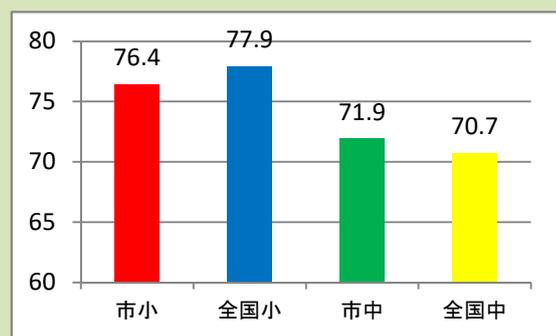
人が困っている時には進んで助ける



学校のきまりを守る



自分にはよいところがあると思う



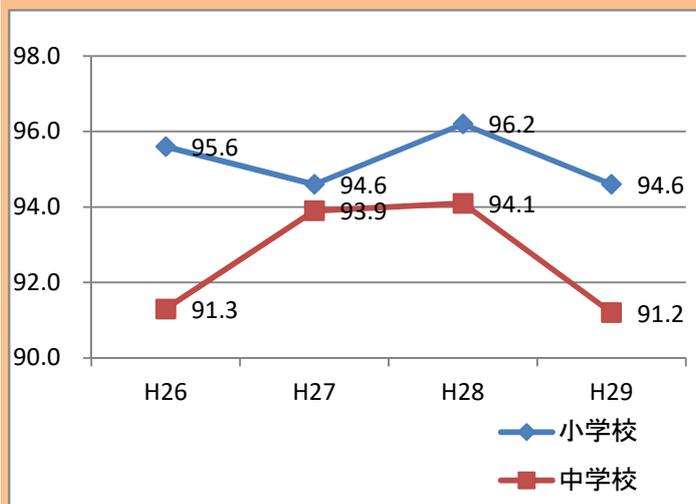
いじめは、どんなことがあってもいけない



※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を足した数値で示しています。

4年間の比較

いじめは、どんなことがあってもいけない



◎「いじめはどんなことがあってもいけないこと」「ふざけやからかいもいじめに含まれること」などの指導を引き続き徹底するとともに、今後も、「いじめ」を広義に捉え、未然防止や早期発見、早期対応に努める必要があります。

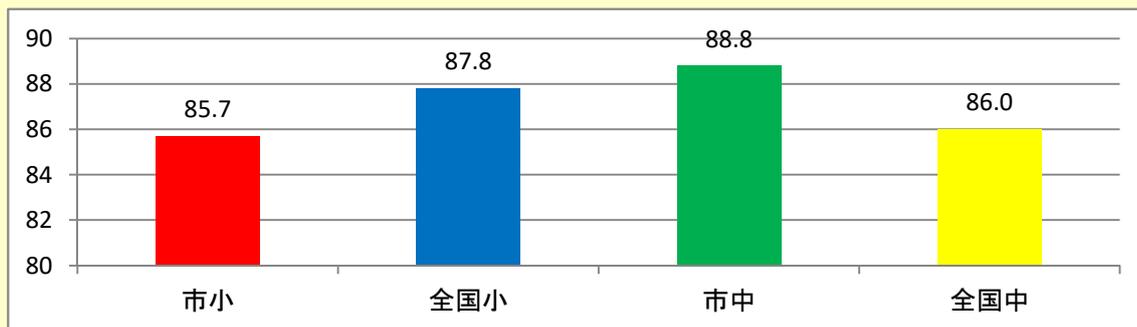
※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を足した数値で示しています。

学校・学級生活

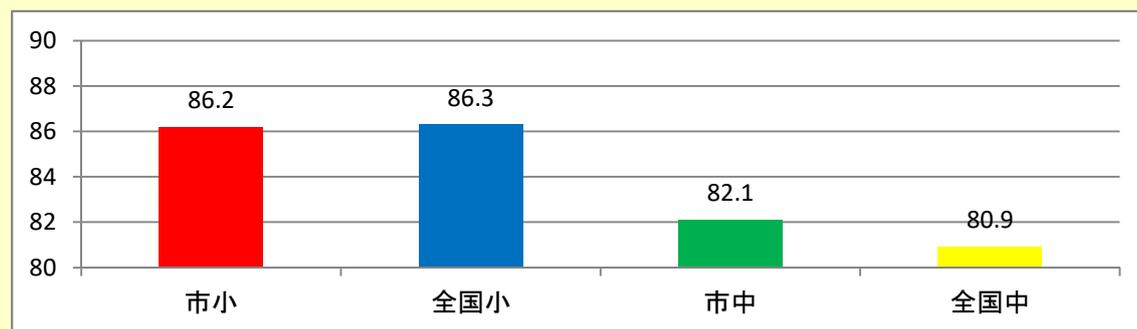
今年度の結果

○学級みんなで協力して何かをやり遂げたり、話し合ってきたりなどを決めたりすることが、学校生活の充実につながっています。

学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある



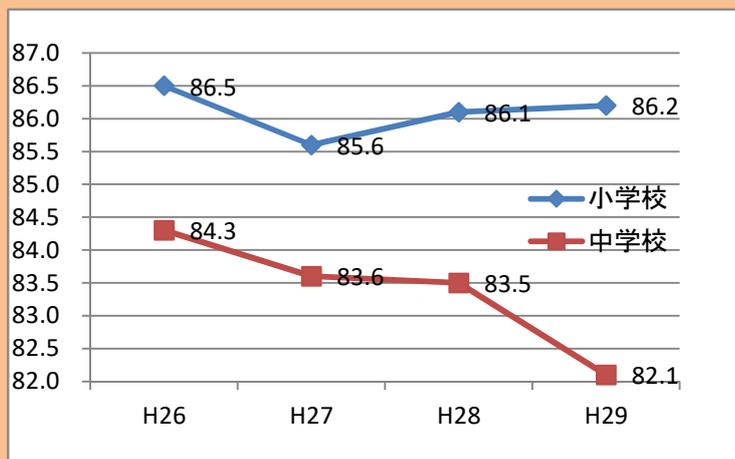
学校に行くのは楽しいと思う



※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を足した数値で示しています。

4年間の比較

学校に行くのは楽しいと思う



◎過去4年、8割以上の児童生徒が、「学校に行くのは楽しい」と感じています。しかし、そう思っていない、児童生徒が2割程度いるという事実を受けとめ、今後も、一人ひとりの個性や思いに寄り添った、児童生徒理解や支援に努めていく必要があります。

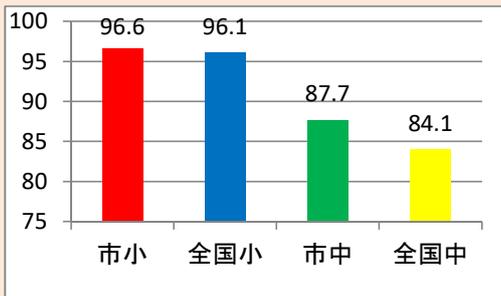
※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を足した数値で示しています。

家庭・地域

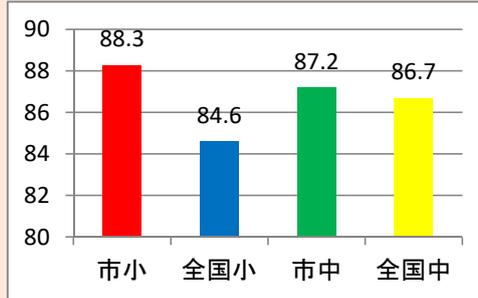
今年度の結果

○学校教育活動に対する家庭の関心は高く、協力的です。家族と一緒に地域の行事やボランティア活動等に参加しましょう。

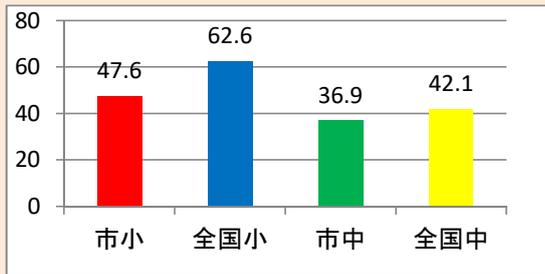
家の人が授業参観・運動会等の学校行事にきている



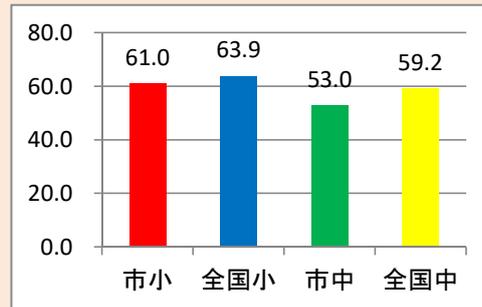
ニュース(テレビ・インターネット等)を見る



今住んでいる地域の行事に参加している



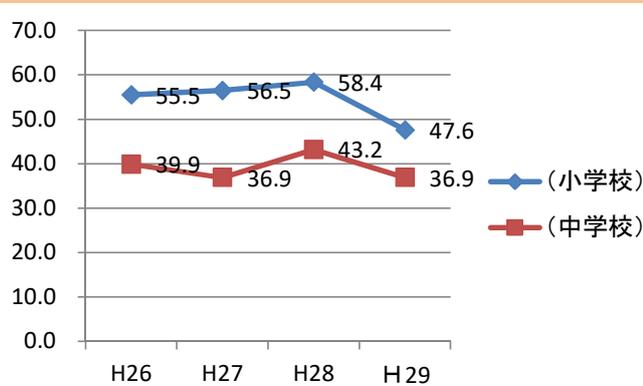
地域や社会の出来事に関心がある



※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を合計した数値で示しています。

4年間の比較

今住んでいる地域の行事に参加している



◎児童生徒は、社会への関心が高い一方で、地域の行事への参加は、全国に比べ、下回っています。

学校・家庭・地域が連携し、積極的に、地域の行事等への参加を促していく必要があります。

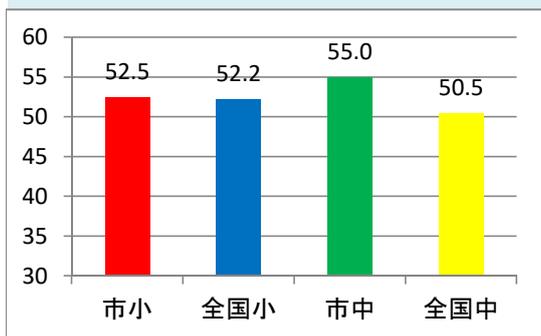
※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を合計した数値で示しています。

言語活動について

今年度の結果

○言語活動等を通して、お互いを「認め合う」意識が育っています。考えを伝えたり、話を聞いたりして、自分の考えを深めることができます。

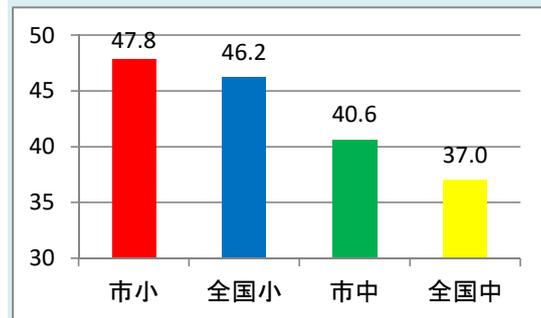
友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意



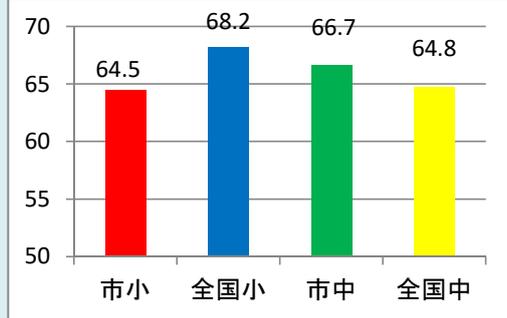
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる



授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない



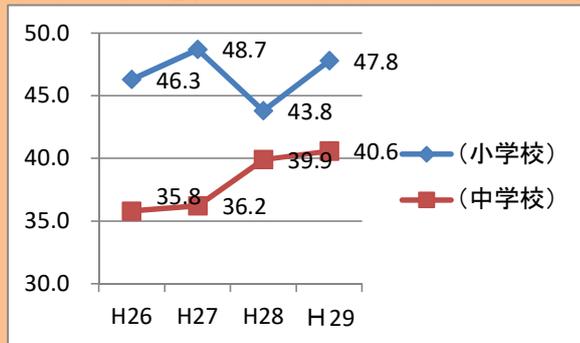
話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか



※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を合計した数値で示しています。

4年間の比較

自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない



◎自分の考えを伝えるために、文章に書いて表現することや発表したり説明したりすることへの意識が高まっています。学習場面だけでなく、学校生活全般において、日常的に、言語活動の取組を継続する必要があります。

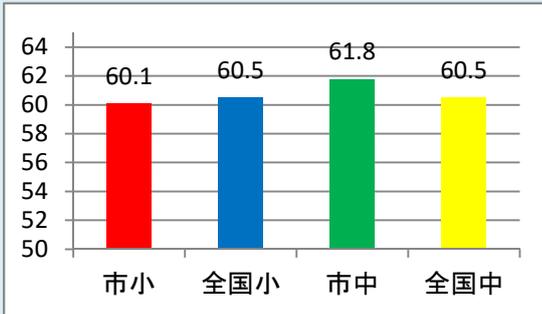
※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を合計した数値で示しています。

学習についての関心・意欲・態度

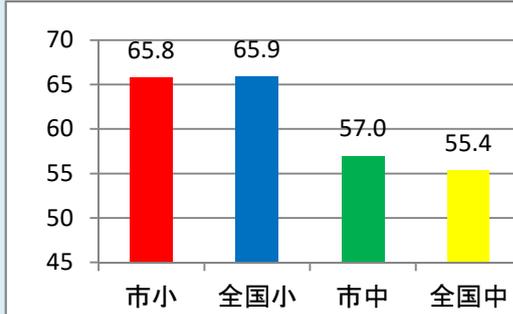
今年度の結果

○国語・算数(数学)の勉強が好きであると回答した児童生徒の割合は、高くなっています。今後は、主体的、対話的で深い学びが得られるよう指導していく必要があります。

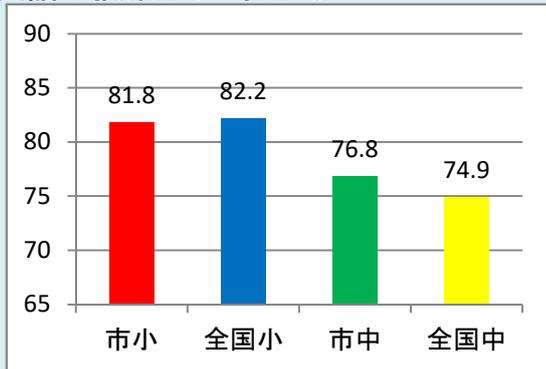
国語の勉強が好き



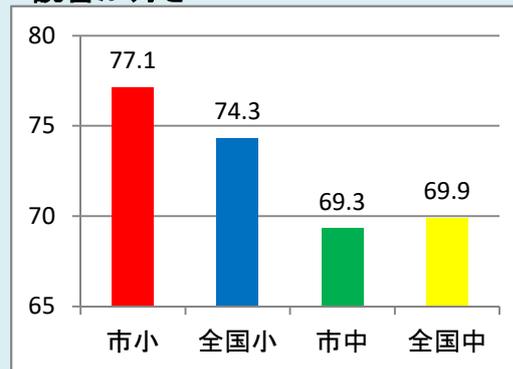
算数・数学の勉強が好き



国語の授業がよくわかる



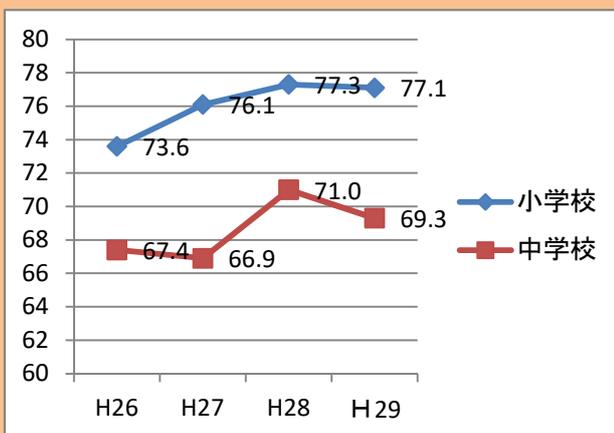
読書が好き



※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を合計した数値で示しています。

4年間の比較

読書が好きですか



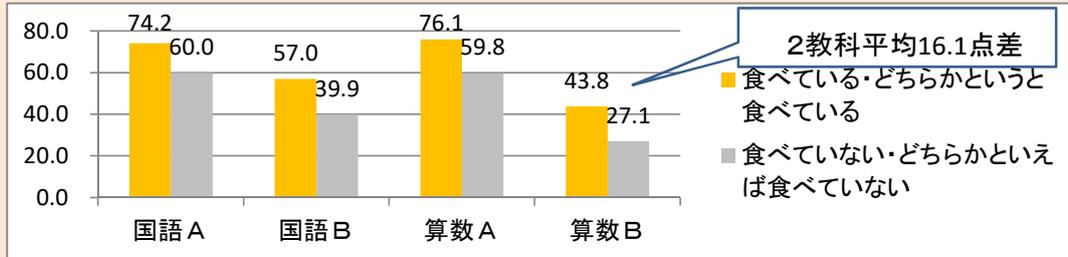
◎児童生徒の読書への関心が高いことがうかがえます。これは、朝読書の取組、学校図書館の充実によるものと考えられます。今後は、さらに、調べ学習や自主学習における、学校図書館や市立図書館の積極的な活用を図っていく必要があります。

※グラフは、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答率を合計した数値で示しています。

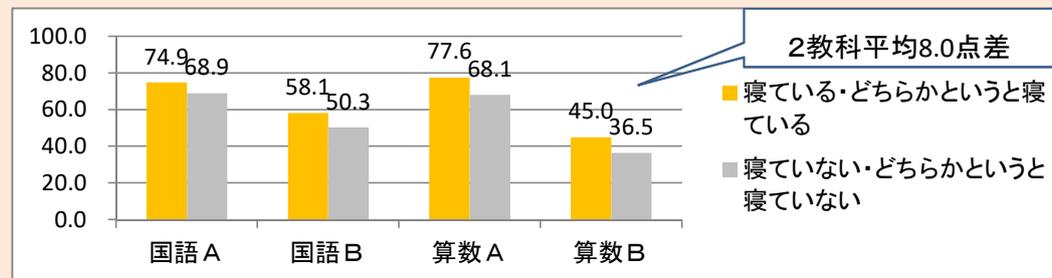
教科に関する調査との関係（小学校）

○生活習慣は学習成果と密接に関連していることがわかります。特にゲームは家庭内で約束・時間を決めて遊ぶことが大切です。

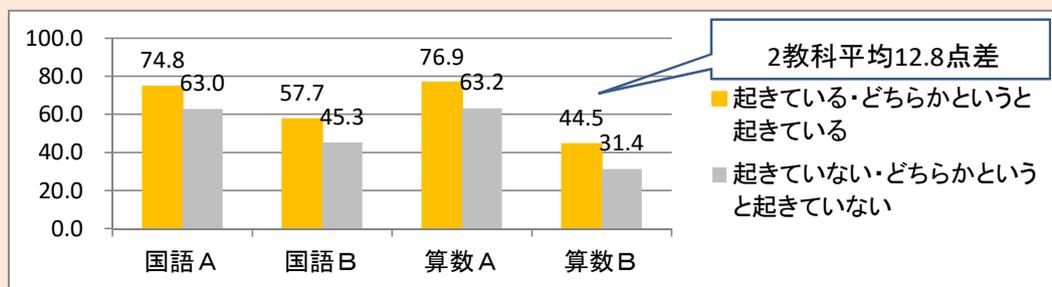
「朝食を毎日食べている」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



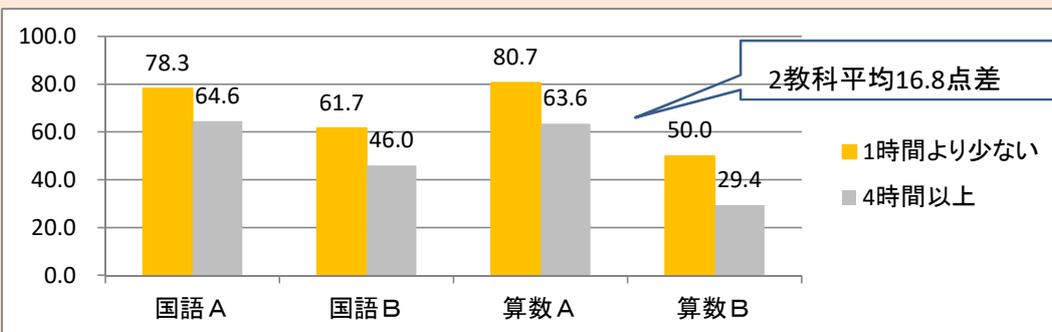
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という質問と平均正答率との関係

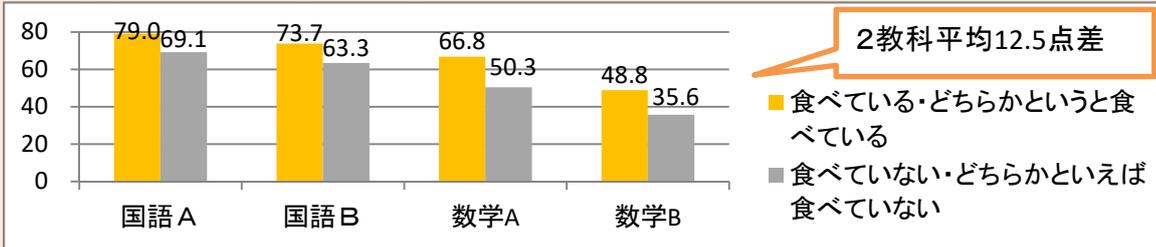


教科に関する調査との関係（中学校）

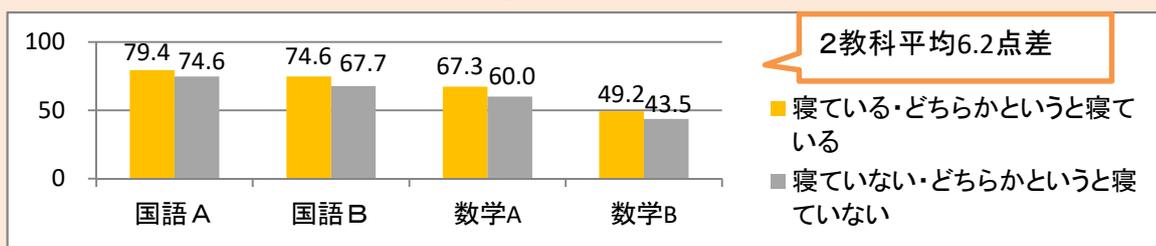
○基本的な生活習慣と学習成果の間には、例外なく、密接な関係があることがわかります。

◇「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化や、ケータイ・スマホの利用時間のルール作りなどには、家庭の理解や協力が不可欠です。

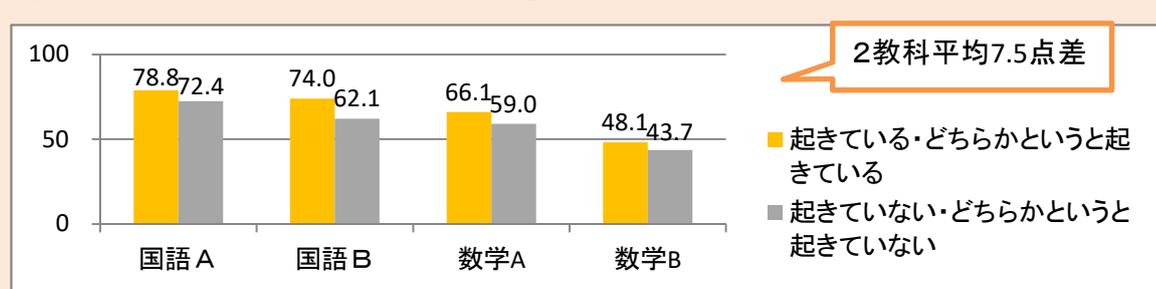
「朝食を毎日食べている」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



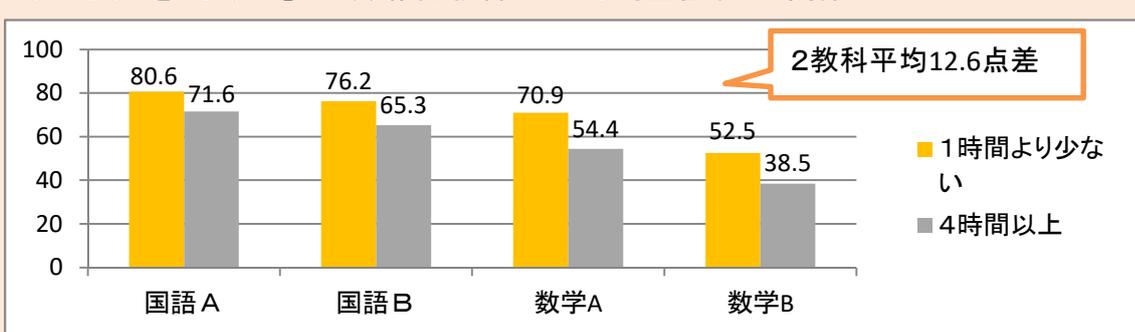
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」という質問と教科ごとの平均正答率との関係



**テレビ、ゲーム、携帯電話・スマートフォンは、
時間とルールを決めて使いましょう。**

携帯電話等を所持する児童生徒は、年々増加しています。
情報モラル等についても家族で話し合いましょう。

家庭学習は時間を決めて、毎日行いましょう。

宿題（予習・復習）を中心に、計画的に取り組み
ましょう。

授業参観や学校の行事に参加しましょう。

子どもの頑張る姿を見て、たくさんほめましょう。

地域の方々と顔が見える「つながり」を作りましょう。

地域の行事等に関心を持ち、家族で進んで参加しましょう。

**ご協力を
お願いします！**





学力向上のための「8つの教育施策」について



平成 29 年 12 月

海老名市教育委員会



1

少人数学級・少人数指導のための教員を配置します

ひとりひとり子どもの学力に応じたきめ細かな指導を目的として、市費で非常勤教員を配置して、35人以下の学級や少人数での学習指導を行っています。



他市に先駆けて、平成17年度からスタートし、平成29年度は市費で小学校4名、中学校2名の非常勤教員を配置しています。

平成29年度予算
1,711万2千円

2

補助指導員を配置します

個別の学習支援が必要な子どものために、市費で教員資格を持つ指導員を配置しています。



平成23年度から、小中学校全19校に各校1名の指導員を配置して、子どもの特性や学力に応じた、個別の学習支援を行っています。

平成29年度は、小学校347名、中学校90名の子どもの支援を行っています。

平成29年度予算
3,147万4千円

3

教員の研修・研究を推進します

教員の指導力を高めるために、指導法講座などの研修会を開催しています。また、各学校での校内研究会をサポートしています。



毎年、小学校2校、中学校1校を研究校に指定し、研究の成果を次の年に「ひびきあう教育研究発表大会」で報告しています。

平成29年度の研究校は、有馬小学校、杉久保小学校、大谷中学校です。

平成29年度予算
1,321万3千円

4

コンピュータ利用教育を推進します

わかりやすく楽しい授業を展開するために、コンピュータを利用した教育を進めています。



各学校に、学習用パソコン、大型テレビ、電子黒板、プロジェクタなどのICT機器を整備し、活用しています。

平成29年度は、中学校2年生の教室に電子黒板機能付きプロジェクタを設置しました。

平成29年度予算
1億8,995万7千円

5

授業の改善に取り組んでいます

平成27年度より、「授業改善の手引き」を活用して市内の全小中学校で、授業の改善に取り組んでいます。



教育委員会の指導主事が学校を訪問して、よりよい授業づくりについて全教職員と話し合いをしています。

平成29年度は、小学校6校、中学校3校を訪問しています。

6

「学校応援団」による学校支援を進めています

平成27年度より、小学校に「学校応援団」を設置し、地域の方々の力により子どもと学校を支援する取組を進めています。



「学校応援団」では、学校の授業や行事の支援、学校環境の整備などを行うとともに、「えびなっ子スクール」や「あそびっ子クラブ」などの運営を行っています。

平成29年度予算
4,032万9千円

7

学習支援ボランティアを充実します

学習支援ボランティアを募集し、授業での学習支援や「まなびっ子クラブ」を行っています。



これまで、多くの学習支援ボランティアに、子どもや学校を支援していただいています。

平成29年度の派遣回数は、10月末現在で1,458回です。

平成29年度予算
240万5千円

8

小中一貫教育を推進します

平成29年度から全中学校区で、子どもを9年間で指導・支援する「小中一貫教育」に取り組んでいます。



中学校区ごとに共通の目標を定め、その達成にむけて小中学生の交流や教職員の話し合いなどを進めています。

平成29年度予算
1,813万9千円



平成 29 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成 29 年 12 月
海老名市立海老名小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 基本的な知識について、概ね理解しています。
- ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができています。
- 古文における言葉の響きやリズムを捉えながら読むことができています。
- 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことができています。

《努力を要する所》

- 文や文章の中で、日常的にあまり使わない既習の漢字を正しく書くことにやや課題があります。
- 手紙の書き方では、後付けなど基本的な形式の理解にやや課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、文中の言葉を引用してまとめたりすることができています。
- 物語を読み、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることができています。

《努力を要する所》

- 自分の考えを目的や意図に応じて、簡潔にまとめて書くことに課題があります。
- 話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことにやや課題があります。

これまでの取組から

- 低学年からの音読指導の積み重ねにより、言葉のまとまりやリズムが捉えられ、語彙力を豊かにすることにつながっています。
- 物語に描かれた行動や会話など複数の叙述を関連づけて読む指導を重ねたことにより、登場人物の相互関係や心情などの描写を捉える力が備わってきています。引き続き指導を積み重ねていきます。

今後の具体的な取組について

- 自分の考えを分かりやすく説明したり、場に応じた言葉遣いで会話をしたりする活動を多く取り入れ、表現力を高めていきます。
- 国語の学習と他教科の学習を互いに生かし、手紙の基本的な書き方が定着していくように指導していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 算数全般において基本的な知識を概ね理解しており、正答率も高いです。
- 四則計算が、正確に答えることができます。
- 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線等に表すことができます。
- 平行四辺形と三角形の面積の求め方は、図形の性質とともに理解しています。
- 目的に応じて資料を分類整理し、特徴を調べることに優れています。

《努力を要する所》

- 未知の数量を表す口を用いて、問題場면을式に表すことにやや課題があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じて、複数の情報の中から必要なことを選択し、問題解決の方法を数学的に表現することができます。
- 示された条件を基にして、適切な式を立てることに優れています。
- 飛び離れた数値を除いた場合の平均の求め方を理解することができます。

《努力を要する所》

- 日常生活の事象を、表やグラフの特徴を基に考察したり、表現したりすることに課題があります。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断することに課題があります。

これまでの取組から

- 四則計算等、基本的な知識・技能の繰り返しの学習を継続してきたことが、学習内容の定着につながっています。
- 主体的な学習を目指して校内研究として取り組んできたことが、学習の中で児童が筋道立てて考え説明し、互いに深めていく力につながっています。

今後の具体的な取組について

- 学習内容を既習事項や日常生活と関連づけて考えたり具体物を提示したりしながら、問題場面をイメージして解決できるように、今後も指導を工夫していきます。
- 自分の考えの根拠を明確にし、分かりやすく書いたり説明をしたりする学習を他教科等でもさらに進めていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「学校に行くのが楽しい」と答える児童が全国平均より高く、学級のみinnで協力してやり遂げることに喜びを感じています。
- ほとんどの児童が家庭学習（含・宿題や学習塾等）をし、授業の予習もしています。また、土日など学校の休みの日にも学習に取り組んでいます。
- 読書が好きな児童は約8割で全国平均より高いです。また、日常生活で30分以上読書をする児童は5割に達しています。
- 算数では、新しい問題に出合った時、それを解いてみたいと思う児童が多く、また解き方がわからない時も諦めずにいろいろな方法で考えることができています。

《課題と思われる所》

- 自分の考えを説明したり文章に書いたりすることに苦手意識を持っている児童が見られます。

生活について

《よかった所》

- 多くの児童が毎日朝食をとり、規則正しい生活を送っています。
- 平日のテレビやゲームをする時間が1時間未満の児童の割合が高いです。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている割合が全国平均より高いです。
- 新聞を読んだりテレビやインターネットのニュースを見たりする割合が全国平均より高く、地域や社会で起きている問題や出来事に関心があります。
- 学校のきまりや友だちとの約束を守ることが意識して生活している児童が多いです。

《課題と思われる所》

- 地域の行事に参加している、地域や社会のボランティア活動に参加したことがあると答えた児童の割合が、全国平均より低い傾向にあります。

これまでの取組から

- 「挨拶運動」や「えびなっ子の約束」等をもとに、保護者・地域の方々の協力を得て進めてきたことが、基本的な生活習慣の定着や規範意識の高まりにつながっています。今後も引き続き進めていきます。
- 学校図書館支援員との連携を深める等、読書活動を推し進めたことが、読書への関心の高まりや活発な図書館利用へとつながっていると考えます。今後も引き続き進めていきます。

今後の具体的な取組について

- 児童一人ひとりの努力の過程を大切に、認め・褒め・励ましを行うことで、今後も前向きな心で生活できるよう支援していきます。
- 「総合的な学習の時間」・「生活科」や「特別の教科道徳」等を通して、地域社会の所属意識を高め、地域行事への参加を積極的に促していきます。



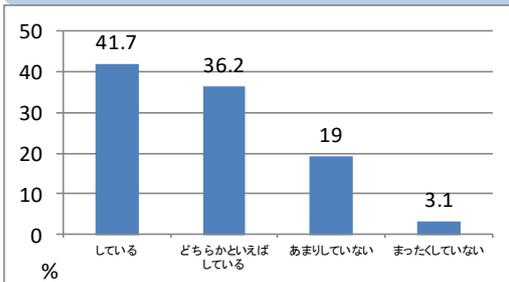
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 「早寝・早起き・朝ごはん」を続けましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」等、規則正しい生活習慣は、学習意欲・体力・気力の向上につながります。

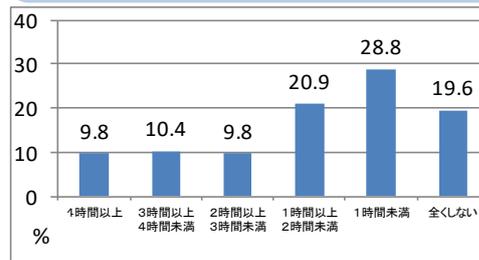
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



2 時間の使い方を話し合い、ルールを決めましょう。

長時間のゲームは生活リズムの乱れにつながります。時間の使い方を見直し、ルールを決めましょう。

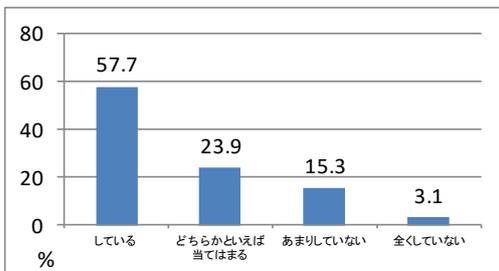
普段一日どれくらいの時間ゲームをしますか。



3 家族との会話を大切にしてください。

家庭で、何でも相談でき、話し合える関係が、心の安定と成長につながります。

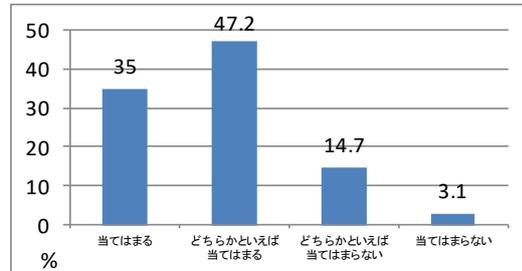
家の人(兄弟姉妹は含みません)と学校での出来事について話をしますか。



4 努力する気持ち・挑戦する気持ちを大切にしましょう。

挑戦することで可能性が広がっていきます。失敗を恐れずに取り組んでみましょう。

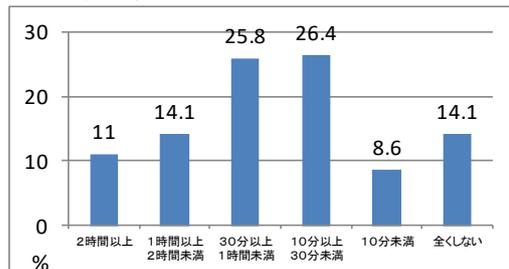
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。



5 本に親しみましょう。読書は心の栄養です。

読書は、豊かな心と感性を育み、考える力や表現力、想像力を伸ばします。

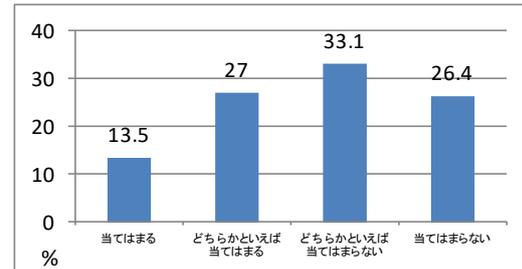
授業以外に、普段どれくらいの時間、読書をしますか。

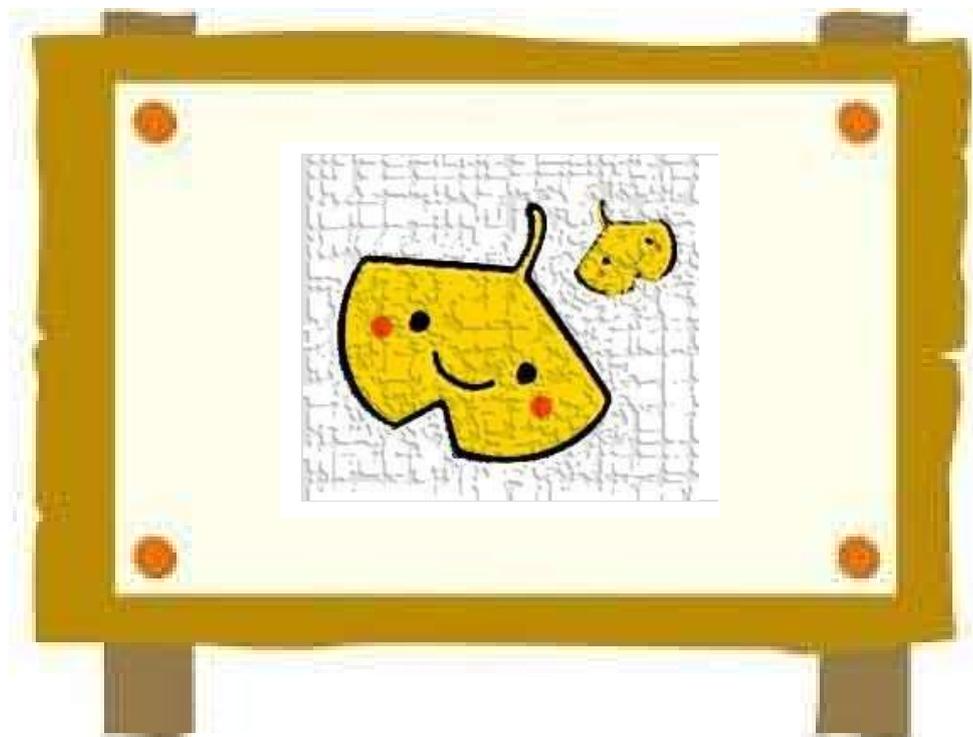


6 地域の方々とのつながりを大切にしましょう。

子どもたちは地域の中で育ちます。地域の行事に参加し、交流の輪を広げていきましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



あいさつの日時計

平成29年12月
海老名市立柏ヶ谷小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家的人是、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことは、相当数の児童ができています。

【今年度出題】・申しこみ期限
・指示 ・事務室

○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることは、相当数の児童ができています。

【今年度出題】・三度目の正直
・もちもち屋

《努力を要する所》

○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題がある。

【今年度出題】・きぼう者
・参加たいしょう
・箱がおいてある

○互いに話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことに課題がある。

【考察】

◆漢字を正しく書くことに課題があり、確実に習得するための指導の工夫が求められる。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○目的や意図に応じて、適切な言葉遣いで話したり、構成を考えたりすることは、相当数の児童ができています。

○話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉えることは、相当数の児童ができています。

《努力を要する所》

○目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題がある。

○物語を読み、感想を伝え合う中で具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめることや、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。

【考察】

◆自分の考えをまとめたり、必要な内容を整理したりして書くことに課題があり、指導の工夫が求められる。

これまでの取組から

- 漢字の確実な習得のために、漢字の読み書きの機会を多く設定するとともに、家庭学習としても取り組み、習熟度の向上を図ってきました。
- 相手に伝わる話し方や、目的や意図に応じた話し方ができるよう、朝の会のスピーチ等の話す機会を設定し、話す活動の充実を図ってきました。

今後の具体的な取組について

- 漢字の確実な習得をめざすために、習熟度の確認をしながら、習得した漢字の読み書きの機会を多く設定し、計画的に指導していきます。
- 自分の考えをまとめるときには理由を明確にすること、必要な内容を整理して書くときには具体的な事実と自分の意見などを区別することを、重点課題として指導していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 整数の乗法の計算(123×52)や小数と整数の加法の計算($10.3 + 4$)を正しく計算することは、相当数の児童ができています。
- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解したり、小数の乗法の計算において、乗法を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解したりすることは、相当数の児童ができています。

《努力を要する所》

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算($6 + 0.5 \times 2$)をすること、商を分数で表す($5 \div 9$ の商)ことに課題がある。
- 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解することに課題がある。

【考察】

- ◆全問(15問)正答する児童が少ないことから、基礎的な学力の確実な定着を図る必要がある。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 測定値の平均を正しく求めることや、示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことは、相当数の児童ができています。

《努力を要する所》

- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。
- 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。

【考察】

- ◆求め方や判断の理由を記述する問題(出題例: ~を言葉や式を使って書きましょう。)の正答率が低いことから、説明する活動の指導の工夫が求められる。

これまでの取組から

- 基礎的・基本的な計算技能については、継続的な指導とともに、家庭学習としても取り組み、低学年の計算は定着してきています。
- 新しい問題に取り組む際、既習学習の内容を手がかりに、自分で考えたり説明したりする学習活動の充実を図ってきました。

今後の具体的な取組について

- 基礎的な学力の確実な定着を図るために、日常的に計算の反復練習を行うとともに、既習学習の振り返りを随時行っていきます。
- 根拠となる考えを基に、言葉や式を使って論理的に考えたり説明したりする活動のさらなる充実を図ります。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 読書活動の充実
本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に行く児童が相当数いる。
- 学習習慣の定着
学校の宿題を毎日する児童や、予習をしている児童が相当数いる。

《課題と思われる所》

- 学習方法の工夫
自分で計画を立てて勉強することに課題がある。
- 言語活動
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることに課題がある。

生活について

《よかった所》

- 規範意識
学校のきまりを守っていると答えた児童が相当数いる。
- 国際交流
外国の人と友達になったり、外国についてもっと知ったりしてみたいと思う児童が相当数いる。

《課題と思われる所》

- 生活習慣
就寝時刻の不規則な児童が増加傾向にある。
- 地域や社会とのかかわり
地域の行事に参加したり、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもって過ごしたりすることに課題がある。

これまでの取組から

- 学校図書館支援員による図書室の環境づくりや調べ学習の推進活動により、図書室の利用率と本の貸出率が高くなり、読書活動が充実してきています。
- 家庭学習の手引きを作成し、児童と保護者に示すことにより、家庭学習が毎日の習慣として定着してきています。

今後の具体的な取組について

- 基本的な生活習慣の定着に向け、家庭での時間の使い方について情報発信するとともに、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、学校と家庭が連携しながら指導していきます。
- 話し合い活動の充実に向け、各教科や学級活動での話し合いの機会を増やし、効果的な話し方や聞き方を指導していきます。



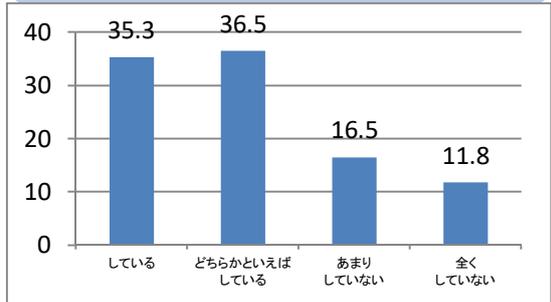
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ始めてみてください。

1 規則正しい生活習慣を身につけましょう。

就寝時刻を決め、十分な睡眠時間と質の高い睡眠を確保しましょう。

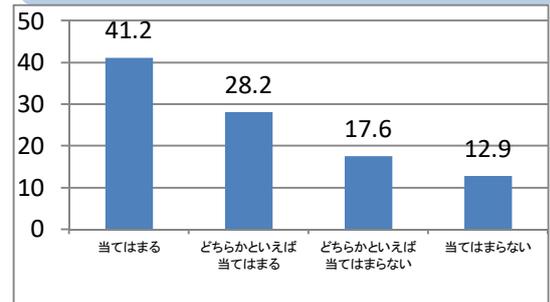
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



2 子どものよさを認めて褒めましょう。

自尊心が高まり、自信をもって行動できるようになります。

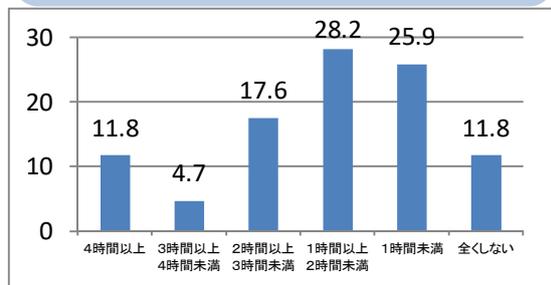
自分には、よいところがあると思いますか。



3 テレビゲームなどの遊びは、時間を決めましょう。

家庭内でよく話し合い、ゲームをする時間や約束を決め、守るようにしましょう。

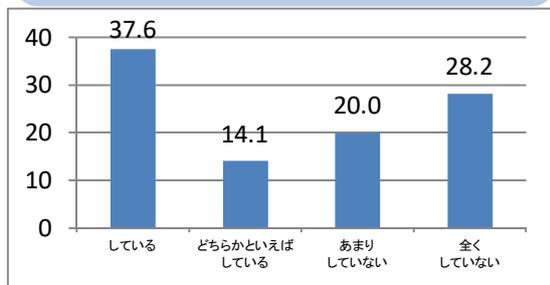
普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム(コンピュータ・スマホ等含む)をしますか。



4 テレビやビデオ、DVDなどの視聴は時間を決めましょう。

長時間の視聴は、目の健康を害します。時間を決めて見るようにしましょう。

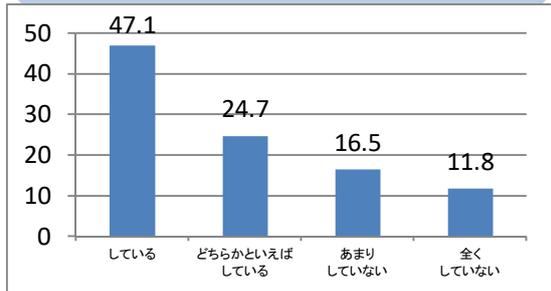
テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。



5 コミュニケーションを大切にしましょう。

お子さんとたくさん話をし、絆を育みましょう。傾いてもらえるだけでも安心感をもつことができます。

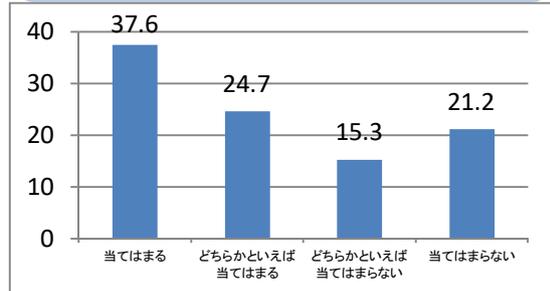
家の人と学校での出来事について話をしますか。



6 地域や社会の出来事に関心をもちましょう。

行事に参加することを勧めたり、家族で足を運んだりして、地域行事にも積極的に参加しましょう。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。





おもいやりの塔



平成29年度
全国学力・学習状況調査の
結果について



平成 29 年 12 月

海老名市立有鹿小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
学校生活以外の児童の現状	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネット

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「話す・聞く」能力が優れています。
互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合えることができます。
- 「読む」能力が優れています。
目的に応じて、与えられた情報から必要な情報を取り出して、読むことができます。
- ことわざの意味を理解して表現することがよくできています。

《努力を要する所》

- 「書く」能力がもう少しです。
手紙の構成を理解し、目的や意図に応じて適切なものを選択することに課題が見られます。
- 「言語についての知識・理解」がもう少しです。
漢字を、「正しく読むこと」、「正しく書くこと」に課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話す・聞く」能力が優れています。
目的に応じて、適切な言葉遣いを考えたり、話の構成を工夫して話したりすることができます。
- 「書く」能力が優れています。
目的に応じて、文章全体の構成を考え、必要な内容を整理して書くことができます。



《努力を要する所》

- 目的や意図に応じて、話の構成や内容の工夫をして話すことはできていますが、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことはもう少しです。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られます。

これまでの取組から

- 物語や説明文を読んだ後に感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導の充実を図ってきました。
- 漢字の読み書きが正しくできるように、また、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身につくように指導してきました。

今後の具体的な取組について

- 漢字の確実な習得を目指すために、漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習するだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように、継続して指導していきます。
- 場に応じた適切な言葉遣いで話せるようにすることを継続するとともに、声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について、繰り返し指導していきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「(整数) × (小数) の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解すること」に優れています。
60 × 0.4 を 60 × 4 を基にして考えるときの正しい積の求め方についてよく理解できていました。
- 整数の乗法「(3位数) × (2位数)」の計算の技能に優れています。
123 × 52 の基本的な計算の仕方を理解し、確実に計算をすることができていました。

《努力を要する所》

- 「商を分数で表すこと」がもう少しです。
整数の除法の結果は、分数を用いると一つの数に表すことができることについての理解に課題が見られました。
- 「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めること」がもう少しです。
合計欄の意味を理解し、資料を的確に分類整理することに課題が見られました。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算の領域の数学的な考え方」に優れています。
示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することがよくできていました。
- 示された条件を基に、適切な式を立てることは、概ねよくできていました。

《努力を要する所》

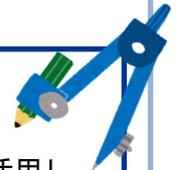
- 測定値を平均する考えを用いて適切に判断したり、示された方法を解釈・表現したりすることがもう少しです。
飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式の理解や、仮の平均を用いた考えを解釈し示された数値を基準とした場合の平均の求め方に課題が見られました。
- 日常生活の事象を表やグラフの特徴をもとに考察したり表現したりすることがもう少しです。
二次元表の特徴の理解を基に論理的に考察することや目的に応じて適切なグラフを選択し表現することに課題が見られました。

これまでの取組から

- 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、朝自習の時間を活用した「わくわく算数タイム」や授業時間にきめ細かい指導を行ってきました。
- 数学的に表現された考えを正しく解釈できるように、式の意味を説明し合ったり、図形を考察し結果を説明し合ったりする学習活動の充実を図ってきました。

今後の具体的な取組について

- 平均の問題で、「2回目の記録を除いて平均を求めます。」の「除く」を「0」という1つの記録として考えてしまった誤答や「割合」を表すグラフを選択する問題で、「量の大小関係」に着目してしまった誤答などがありました。数学的な考え方や自分の考えを記述する力は、育ってきていますので、言葉の意味や題意を正確にとらえる力を伸ばせるよう努めていきたいと思えます。同時に、振り返る活動に力を入れ、知識・技能の定着や課題解決を通して自信を積み重ねることで、算数への意欲を高めていきたいと思えます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約90%で、全国平均より約7ポイント高いです。
- 「家で学校の授業の復習をしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は64%で、全国平均より約10ポイント高いです。

《課題と思われるところ》

- 「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は73%で、全国平均より約5ポイント低いです。

生活について

《よかった所》

- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」に対して、「話している」「どちらかといえば話している」と回答した児童は86%で、全国平均より約8ポイント高いです。普段の出来事など、何でも話せる家庭の雰囲気により、児童に安心感が生まれ、それが様々な意欲につながります。
- 「学校のきまりを守っていますか」に対して、「守れている」「どちらかといえば守れている」と回答した児童は99%で、とても高いです。規範意識が高く、上級生として、下級生の見本となっています。

《課題と思われるところ》

- 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする」と回答した児童は31%で、中には「4時間以上」の児童もいます。生活リズムの見直しが必要です。



これまでの取組から

- 学年×10分を目安に、家庭学習を毎日の習慣として行っている児童が増えてきています。家庭学習がその日の授業の振り返りや復習につながっています。家庭の協力をいただきながら、指導してきた成果です。
- 学校内のルールを守れている児童が多いです。「有鹿っ子の約束」として全ての学年で統一して指導をしてきました。「みんながすごしやすい学校」を目指して、今後も指導を続けていきます。

今後の具体的な取組について

- 課題に対して積極的に取り組める児童がまだ少ないです。自主的・自発的に取り組めるように、目的意識をもたせ、取り組み方を示し、定着できるようにしていきます。
- テレビやゲーム機、スマートフォン等の使用については、健康的な生活リズムにも影響するので、学校と家庭で協力しながら指導していく必要があります。

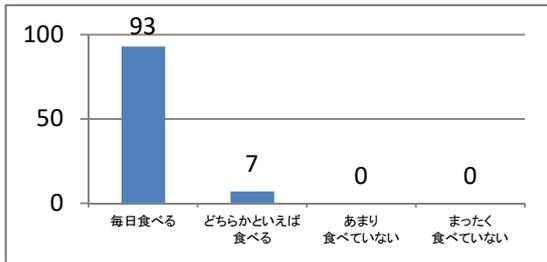
学校生活以外の児童の現状

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「学校生活以外の児童の現状」をまとめました。ご家庭でぜひ話題にさせていただきたいと思います。

1 1日の元気の源。朝ごはんを食べましょう。

朝の元気な挨拶やきびきびした行動に欠かせない栄養を、朝ごはんできちんと摂取しましょう。朝ごはんの内容も大切です。

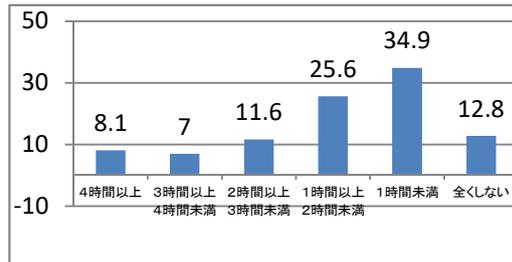
朝食を毎日食べていますか。



2 時間の使い方を見直し、ルールを決めましょう。

家庭でのルールをしっかりと決め、やるべきことに計画的に取り組んでいきましょう。

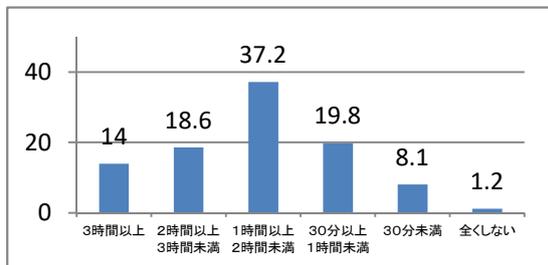
普段1日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 自分で計画を立てて、学習に取り組みましょう。

学年×10分の家庭学習を目安に、毎日の学習を習慣化しましょう。

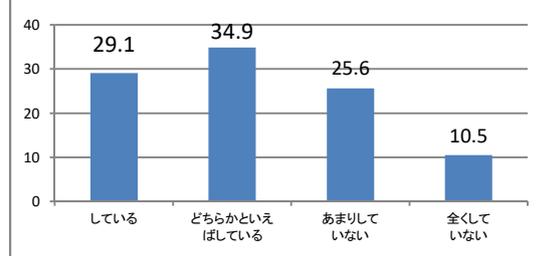
普段、1日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか。



4 翌日の授業に活用できる学習をしましょう。

宿題でおしまいではなく、次の学習の下地になる復習や予習に取り組みましょう。

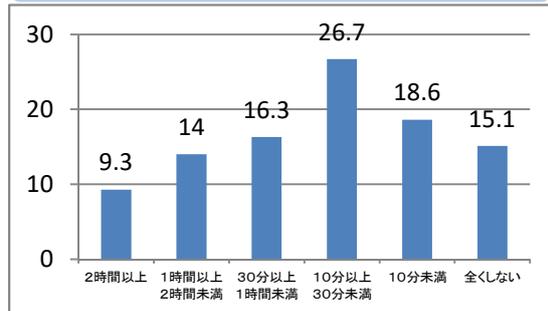
家で、学校の授業の復習をしていますか。



5 いろいろな本をたくさん読みましょう。

読書は、授業だけでは得られない知識を身につけるとともに、感性を豊かにします。いろいろな本を読みましょう。

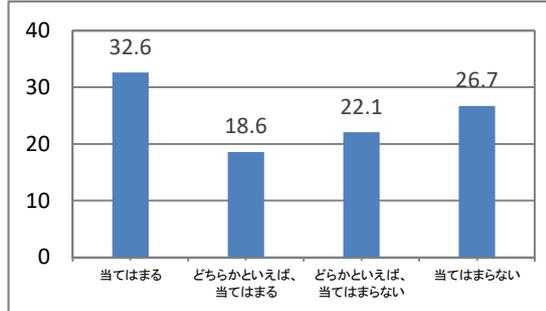
普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしていますか。



6 地域の行事に積極的に参加しましょう。

地域の方々と関わり合うのはとても大切な時間です。積極的に参加して、地域の方々に顔を覚えてもらいましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。

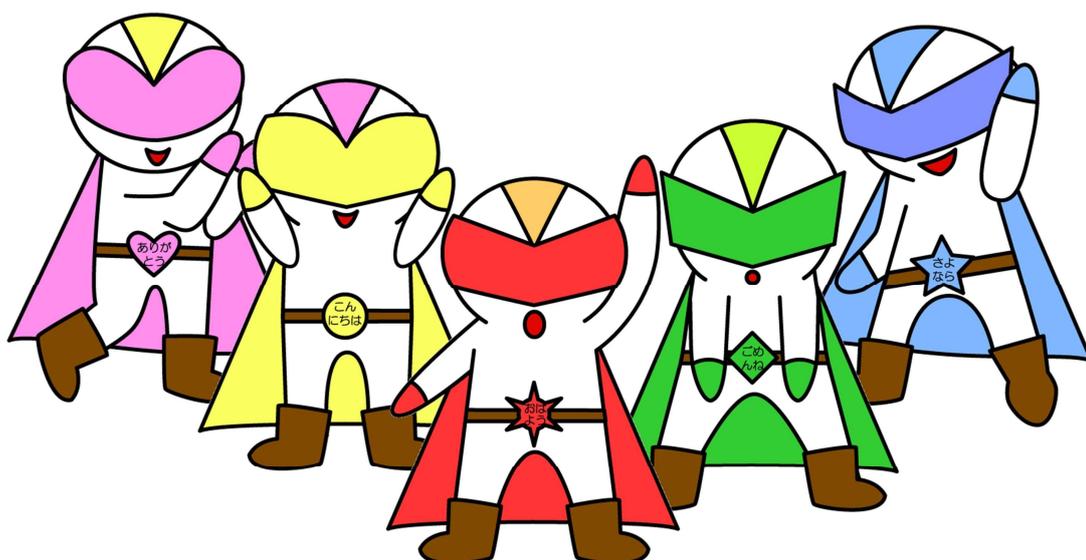




海老名市立有鹿小学校

平成 29 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成 29 年 12 月
海老名市立有馬小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことについては、無解答がなく、正答率も高い。
- 俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題については、比較的正答率が高い。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことは、比較的できている。

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題がある。無解答も多く見られた。
- 情報を正確に収集する力が不十分である。その情報を関連付けながら話し合う力も、努力を必要としている。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 書くことの領域で、他を説得するために引用する、効果的な文章を選ぶことは比較的できている。
- 文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する問題では、正答率は高くないものの全員解答できている。

《努力を要する所》

- 設問が長く複雑な場合、正答率が低い。問われている内容を的確に読み取ることに課題がある。
- 読むことの領域で、話し合いにおける発言の意図として適切なものを選択する力が不十分である。また、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるという設問になると、正答率は低く、無解答も3割を超える。

これまでの取組から

- 朝自習の時間に「読書タイム」を毎週1～2回設定して、読書の習慣が身につくようにし、語彙が増えるようにしている。
- 3学年以上で1人1冊の国語辞典を用意し、言語活動の下支えとなるように国語以外の教科においても使用できるようにしている。

今後の具体的な取組について

- 日頃の授業で自分の考えを友達と伝え合う場を意図的に設定するように努める。
- 問われている内容を読み取る力を育てるため、読書の機会や量を増やす。
- 字形に気がつけた、ていねいな漢字指導を継続して行っていく。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 2つの数の最小公倍数を求めることができる。
- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解している。

《努力を要する所》

- 加法と乗法の混在した整数と小数の計算をすることが苦手である。
- 資料から、二次元表（2つの観点を縦と横の欄にまとめた表）の合計欄に入る数を求めることが苦手である。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された条件を基に、適切な式を立てることができる。
- 示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる。

《努力を要する所》

- 資料やグラフを読み取ることに課題がある。
- 問題が複雑になると、正答率が下がったり、無解答が増えたりする。

これまでの取組から

- 学年や単元によって、TT（チームティーチング）や、少人数指導を行い、個々の学力に合わせて理解が進むようにしている。

今後の具体的な取組について

- 授業の中で、表やグラフ、資料に示された情報を読み取って問題を解く学習を増やす。
- 応用的問題にも意欲をもって取り組めるようにする。
- 文章問題の文意が理解できるように、他教科の学習や読書活動なども通して、理解する力や書く力を養っていく。



児童質問紙の結果より

学習について

数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率を足したものです。

《よかった所》

学習習慣

学習することの価値に
気付いている

- 「学校で、好きな授業がある」91%
- 「宿題をしている」93%
- 「勉強は大切だと思う」
 - ・国語 85% ・算数 89%
- 「学習したことは、将来役に立つと思う」
 - ・国語 80% ・算数 82%
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」80%

《課題と思われる所》

- 「昼休みや放課後・休日などに本を読んだり借りたりするために、図書室や図書館にどれくらい行くか」
 - ・週に1回 0%
 - ・月に1～3回 11%
 - ・年に数回 33%
 - ・ほとんど または 全く行かない 56%
- 「国語の学習は好きである」44%
- 「算数の学習が好きである」57%
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できるか考える」58%

生活について

《よかった所》

生活習慣

基本的な生活習慣が確立されている

- 「朝食を毎日食べている」91%

自分自身について

物事に一生懸命に取り組む
ことができる

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」98%
- 「将来の夢や目標を持っている。」91%

人との関わり

人との関わりを楽しみ、
大切にしている

- 「学校で友達に会うのが楽しい」100%
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」96%
- 「人の役に立つ人間になりたい」89%
- 「友達との約束を守っている」98%

《課題と思われる所》

地域・社会

地域や社会のできごとに
関心が低い

- 「住んでいる地域の行事に参加している」49%
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」58%
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」25%

これまでの取組から

- 学校教育目標に則り、教職員相互の信頼と協力を基盤とし、全職員で気持ちを一つにして教育実践に努めている。
- 家庭や地域との連携・協力を大切に考え、ともに子どもたちを育てていく学校づくりに努めている。

今後の具体的な取組について

- 児童の豊かな心を育み、楽しく笑顔で学校生活が送れるよう、今後も学校全体で取り組む。「全職員が全担任」という意識を継続していく。心の教育、小中一貫教育、支援教育、ありまっ子応援団との連携・協力、家庭との連携・協力、地域環境の活用、異学年交流や他校種との交流等を推進する。
- 校内研究による授業研究に全職員で取り組み、授業改善につなげる。基礎的内容の定着を図るとともに指導法を工夫・改善して確かな学力の向上をめざす。
- 地域の教育力を生かした体験学習により児童の生きる力を培う。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 「早寝、早起き、朝ごはん」を続けていきましょう。

基本的な生活習慣を身につけることは、学習面に良い影響を与えます。特に、学力と朝食の摂取との明らかな相関関係が認められています。栄養バランスのとれた朝食で、一日をスタートさせましょう。



2 テレビの時間を減らしましょう。

お子さんとよく話し合い、テレビを見る時間や約束を決めるなどして、時間を有効に使いましょう。また、日常生活の中で本を読むひと時を作ることにより、文字に親しみ、思考力や想像力を伸ばしていきましょう。



3 家庭学習を継続し、さらに内容の充実した学習を積み重ねていきましょう。

学習内容の定着を図るためには、家庭における学習も必要です。基礎基本の力を身につけていけるように粘り強く取り組むための見守りや励ましを今後も続けていきましょう。



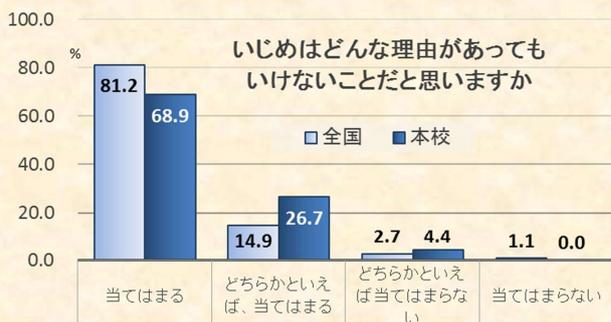
4 豊かな言葉や対話を大切にしましょう。

普段の生活の中で、お子さんとゆっくりと向き合い話ができるひと時をもちたいものです。学校であったことなど、耳を傾けてあげてください。豊かな言葉と温かい心を育みます。家庭における対話を大切にしましょう。



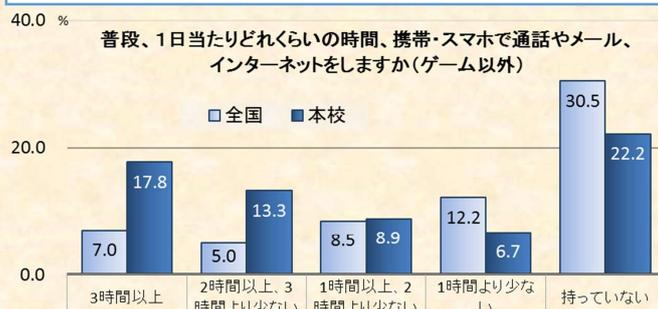
5 いじめは許されないという意識をさらに高めていきましょう。

どんな理由があってもいじめは絶対に許されないことや、その理由・困った時の適切な対処法などについて、ご家庭でも日頃から話し合っておきましょう。



6 ケータイ・スマホを使う上でのマナー・約束事等について、日頃から話し合っておきましょう。

子ども任せにしていると、メールやSNS等によって、気付かぬうちに思わぬトラブルに巻き込まれていたり、トラブルを振りまいてしまったりすることがあります。お子さんと一緒に使用する目的や制限事項などを考えて、適切に使えるように見守っていきましょう。





平成29年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成29年12月
海老名市立大谷小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 互いの考えを聞きその共通点や相違点を整理しながら話し合うことができます。
- 俳句の情景を捉え、読むことができます。

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書いたり、読みだりすることに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 話の構成を工夫して話すことができるなど、スピーチメモのよさを捉えることができます。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができます。

《努力を要する所》

- 物語を読み具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られます。
- 自分の考えを広げたり深めたりするための、発言の意図を捉えることに課題が見られます。

これまでの取組から

- 互いの考えを大切にする授業
 - ・文章を理解したり説明したりするときに、自分の考えを持ち互いに聴きあい内容を深めるように指導してきました。その中で、目的や意図に応じて考える大切さが増してきました。

今後の具体的な取組について

- 日常の中で書くことに意欲が持てる場の設定
 - ・新出漢字を丁寧に書いて覚えたり、既習の漢字を意図的に活用し復習したりすることができるよう、今後も指導していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 乗法の性質や数量関係をよく理解したり、正確に計算したりすることができます。
- 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しています。
- 正多角形は、合同な二等辺三角形で構成されていることを理解しています。

《努力を要する所》

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算や、商を分数で表すことに課題が見られます。
- 示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を判断することに課題が見られます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 2つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを見出し数学的に表現することができます。
- 示された資料から必要な数量を選び、その求め方と答えを記述できます。
- 日常の問題解決に向けて、目的に適したグラフを選んだり、条件に応じた式を判断したりすることができます。

《努力を要する所》

- 示された割合を解釈し、基準量と比較量の関係を表している図を判断考察することに課題が見られます。

これまでの取組から

- 本校で研究を進めてきた「友だちと協力し合って問題解決を行う」ことや、「これまでの学習を生かして新たな問題に取り組む」ことの積み重ねにより、数学的な思考力が向上してきていると考えられます。
- 情報を整理して筋道を立てて考えたり、言葉・数・式・図・表・グラフ等を用いながら自分の考えをわかりやすく説明したりする力が身につけてきています。

今後の具体的な取組について

- 学習内容の定着を図るため、繰り返しの学習や学習形態の工夫等の指導方法を充実させるとともに、家庭学習の習慣化を低学年から積み上げていくように指導していきます。
- 今後も、児童の学習意欲を持続させ、学習した内容を日常生活においても活用できるような授業の工夫をしていきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 家庭学習の習慣
 - ・ 75%の児童が「家で、自分で計画を立て勉強をしている」と答えています。
- 話し合い、学び合う学習
 - ・ 90%以上の児童が「学級の友達と話し合う活動をよく行っている」と答えています。
 - ・ 85%の児童が「相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えている」と答えています。

《課題と思われる所》

- ・ 「話す」ことに比べ「書く」ことに苦手意識をもっている傾向にあります。

生活について

《よかった所》

- 規範意識
 - ・ 95%の児童が「学校のきまりや友達との約束を守っている」と答えています。
- 自他の尊重
 - ・ 90%の児童が「自分にはよいところがある」と答えています。
 - ・ 90%以上の児童が「人の役に立つ人間になりたい・人が困っているときには進んで助ける」と答えています。

《課題と思われる所》

- ・ 「地域の行事やボランティア活動に参加している」児童が少ない傾向にあります。

これまでの取組から

- 学習や生活において多くののぞましい態度や行動がみられることは、本校児童の大きな特長です。各ご家庭の養育が、大きく影響しているものと考えられます。学校においても、児童一人ひとりを理解し、支援しながらよりよい体験を積み上げていけるように指導・支援に努めていきます。
- 本校では、算数科において友達と学び合う協同学習の研究に取り組んできました。算数科だけでなく、他教科や活動においても自分の意見を伝え、考えの理由を伝える態度の広がりが見られます。

今後の具体的な取組について

- 今後も、思考を伝え合い学び合う活動を通して、主体的に学習活動に取り組む姿勢を育成していきます。
- 学習や行事など様々な活動の中で、友達との関わりを深め高め合えるように工夫し、自分や友達・社会を大切に思う気持ちを育成していきます。
- 地域と学校の関わりについては、総合的な学習の時間や生活科等で、多くの方々のご支援をいただきながら学習を進めています。地域の方々に支えられて生活していることを知り、感謝の気持ちをもてる児童を育成していきます。

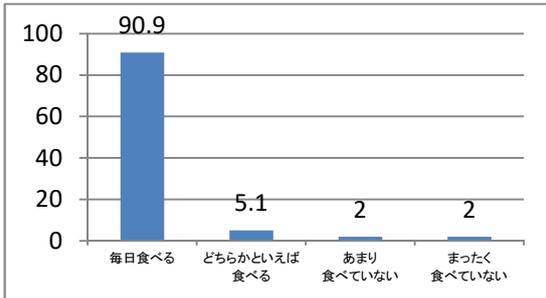
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 しっかりした生活習慣を身につけましょう。

「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、しっかりした生活リズムをつくりましょう。

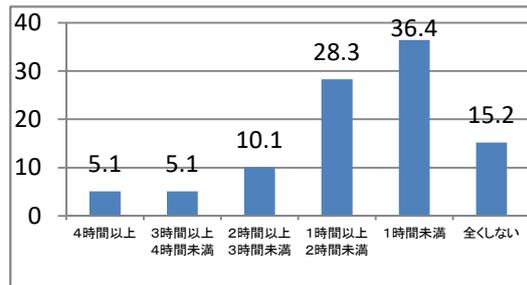
朝食を毎日食べていますか。



2 長時間のテレビやゲームはやめましょう。

テレビを見たり、ゲームをしったりするときは、時間とルールを決めましょう。

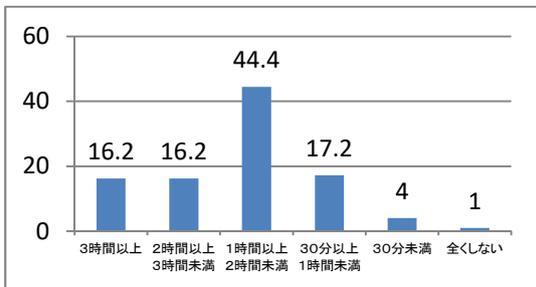
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭学習に取り組みましょう。

毎日、一定の時間【めやす: 10分×学年】宿題や自主的な学習をする習慣をつけましょう。

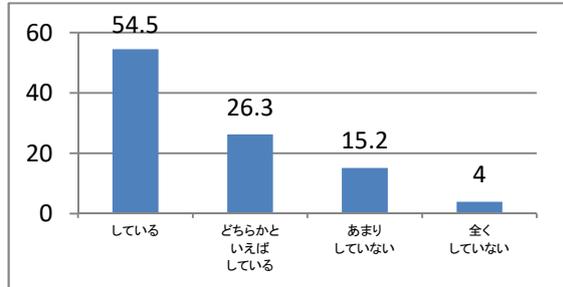
普段一日どれぐらいの時間勉強しますか。



4 コミュニケーションを大切にしましょう。

お子さんとの会話を大切にし、家族の絆を育みましょう。

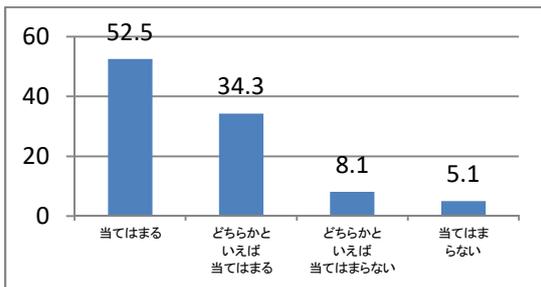
家の人(兄弟姉妹は除く)と学校での出来事について話をしますか。



5 認めてほめることを大切にしましょう。

自己肯定感を高めることはより良い育ちにつながります。

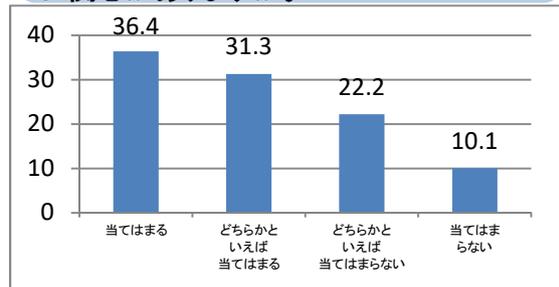
自分には、よいところがあると思いますか。



6 地域や社会の出来事に関心を持ちましょう。

地域の行事に行くことを勧めたり、家族で足を運ぶなど、積極的に参加しましょう。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。





平成 29 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成 29 年 12 月
海老名市立上星小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら話し合う。

話す・聞く力

- 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む。

読む力

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読み書きする。
- 古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む。

言語についての知識・理解・技能

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。

書く力

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じ、適切な言葉づかいで話す。
- 話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモの良さを捉える。

話す・聞く能力

《努力を要する所》

- 目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。

読む・書く力

資料の中の事実や自分の考えを取捨選択し、整理して書き表すことを苦手としている。教科書内での学習とともに普段の作文指導でも内容や構成を意識して書けるように指導していく必要がある。

これまでの取組から

- 朝の会などでのスピーチ、学級活動などでの話し合いなどにより、話すことに慣れている児童が多いです。
- 朝読書を取り入れることで、読書に親しむ児童が多いです。

今後の具体的な取組について

- 書く活動の中で、資料の取捨選択、自分の考えの整理、構成の仕方を繰り返し指導していきます。また、自分の考えをノートにまとめ整理する活動を多く取り入れていきます。
- 読書週間などを利用し、より多くの漢字に触れる機会を増やすとともに、日常の書く活動で習得した漢字を活用するよう指導していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している。
- 数量の関係を数直線に表すことができる。
- 小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えることができる。



数量や図形についての知識・理解

- 整数の乗法の計算ができる。
- 小数と整数の加法の計算ができる。



数量や図形についての技能

《努力を要する所》

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算ができる。
- 商を分数に表す計算ができる。



(無解答率が高い)

数量や図形についての知識・理解

整数を用いた問題については全体的に正答率が高い。小数や分数の計算問題については、困難を感じている児童が多く、基礎計算問題を中心に復習していく必要がある。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 平均を求める式を判断することができる。



数量や図形についての知識・理解

- 示された条件を基に、適切な式を立てることができる。



数学的な考え方

《努力を要する所》

- 問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することができる。
- 式の中の数値の意味を解釈し、記述することができる。
- 示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断することができる。



数学的な考え方

図や表、グラフから数値を読み取り、式に表したり、式から資料を判断したりする力が不十分な様子が見られる。また、計算のきまりや説明問題が苦手なので、算数用語の活用や解き方を友だちに説明するなどして、理解を深めていく必要がある。

これまでの取組から

- 既習事項をもとに自力で解決する時間を設けていることにより、自分のやり方でこつこつと取り組む児童が多いです。
- 基礎的な計算問題については、繰り返し練習を積み重ねているので、計算技能を身につけている児童が多いです。



今後の具体的な取組について

- 朝自習の算数チャレンジで小数や分数の計算問題を多く行っていきます。また、新しい単元で小数や分数を用いた計算が必要な場面では、ふりかえりを行いスムーズに計算できるように支援します。
- 算数用語を説明したり、問題の解き方を、図や式などを使ってノートに書いたり、友達に説明したりする機会を増やし、理解を深めていきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 先生から示される課題や学級やグループの中で自分たちで立てた課題に対して自ら考え、進んで取り組んでいると答えた児童が全体的に多く、前向きに授業に取り組む姿勢が感じられます。
- 家で学校の宿題を忘れずにしていると回答した児童が95%近くおり、県平均と比較しても8ポイント近く高く、多くの児童に宿題への日常的な習慣が身につけていることが分かりました。

《課題と思われる所》

- 学校の授業で、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと答えている児童が多かったです。話の組み立てを工夫したり発表したりすることが苦手だと感じていることが分かりました。
- テレビのニュース番組やインターネット等のニュースは見るが、新聞から情報を得ている児童の割合は少なかったです。

生活について

《よかった所》

- 朝食を毎日食べていますか。という質問に対し91.5%の児童がしていると答え、県・全国87%に比べると高い値を示しています。
- 学校や友だちとの約束を守っているという質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば」を合わせると93%以上の児童が当てはまると答えており高学年としての意識を持って行動しようとしていることが分かりました。

《課題と思われる所》

- 携帯電話やスマートフォンの使い方・テレビゲームをする時間などの約束を家の人と決めてはいるが、約半数の児童が守れずにいることが分かりました。
- 地域の行事等に参加したことがあると回答した児童は約半数で、地域社会への関わりが課題です。



これまでの取組から

- 友だちと考えを交流することを好み授業に前向きに取り組む児童が多い反面、筋道を立てて考えたり、説明したりすることが難しいと感じている児童が多いです。新しい単元に入る前の手立てとして関連する以前の学習の振り返りや既習事項を提示し学習に活用できるようにしています。
- 日々の学校生活や行事等を通して高学年としての意識を高めるよう指導しています。

今後の具体的な取組について

- 児童自らが問題から課題につなげていけるような主体的な学習を通して自分の考えを友だちに説明したり文章に表現したりすることができるように指導していきます。
- 携帯電話、テレビゲームの使い方などについて懇談会などの機会を通して保護者に伝えていくようにします。
- 地域社会への所属意識を高め、地域社会への参加を積極的に促していきます。

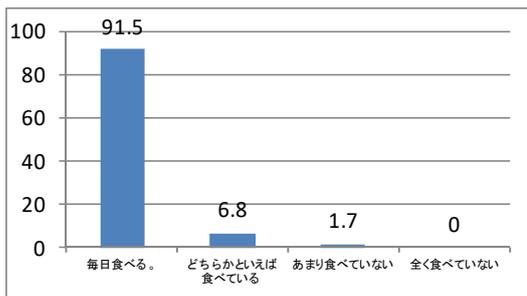
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい5つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

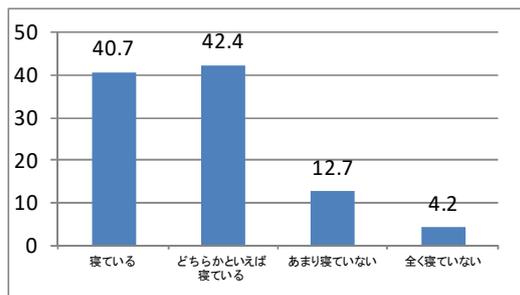
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」を続けて実践し、基本的な生活習慣を身につけて学習に活かしていきましょう。
(朝食を食べている児童 … 本校91.5%・県87.0%・全国87.0%)

朝食を毎日食べていますか。



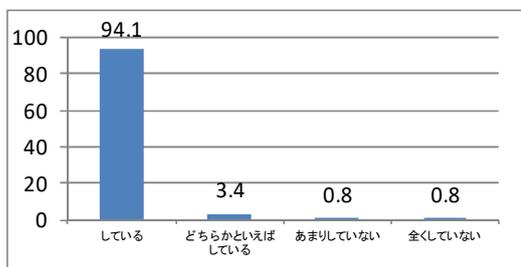
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



2 家庭学習の習慣を身につけていきましょう。

「10分×学年」が家庭学習の目安です。学習状況を見守り、ほめて励ましてください。

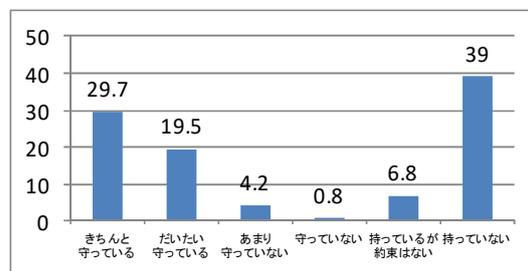
家で、学校の宿題をしていますか。



3 家庭で決めたルールを守りましょう。

テレビ・ゲーム・携帯電話・スマートフォンに費やす時間について、ルールを設定し確認しましょう。

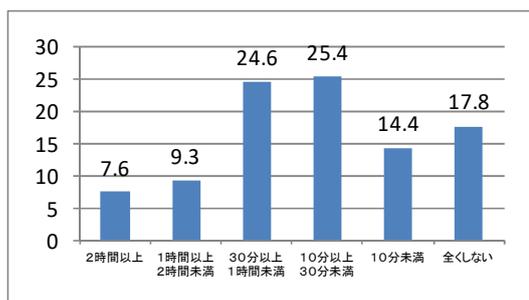
携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



4 読書の習慣を身につけましょう。

読書を通して、より多くの言葉や漢字に触れる機会を増やしましょう。

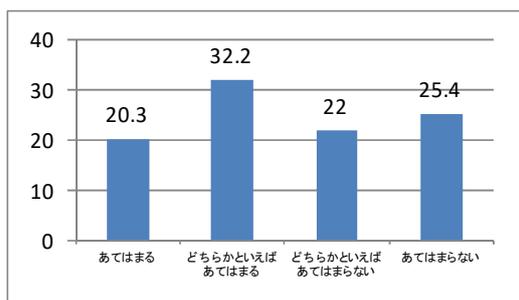
普段(月曜日～金曜日)、一日あたりどれくらいの時間読書を読みますか。

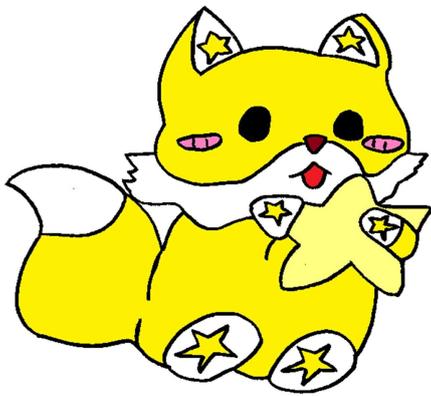


5 今、住んでいる地域に愛着をもちましょう。

地域の行事に参加することで知り合いができ、安全・安心な生活を送ることができます。

今、住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成29年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成29年12月
海老名市立中新田小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に興味がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「古文」に関して、全国平均を上回っており、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができる児童が多いです。
- 「書く能力」では、手紙の構成を理解し、後付けにおける署名やあて名日付の位置関係を正しく捉えることができています。

《努力を要する所》

- 漢字の読み書きの正答率が全国平均に比べて低いです。無解答率も高く漢字を書くことに対して苦手意識を持っている児童が多いです。

参加のたいしょう→対象

- 「話すこと・聞くこと」では、グループで話し合ったことについて学級全員に伝えるため各グループの報告者はどのようなことを報告しているかを正しく捉えることに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」では、スピーチメモを使う良さについて捉えることができています。
- 「書くこと」では、文章の構成の工夫について、あてはまるものを選択することができています。
- 選択問題は、全国平均を上回っていました。

《努力を要する所》

- 「話すこと・聞くこと」では、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えをまとめて話すことに課題が見られます。
- 「書くこと」では、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことに課題が見られます。また、自分の考えをまとめようという意欲に欠けるため無解答率が高いです。

これまでの取組から

- 朝読書を継続的に実施しているので、落ち着いて学習に取り組み文章を読んで内容をつかむことができているように思われます。
- 条件に合わせて具体的な事柄をもとに自分の考えをまとめようとする意欲を持たせることに関して、重点的な指導を継続します。

今後の具体的な取組について

- 様々な話し合いの場面において、児童一人ひとりにそれぞれ司会者や提案者参加者などの役割を決めて話し合い、豊かな相互交流を図ることができるように取り組みます。
- 漢字を習得し、語彙を拡充するために、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣をつけていきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算」では、整数と小数の加法や商を分数で表すことができます。
- 「図形」では、高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しています。また、円を用いた多角形の描き方についても理解しています。

《努力を要する所》

- 「数と計算」では、整数の乗法（3位数）×（2位数）の計算方法の理解に、課題が見られます。
(例： $123 \times 52 = 6,396$)
- 「数量の関係」では、示された場面を適切に読み取って式に表したり、資料から読み取った情報を表に整理したりすることに課題が見られ、無解答率も高くなっています。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数量関係」では、割合の意味を理解し、正しいグラフを選ぶ問題で全国平均に比べて正答率が高くなっています。
- 「数と計算」では、示された条件をもとに立式したり、数を変更しても同じ関係が成り立つということを図に表現できたりしています。

《努力を要する所》

- 問題に示された2つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉や式を用いて説明する問題の正答率が低く、無解答率も高くなっています。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、その判断の理由を言葉や式で説明することに課題があります。
(例) 1円玉の直径(20mm)をもとにして14%長くなっているのは100円玉(直径22.6mm)、500円玉(直径26.5mm)のどちらか。

これまでの取組から

- 毎週水曜日に四則計算の復習を中心とした算数タイムを実施しています。「数と計算」の領域は全体的に正答率が高く、その効果が表れています。また「図形」では、デジタル教科書などのICT機器や図形の具体物を用いることで、高い正答率につながったと考えられます。

今後の具体的な取組について

- 問題の意味を理解したり、示された場面を適切に読み取ったりすることに課題が見られました。算数の用語について振り返りを行い、問いに対する答えを正しく求められるよう取り組んでいきます。また言葉や式で説明する問題に丁寧に取り組んでいきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 算数の授業がよく分かる・もっと簡単に問題を解く方法がないか考えるという質問に対し、肯定的な回答が80%を超えており、前向きに取り組んでいる児童が多いようです。
- 読書が好きという回答が80%を超えており、日常的に読書に親しんでいる様子が見えます。

《課題と思われる所》

- 「授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてください」という質問に対し、否定的な回答が約25%あり、学習の理解が充分でないままの児童も見られます。
- 「原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という質問では、約半数の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答しており、長文を書くことについて苦手意識を持つ児童が多いことがうかがえます。

生活について

《よかった所》

- 平日に、TV・ビデオ・ゲーム等をする時間は1時間以内が最も多く、4時間以上する児童が5%程度で、時間を考えながら行っていると思われる児童が多いです。
- 自分にはよいところがあると回答した児童の割合が全国平均と比べてかなり高く、自己肯定感を持っている児童が多いと思われます。

《課題と思われる所》

- 地域の行事に参加している、地域や社会をよくするために何をすべきか考えていると回答した児童の割合が20%、13%であり、地域に対して積極的にかかわろうとする意識は、やや低いと思われます。
- 友達の話を最後まで聞く、友達の考えを受け止めて自分の考えを持つと回答した児童の割合が、55%、38%と、県・全国平均よりやや低くなっています。

これまでの取組から

- 水曜日の朝自習を「算数タイム」として設定し、全校一斉に算数の問題に取り組んでいます。主に計算問題を中心に、基礎的な学力の定着を目指しています。
- 図書ボランティアによる「読み聞かせ」、お話玉手箱の方による「お話会」など、本に親しむ機会が多くあります。児童も、毎回、楽しみにしています。
- 「生活リズムチェックカード」を定期的実施しています。ゲームやテレビの時間についての設問もあり、時間を意識するようになってきています。

今後の具体的な取組について

- 校内研究では、「子どもたちの心が育つ人間関係づくり」をテーマに取り組んでいます。子どもたちにとって居心地のよいクラスが大切であると考えています。お互いを受け入れ、大事にし合える集団を作っていくことによって、「友達の話を最後まで聞く、友達の考えを受け止めて自分の考えを持つこと」に対する態度が身につくことを期待しています。
- 学習内容の定着のために、休み時間などを利用して、理解が不十分な点を補ったり、まなびっ子の利用を促したりすることで学習への理解を深めたいと考えています。



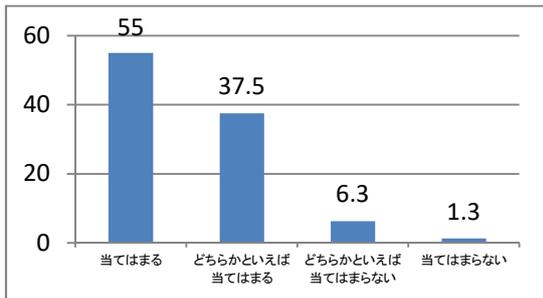
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 人の話を最後まで聞きましょう。

話す人の目を見て、最後まで話を聞きましょう。

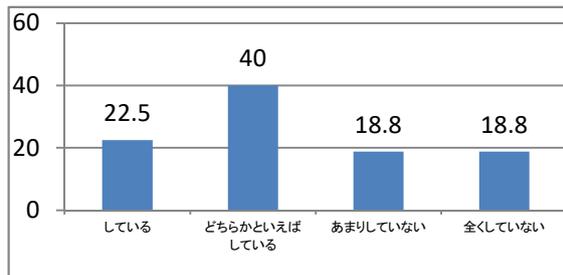
友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



2 家庭でルールを決めましょう。

テレビを見る時間やゲームに費やす時間を約束しましょう。

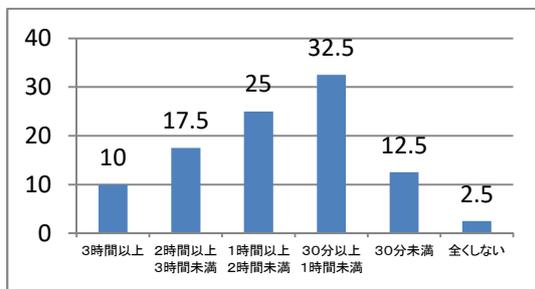
テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。



3 家庭学習の習慣をつけましょう。

「学年×10分」を目安に、家庭での学習時間を決めましょう。

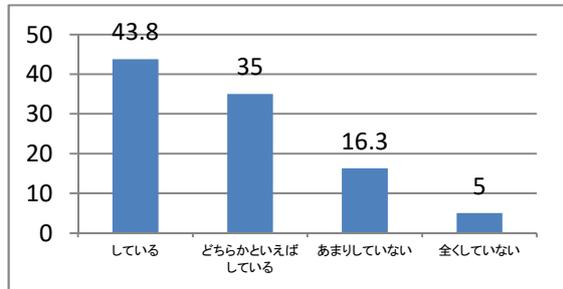
普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。



4 子どもとたくさん話しましょう。

学校での出来事について、話をする時間をできるだけ作りましょう。

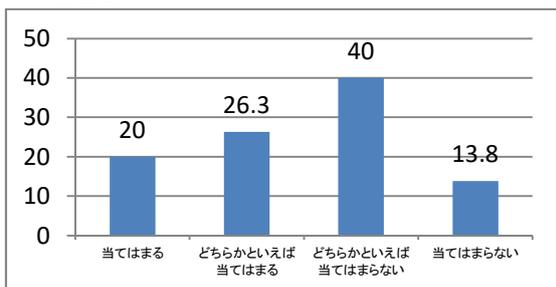
家の人と学校での出来事について話をしますか。



5 地域の行事に進んで参加しましょう。

地域の行事に参加して、社会の一員としての意識を育てましょう。

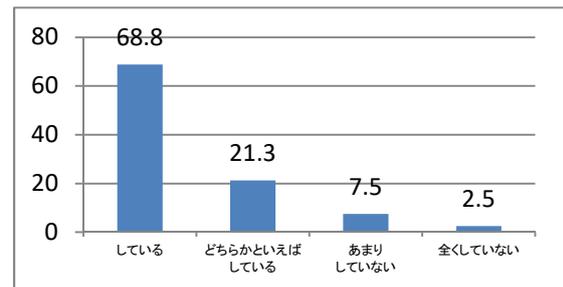
今住んでいる地域の行事に参加していますか。

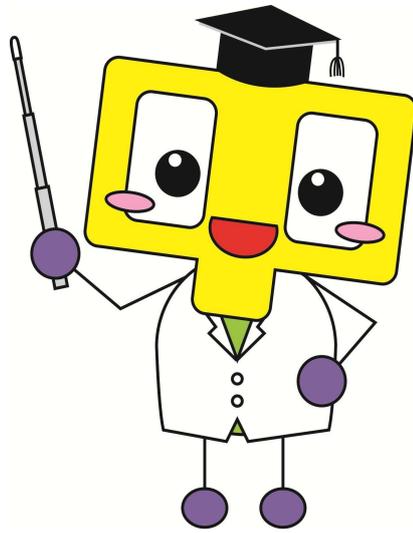
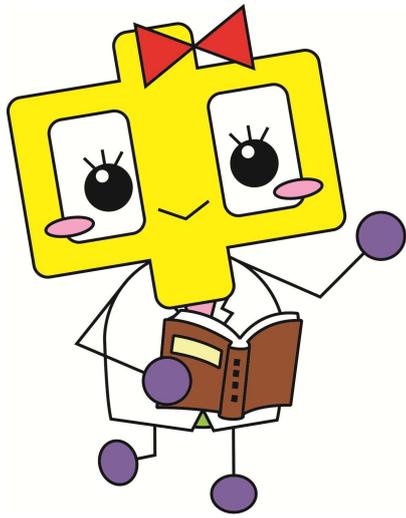


6 規則正しい生活をしましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」を実践しましょう。

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。





平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



平成29年12月

海老名市立門沢橋小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料

学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 漢字の読みは相当数できています。
- ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることができています。
- 俳句のよさや情景を捉えたり、古文における言葉の響きやリズムを楽しんだりすることができています。

《努力を要する所》

- 手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題があります。
- 漢字を正しく書くことについて課題があります。
- 文章の中から必要な情報を見つけて読むことに課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- スピーチメモのよさを捉え選択できています。
- 文章全体の構成を考えたり引用できたりしています。

《努力を要する所》

- 場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題があります。
- 理由を明確にして自分の考えをまとめることに課題があります。
- 自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があります。

これまでの取組から

- 家庭学習が習慣化しています。今後も学習全般においてさらに学年に応じた力を積み上げていくようにします。
- 引き続き、習得した漢字を読んだり書いたりする機会を増やしていきます。

今後の具体的な取組について

- 物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げられるような授業をしていきます。
- 物語を読むときには、叙述を基に理由をあきらかにして考えをまとめて書けるような指導をしていきます。
- 手紙を書く学習活動を国語科のみならず、各教科でお礼の手紙などを書く機会を増やしていきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○具体的な問題場面において乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解しています。

○整数の乗法(3位数×2位数)は相当数できています。

○任意単位による測定について理解しています。

○資料を二次元表に整理することができます。

《努力を要する所》

○加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題があります。

○正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できるという性質を見出すことに課題があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○示された条件を基に適切な式を立てたり図に表したりすることができます。

○平均を求める式を選ぶことができます。

《努力を要する所》

○二つの数量関係のきまりや解決方法や選んだ理由などを記述することに課題があります。

○日常生活の問題の解決のために、情報の中から条件に合うものを選択することに課題があります。

これまでの取組から

○家庭学習の習慣化を一層図りながら、基礎的・基本的学習内容の習得をこれからも低学年から積み上げていくようにします。

○問題文からその問題の場面を理解するために、併せて国語の学習や日常の言葉を大切にした指導を積み重ねていきます。

今後の具体的な取組について

○日常生活の問題を乗法や除法の式、図形の性質を用いて判断する学習を充実させていきます。

○既習事項を生かし、筋道を立てて考えて判断の根拠を説明できる経験を積み重ねていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○学校の宿題は、相当数習慣化されています。

○学校で好きな授業があると答えた児童が多くいます。

○国語が好き、1時間以上読書をする答えた児童が多いです。

《課題と思われる所》

○感想文や説明文を書くことや、授業などで自分の考えを説明したり書いたりすることは難しいと答えた児童がかなりいます。

○家庭学習の時間が短いです。特に土日は1時間未満が多いです。

生活について

《よかった所》

○学校のことや将来のことを家の人と話す児童が多いです。

○最後までやり遂げてうれしかったことがあると答えた児童が多くいます。

○学校に行くことや友達に会うことが楽しいと感じている児童が多くいます。

○友達との約束や学校のきまりを守っていると答えた児童が多いです。

《課題と思われる所》

○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた児童は県平均より下回っています。

○月曜日から金曜日、テレビゲーム等を1日あたり2時間以上おこなっている児童が3割を超えています。

これまでの取組から

○読書活動をさらに推し進め、言葉を豊かにしながら授業における言語活動の充実を図ります。

○音読や計算、漢字などの学習を家庭でも取り組み、習熟を図っていきます。

今後の具体的な取組について

○学校生活の様々な場面で、子どもたち一人ひとりの努力を大切に、励まし、達成感が味わえるようにしていきます。

○携帯電話やスマートフォンの子どもの与え方や使用について、学校でも指導を行い、保護者への働きかけに努めます。

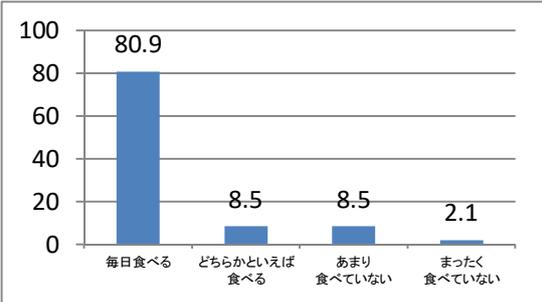
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、朝食をとりましょう。

授業に集中できるよう就寝時間、起床時間を決め、しっかり朝食をとって登校させてください。

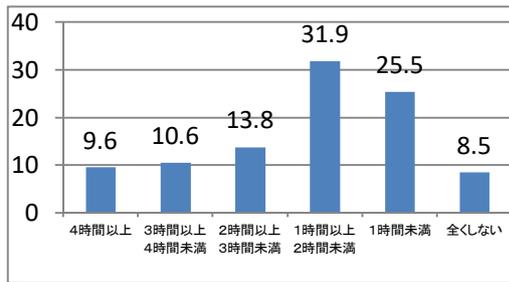
朝食を毎日食べていますか。



2 時間の使い方を見直しましょう。

ルールを決め、よい習慣をつけることは学力向上だけでなく、お子さんの可能性を広げます。

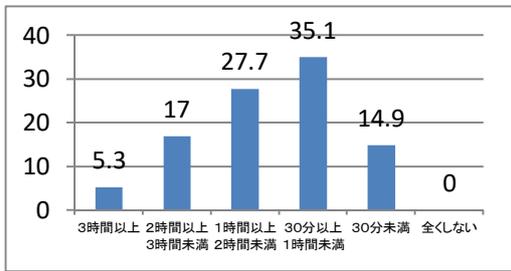
普段(平日)一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭での学習習慣をつけましょう。

学習状況を見守り、ほめて励ますことで家庭学習が習慣化するよう関わりましょう。(学年×15分)

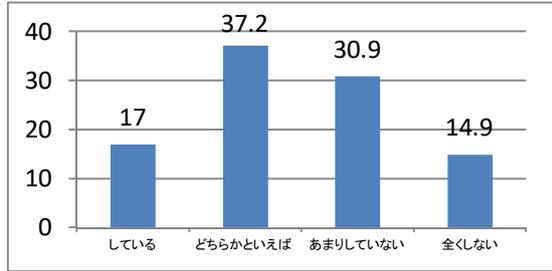
普段(平日)、学校以外で1日あたりどれぐらいの時間勉強しますか。



4 自分で計画を立てて取り組みましょう。

1日の過ごし方や勉強について子ども自身が考え自ら取り組むよう励ましてください。

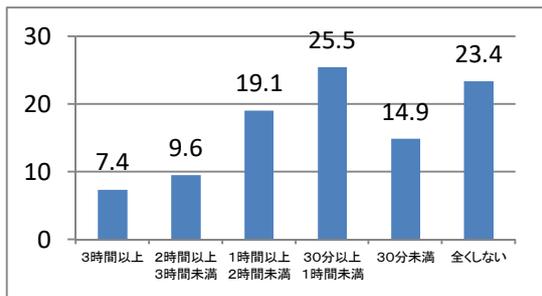
自分で計画を立てて勉強していますか。



5 物語、詩、伝記、図鑑など様々な本を読みましょう。

読書を通して他者の考え、意見、事実を知ることができます。読書の習慣化を図りましょう。

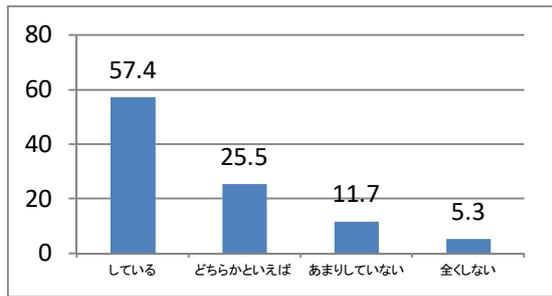
1日あたりどれぐらい読書をしますか。



6 子どもとたくさん話をしましょう。

社会の出来事や勉強、将来についてなど親子で話し合うことが学力向上につながります。

家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。





平成29年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成29年12月
海老名市立東柏ヶ谷小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 前年度と同様に基礎的な漢字の読みはよくできます。
- 設問にある文章の文脈や質問の意図を読み取り答える問題はよくできます。
- 言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができます。

《努力を要する所》

- 同音異義語の使い分けに課題があります。
- ことわざの意味や俳句の情景をとらえることに課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じて、適切な言葉遣いを理解し、適切なものを選択することができます。
- 文章を引用して、主旨を相手に伝えることができます。
- 実体験に即した学習に関しては正答率が高く、自信をもって答えることができます。

《努力を要する所》

- 知識で習得した敬語などの言葉遣いを、自分の言葉として表現することに課題があります。
- 話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って叙述を基に自分の考えを書くことに課題があります。

これまでの取組から

- 今まで通り、学習のめあてや設問の意図を書くということを明確に提示していきます。
- 語彙力を豊かにするために、前年度と同様、授業の中で国語辞典や漢字辞典を活用していきます。

今後の具体的な取組について

- 文章を読んだり、相手の話を聞いて質問したりする機会を増やしていきます。
- 授業の中で同音異義語やことわざにふれたり、学習した漢字を文章に活かしたりする場面を増やしていきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 小数のかけ算の計算において、かける数を整数に置き換えて考えるとときの、かけ算の性質を理解しています。
- 二つの数の最小公倍数を求めることができます。
- 資料を二つの観点から分類整理し、表にまとめることができます。

《努力を要する所》

- 四則の混合した計算について理解し、正しく計算することに課題があります。
- 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解することに課題があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された条件を基に、適切な式を立てることができます。
- 示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができます。

《努力を要する所》

- 言葉や数、式などを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、考えを表現することに課題があります。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題があります。

これまでの取組から

- 「計算タイム」に取り組み、計算の基礎基本をしっかりと身につけることを大切にしてきました。
- 考える足掛かりや判断基準を示し、立てた式や数値の意味を説明したり、友だちの考えと比較したりする活動を取り入れた授業を進めてきました。

今後の具体的な取組について

- 他教科においても、自分の考えや判断の理由をしっかりと表現できる力を身につけられるよう取り組んでいきます。
- 算数は、低学年からの積み重ねです。今後も、基礎基本をしっかりと身につけ、学習を関連づけて進めていけるよう取り組んでいきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問では、全国平均を上回り、聞く姿勢が身につけていることがわかります。
- 「1日にどれくらい勉強していますか」の質問では、自主的に取り組んでいる時間が全国平均を上回っていることから、家庭学習が習慣化していることがわかります。

《課題と思われる所》

- 話し合い活動や発表する場面で自分の考えや意見を伝えることが苦手と感じている児童が多くみられます。
- 「授業で学んだことを他の学習や普段の生活にいかしていますか」の質問では、全国平均を下回っており、学習と生活が結びついていないことが伺えます。

生活について

《よかった所》

- 「学校に行くのが楽しい」と答えた児童が85%以上、「学校で友だちに会うのが楽しい」と答えた児童が95%以上と、多くの児童が学校を楽しんでいることがわかります。
- 「朝食を毎日食べていますか」の質問では、ほとんどの児童が食べていると答え、ご家庭での良い生活習慣が身につけていることがわかります。

《課題と思われる所》

- 地域の行事への参加率が46%です。大人のつながりだけでなく、子どもを中心としたつながりをもつことが今後の課題と言えます。
- 「自分には良いところがあると思いますか」の質問では全国平均を下回っており、自己肯定感が低いことがわかります。

今後の具体的な取組について



- 多くの児童が、自分の意見や考えを伝えることに苦手意識をもっています。学習や学校行事などの活動を通して、表現力を育てていきます。
- 読書時間は全国平均を上回っています。語彙力や表現力を身につけるためにも、引き続き朝読書など読書活動の充実を図っていきます。
- 本校の特色でもある地域との連携(CS)を大切にし、学校・家庭・地域がひびきあい、ともに子どもの成長を支えていきます。

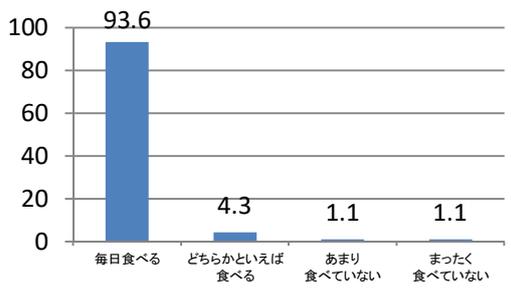
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、家で朝食をとりましょう。元気のみなもとです。

昨年同様、就寝時間、起床時間を決め、しっかりと朝食をとって学校に登校させてください。

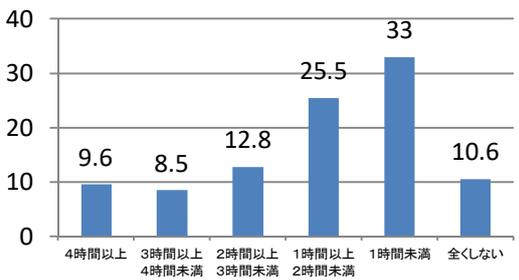
朝食を毎日食べていますか。



2 家庭でルールを決めましょう。

スマートフォンや携帯型ゲーム等、持ち歩くことができるものが増えています。ご家庭でのルールづくりにご協力をお願いします。

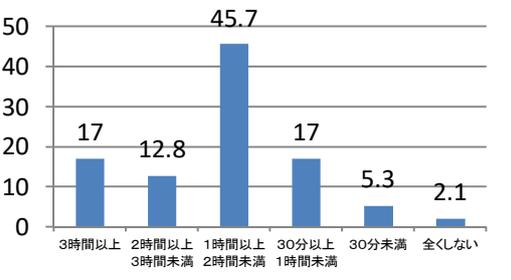
普段1日どれぐらいの時間ゲームをしますか。(スマートフォン等含む)



3 家庭での学習習慣をつけましょう。

学習時間の目安は、10分×学年です。子どもたちに学習の習慣が身につくように見守ってください。

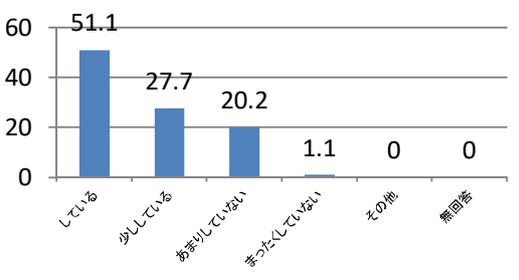
学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれぐらいの時間勉強をしますか。(学習塾等含む)



4 家庭でのコミュニケーションづくりを大切にしましょう。

家庭でのコミュニケーションは必要不可欠です。学校の出来事について話す時間をつくりましょう。

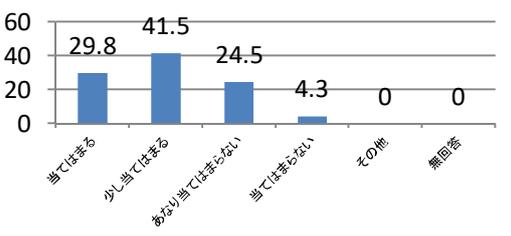
家の人(兄弟・姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



5 できるようになったことや、やさしい心が見えたらほめましょう。

自分のよさがわかったり、自信をもったりすることで、様々なことが飛躍的に伸びていきます。

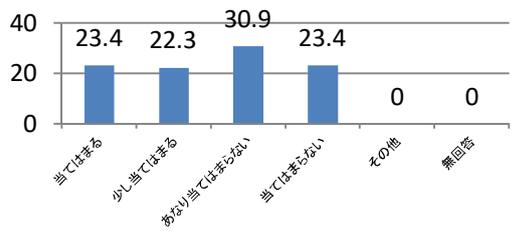
自分には良いところがありますか。



6 住んでいる地域の行事に参加しましょう。

地域の行事に参加する児童が減ってきています。子どもを知ってもらうことで安全も守られます。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成 29 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成 29 年 12 月
海老名市立社家小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 互いの話を聞き、話題に沿って話し合う。
- 目的・意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
- 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む。
- 俳句の情景を捉える。

《努力を要する所》

- 手紙の構成を理解し、後付けを書く。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 場面や目的・意図に応じ、適切な言葉遣いで話す。
- 目的・意図に応じ、引用して書く。
- 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。

《努力を要する所》

- 自分の考えを整理し、文章にまとめる。
- 目的・意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
- 物語の叙述を基に、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える。

これまでの取組から

- 読む力を高めるために、読書活動を充実させます。
- 他教科においても、目的・意図に応じて、自分の考えを伝えたり、話を聞いたりする活動を多く取り入れ、その力を向上させます。
- 意見や感想を書く機会を多く設定し、書くことに対する苦手意識をなくします。

今後の具体的な取組について

- 手紙を書く学習活動を、各教科等で意図的・計画的に設定し、日常生活で役立つように指導します。
- 慣用句やことわざに慣れ親しむ学習を多く取り入れ、日常的に活用できるように指導します。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 小数と整数の加法の計算をすることができる。
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。
- 二つの数の最小公倍数を求めることができる。
- 正多角形の性質を理解している。
- 未知の数量を表す口を用いて、問題場面を式に表すことができる。

《努力を要する所》

- 3桁の乗法の計算をする。
- 商を分数で表す。
- 高さが等しい平行四辺形と三角形について底辺と面積の関係を理解する。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された条件を基に、適切な式を立てることができる。
- 数量の関係が成り立つ理由を図と結びつけて考えることができる。
- 示された方法を解釈し、その方法を問題場面に適用することができる。

《努力を要する所》

- 数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現する。
- 仮の平均の考え方を活用して、測定値の平均を求める。
- 示された割合を基に、基準量と比較量の関係を捉える。

これまでの取組から

- 計算力に課題が見られるので、計算タイムをさらに充実させます。
- 既習の学習内容を使って、自力解決を図ることができる指導を引き続き行います。
- 問題場面の数量関係を図や数直線などに表す指導を行い、問題を的確に捉え、解決する力を向上させます。

今後の具体的な取組について

- 記述式問題や長文問題に取り組み、苦手意識をなくすようにします。
- 日常生活の問題解決のために、算数が役立っていることを実感できるような指導を行います。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 学校で好きな授業がある児童が多い。
 - ・ 90%を超える児童が「好きな授業がある」と回答している。
 - ・ 約 90%の児童が「国語や算数の勉強が大切」であり、「学習したことは将来役に立つと思う」と回答している。
- 家庭での学習の習慣が身についている。
 - ・ 95%を超える児童が「宿題をしている」と回答している。与えられた課題に対する取り組みが良い。
 - ・ 50%以上の児童が「学校の授業以外に平日 30 分以上読書している」と回答し、本に親しむ児童が多い。

《課題と思われる所》

- 表現活動が苦手な児童が多い。
 - ・ 「授業中(国語科含む)自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを難しい」と回答した児童が半数近くいる。
- 算数の学習を不得手としている児童がいる。
 - ・ 「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたい」と回答した児童の割合が 60%程で県や全国平均を下回っている。

生活について

《よかった所》

- 基本的な生活習慣が、身につけている児童が多い。
 - ・ 95%を超える児童が、ほぼ毎日朝食を食べ、起床時刻も、85%以上の児童がほぼ決まっていると回答している。
- 将来、外国とのつながりを持ちたいと考える児童が多い。
 - ・ 「外国の人と友だちになりたい」と回答した児童が 70%を越えている。また、半数近くの児童が、「将来外国へ留学や、国際的な仕事をしたい」と回答し、全国平均を大きく(10%以上)上回っている。

《課題と思われる所》

- 地域社会への関わり方が少ない。
 - ・ 「住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童が半数以下である。
 - ・ 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した児童の割合が県や全国平均を下回っている。
- TV・ゲームや携帯・スマホの使い方やルールについて改善の必要がある。
 - ・ 「約束を守っている」と回答した児童は半数以下で、「時間等の約束事が無い、あるいは、守っていない」と回答した児童がかなり多い。

これまでの取組から

- ALT と協同した外国語活動を充実や、インターナショナルスクールとの交流などを通し、児童は、外国に対する関心を高く持っています。今後、教科化される「英語」について、さらに意欲的に学習に取り組めるような授業をめざします。
- 全学年で、家庭学習への取り組みを充実させています。宿題等与えられた取り組みは大変良いので、自主的な学習に繋げていくようにします。本に親しむ児童は多く、日常の中で読書が習慣化しています。図書館支援員や図書ボランティアと協力しながら、今後も読書活動の充実を図っていきます。

今後の具体的な取組について

- 「分かる・できる・楽しい授業」をめざします。児童が「学習内容を理解できた」と思えるよう授業の工夫に努めます。計算タイムを継続し基礎学力の定着を図ります。話し合いの方法や文章の書き方などポイントを押さえた指導をすることにより、表現活動の充実をめざします。
- 家庭と連携を図りながら、子どもたちに「生きる力」を身につけさせます。学校での教育活動において、児童の良さを認め励まし、意欲を引き出すような指導をめざします。



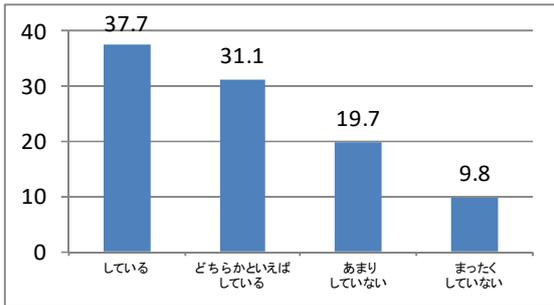
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 規則正しい生活習慣を心がけましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身につけることは、学習・体力・気力の向上につながります。

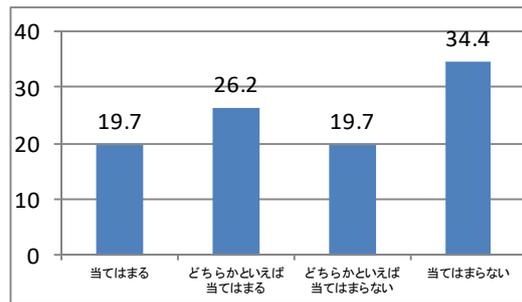
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



2 地域の行事に参加しましょう。

家族で、地域の行事に積極的に参加し交流の輪を広げましょう。

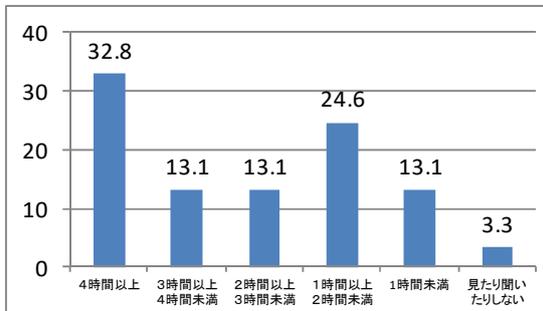
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



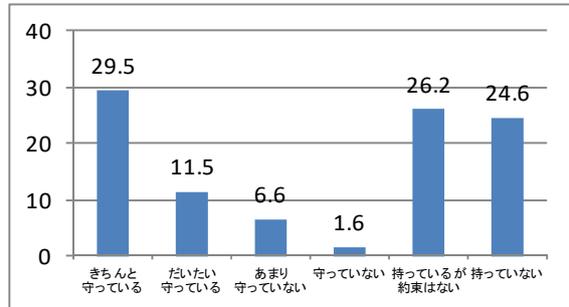
3 時間の使い方を見直し、ルールを決めましょう。

TVやゲームに費やす時間、携帯電話やスマートフォン等の使い方を見直し、家庭でルールを決めましょう。

普段一日にどれぐらいの時間テレビ等を見ますか。



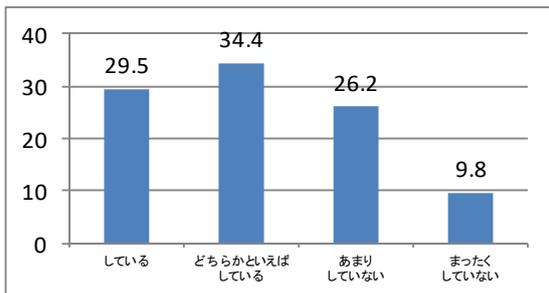
携帯電話等の使い方について家の人と約束したことを守っていますか。



4 計画的に学習に取り組みましょう。

宿題の取り組みは、良好です。予習や復習など自分で計画を立てて学習に取り組めるよう励ましてください。

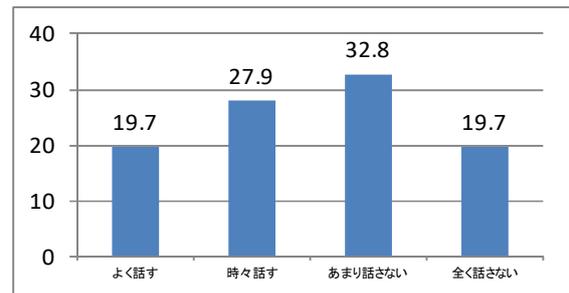
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



5 お子様と夢や目標について話し合みましょう。

9割程のお子様は「将来の夢や目標を持っている」と回答しています。一緒に話をする機会を作りましょう。

家の人と将来のことについて話すことができますか。



祝 40 周年



社家小

2017

平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



平成29年12月

海老名市立杉久保小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「書くこと」では、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができている。
- 「漢字の書き」では、特に「希望」をよく書くことができている。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、ことわざの意味を理解して、「三度目の正直」という言葉を自分の表現に用いることができている。

《努力を要する所》

- 「書くこと」では、手紙の構成を理解し、後付けを書くことができていない。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、ことわざの意味を理解して、「もちはもち屋」という言葉を自分の表現に用いることができていない。
- 俳句の情景を捉え、話し合いの様子の内容に沿って、どのような観点で俳句を紹介しようとしているのか捉えることができていない。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「書くこと」では、目的に応じて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことができている。
- 「読むこと」では、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、より優れた叙述を選択することができる。

《努力を要する所》

- 「話すこと・聞くこと」では、動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じた言葉遣いを適切に選ぶことができていない。
- 「グループの話し合いの様子」の場面では、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた言葉遣いで自分の考えを書くことができていない。

これまでの取組から

- 「漢字の読み・書き」を国語学習の基礎とし、授業や家庭学習等で反復して練習する場面を多く設けてきた。実際に文や文章の中で正しく漢字を使うなど、漢字を児童自ら活用し、応用する技能を高めていく必要がある。
- 「書くこと」では、相手や目的に応じたさまざまな表現方法を学習してきた。相手や目的に応じた表現方法を自ら取捨選択し、活用する経験を多く積ませる必要がある。

今後の具体的な取組について

- 「漢字の読み・書き」では、日頃から積極的に活用する意識をもたせる。例えば、授業では作文、新聞・リーフレット作りなどで積極的に漢字を使わせる指導をし、家庭学習では日記・短文作り等で経験を多く積ませる。
- 「書くこと」では、「読むこと」と関連付けて、国語辞書や漢字辞典の利用を習慣づけたり、読書や新聞の活用をしたりする指導を継続していく。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○「量と測定」では、示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶことについてよく理解できている。

○「数量関係」では、二次元表の合計欄に入る数を書くことがよくできている。

《努力を要する所》

○「数と計算」では、 $5 \div 9$ の商を分数で表すことができていない。商に表す時に、除法の被除数、除数と商の分子、分母の関係の理解が定着していない。

○「量と測定」では、円を使って正五角形をかくとき、円の中心の周りの角を何度ずつに分割すればよいかできていない。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○「数と計算」では、示された条件を基に、適切な式を立てることがよくできている。

○「数量関係」では、示された式の中の数が表わす意味を書き、その数が表のどこに入るかを理解している。

《努力を要する所》

○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を、立式したり選択したりすることができていない。

○身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述することができてない。

これまでの取組から

○校内研究を通して、具体物・半具体物を使って実感を伴った活動をしたり、式や図、言葉などを使って自分の考えをもち、発表する場を多く設けたりしてきた。そして、朝学習や家庭学習等で復習する習慣をもたせた。基礎的知識・技能を定着させ、問題場面の的確に捉える文章読解力等を高めていく必要がある。

今後の具体的な取組について

○問題場面の的確に捉えて、判断の理由を数学的に表現する力を高めるために、校内研究を通して「式、図、言葉に関連づけて説明する」ことを引き続き大切にしていく。

○日常生活の事象を、既習事項を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする場面を、学習の中に意図的に取り入れる。

○具体的な操作や実験・実測などの活動を工夫し、量感をつかむことができるようにする。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という設問では、当てはまる、どちらかといえば、当てはまると答えた児童の割合は県や全国の平均を約10ポイント上回っている。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか」という設問では、当てはまると答えた児童は75%と県や全国の平均を上回っている。

《課題と思われる所》

○自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思う児童の割合が高く、書くことへの課題がある。

○国語の勉強が好きだという児童の割合が、県や全国の平均より10ポイント以上低く、国語に対する苦手意識がみられる。

○今回の調査（国語・算数）に取り組む時間が足りなかったと答える児童の割合が高く、時間内で処理する力に課題がある。

生活について

《よかった所》

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」という設問では、当てはまると答えた児童は90%と県や全国の平均を上回っている。

○「自分にはよいところがあると思いますか」という設問では、当てはまると答えた児童は非常に多く、どちらかという当てはまると答えた児童と合わせて81%と県や全国の平均を上回っている。

《課題と思われる所》

○平日における家庭での学習時間が30分未満の児童が26%、休日全くしない児童が約19%である。また、家で自分で計画を立てて勉強をする習慣がない児童が50%と、県や全国の平均と比べて約15ポイント低い。これらより、生活習慣と学習習慣ができていない児童の割合が高いことがわかる。

○携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守れている児童が少なく、節度をもった行動に課題がある。

これまでの取組から

○日々の学習の中で、話し合い活動や調べ学習を多く取り入れてきたため、意欲が向上している。今後も自分の考えを文章にまとめたり、発表したりするなどの、言語活動を充実させていく。

○朝読書や、PTAの協力を得た本の読み聞かせなど、本に親しむ機会を大切にし、継続していく。

今後の具体的な取組について

○家庭学習の充実を目指し、学年の発達段階を踏まえ、系統的な学習のあり方を検討する。その際、保護者の理解と協力を得るため、連携を十分に図るようにする。

○携帯電話やスマートフォンに関する子どもへの「ネチケツ」を学ぶ機会を設けるとともに、保護者へ様々なネットトラブルの現状や気をつけたいことを伝えていくようにする。



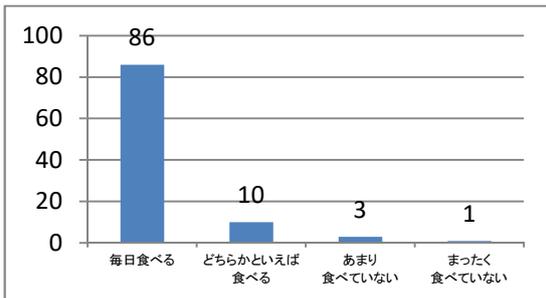
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、朝食をとりましょう。

朝食は一日の活動の大切なエネルギーです。しっかりと朝食をとらせ、登校させてください。

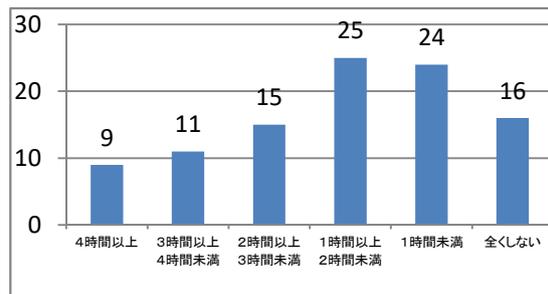
朝食を毎日食べていますか。



2 テレビゲームやPC・スマホゲームなど、時間を決めてやりましょう。

ゲームをする時間を決めるなどをして、家族とのコミュニケーションの時間を増やすことも大切です。

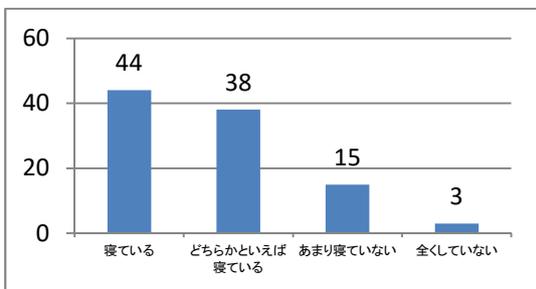
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 睡眠時間の確保を。

体をつくる成長期の子どもたちにとって、睡眠は大切です。

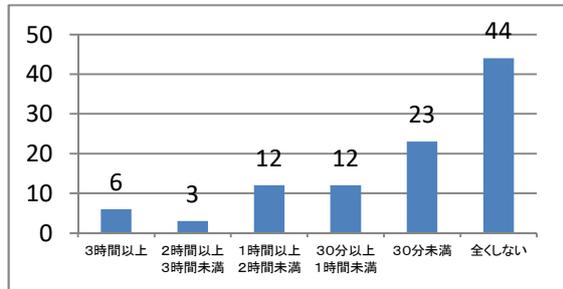
毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか。



4 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするときのルールを家庭で決めましょう。

携帯電話やスマートフォンなどを安易に与えず、与える際には必ず家庭のルールを決めましょう。

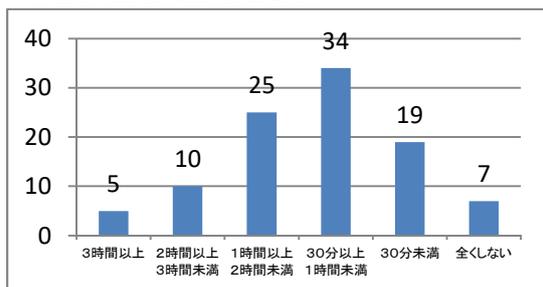
普段一日あたりどれぐらいの時間、携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



5 毎日、家庭学習の時間を決めて勉強しましょう。

毎日の積み重ねが学習の定着につながります。

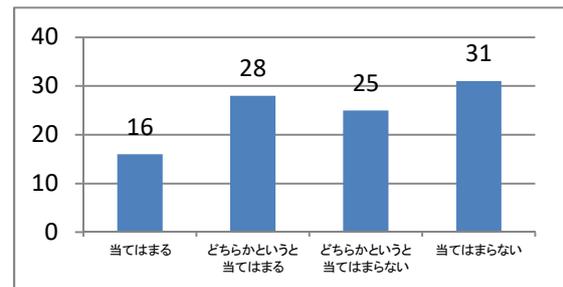
普段一日あたりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(塾・家庭教師を含む)



6 地域とのつながりを大切にしていきましょう。

子どもは地域で育ちます。今後も地域での催しには進んで参加をうながしてください。

今住んでいる地域の行事には参加していますか。





平成29年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成29年12月
海老名市立今泉小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 俳句の読み取りの問題では、話し合いの様子から、俳句の情景や作者の思いを捉えることができます。
- お礼の手紙について、書かれている内容の説明として、適切なものを選択することができます。

《努力を要する所》

- ことわざの使い方の例として、適切なものを選択する問題の正答率が低いです。
- 日頃よく使う漢字の読み書きの正答率は高いものの、あまり使わない漢字の正答率が低いです。
(置く79.4%、指示94.4%、対象34.6%)

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 物語の登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、当てはまる言葉として適切なものを選択することができます。
- 選択式の問題は無解答率が低く、正答率が高い傾向にあります。全体的に、選択肢の中から答えを選ぶ解答の仕方に慣れているといえます。

《努力を要する所》

- 目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く問題の正答率が低いです。
- 文章と問題を関係づけて、いくつかの条件を満たしながら自分の考えを書く問題の正答率が低いです。

これまでの取組から

- 漢字の読み書きについては、学校だけでなく宿題等でも練習するようにし、学年の積み重ねを重視してきました。
- 読み聞かせや朝読書等の読書活動を通して、物語や他のジャンルの本に親しむ機会を作ってきました。

今後の具体的な取組について

- 自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉や文字で表現する学習を重視していきます。併せて、ノート指導の充実も図っていきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 小数と整数の加法では、位を正しくそろえて計算することができます。
- 資料を二つの観点から2次元表に分類整理することができます。

《努力を要する所》

- $6+0.5\times 2$ のような加法と乗法の混合した計算で、乗法を先に計算せず、 $6+0.5$ から計算している児童が1/4以上をしめています。
- $5\div 9$ の商を分数で表す問題では、商を小数で表そうとしたり、小数で表した後に分数にしようとしている児童が17.7%います。
- を使って式に表す問題では、 $\square\div 10=5$ を、 $10\div \square=5$ や $\square\times 5=10$ のように答えた児童が約1/4おり、問題場面の数量関係を的確にとらえ文脈通りに式に表すことに課題がみられます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 問題で示された考え方の例に沿って、出題された課題に多くの児童が正しく答えることができます。

《努力を要する所》

- 「式を書きましょう。また、答えも書きましょう。」という設問の正答率が、全国や県の平均と比べて、約15ポイント低いです。誤答のうち、式と答えのどちらか一方しか記入していない児童が10%以上いることから、設問を理解する力に課題があると考えられます。
- 全11問のうち、8問で無解答率が全国や県平均より高いです。最後まで粘り強く取り組もうとする態度に課題があると考えられます。

これまでの取組から

- 低学年での、ブロック等具体物や図を使った位についての指導により、位についての理解が定着しています。
- 課題に対する友達の考えや教科書の例に示された解決方法を理解させ、類題に取り組ませています。

今後の具体的な取組について

- 基礎的基本的な事項の学習においても、図や数直線などを使って考える場を設定し、実感的に理解できるように指導していきます。
- 児童の学習に向かう意欲を高め、一つの課題に対しても多様な考え方や算数的な表現方法に数多く触れさせるための指導の在り方を考えていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 読書が好きだと感じている児童が多いです。
（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が、本校76.6%、全国74.3%）
- 家庭で、授業の復習に取り組んでいる児童の割合がやや高いです。
（「している」「どちらかといえばしている」が、本校57%、全国54%）

《課題と思われる所》

- 友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意な児童の割合が低いです。
（「当てはまる」「やや当てはまる」が、本校48.6%、全国52.2%）

生活について

《よかった所》

- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人との約束があるという児童が多いです。また、その約束を守っている児童が多いです。
（「きちんと守っている」が、本校32.7%、全国30.9%）
- 朝食を毎日食べている児童が84.1%と多いです。

《課題と思われる所》

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問で、「どちらかといえば当てはまらない、当てはまらない」と答えた児童の割合が11.2%です。

これまでの取組から

- 読書が習慣化するように、朝読書や、図書ボランティアさんによる読み聞かせの活動に取り組んできました。
- ケータイ安全教室など、情報モラルに関する指導機会を増やし、相手の立場を考えた使い方について指導してきました。

今後の具体的な取組について

- ペアや少人数グループでの話し合い活動を充実させることで、子どもたちが自信をもって発表に臨める環境づくりを行います。
- 子どもたちがお互いを思いやり、尊重できるよう、生命や人権を大切にする指導や道徳教育の充実を図っていきます。



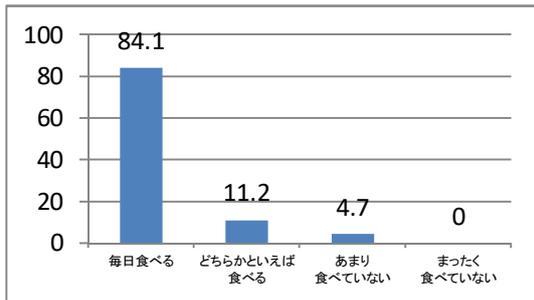
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 朝ごはんを毎日食べて、元気に過ごしましょう。

毎日、朝ご飯を食べて登校する児童の割合が高いです。これからも継続しましょう。

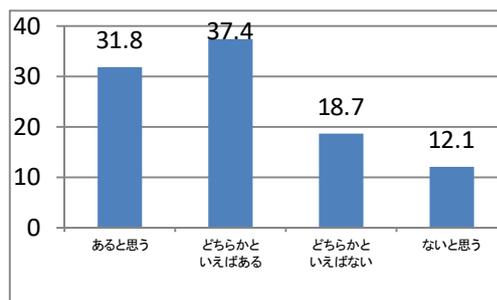
朝食を毎日食べていますか。



2 子どもの良さを認めて褒めてあげましょう。

褒められることで自己肯定感が高まり、自分に自信を持ち積極性が培われます。

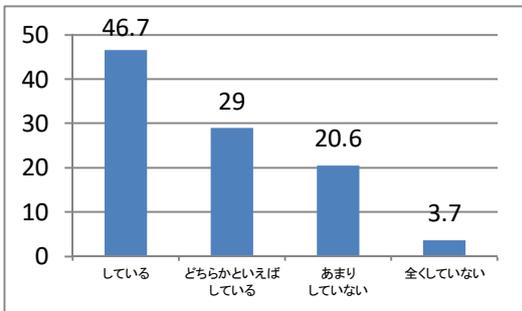
自分には、よいところがあると思いますか。



3 学校の様子を話題に、家族の会話を増やしましょう。

学校の様子を知ることができるので、積極的に会話をしましょう。

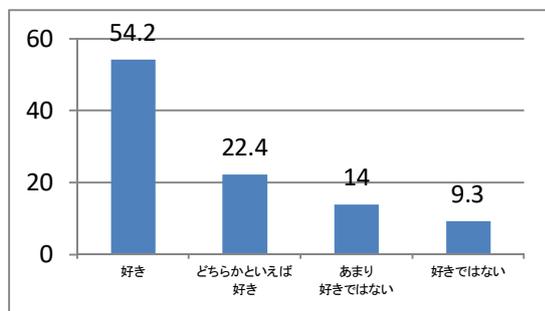
家の人と学校での出来事について話をしますか。



4 読書で本に親しむ環境をつくりましょう。

読書が好きだと感じている児童が多いです。

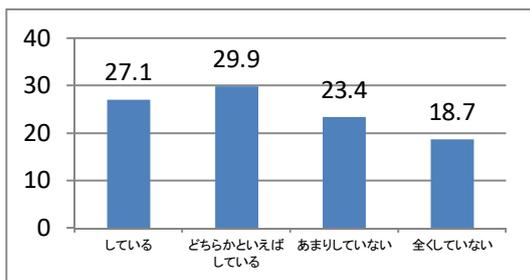
読書は好きですか。



5 家庭学習の習慣を継続しましょう。

授業の復習をすることで、学びが定着し学力向上に繋がります。これからも継続しましょう。

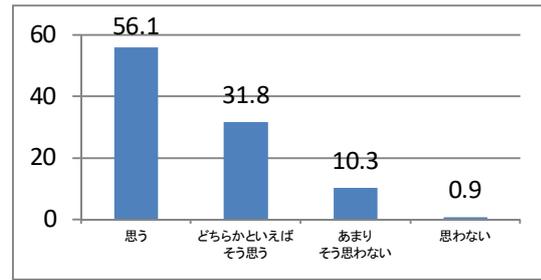
家で学校の授業の復習をしていますか。

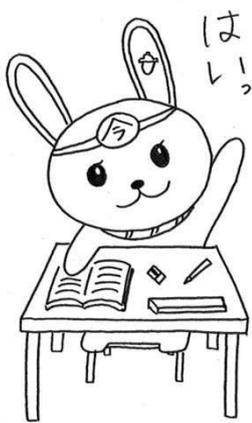


6 いじめは絶対にいけないことを伝えましょう。

友達との関わりなどについて話をする中で、いじめは絶対にいけないことだということを伝えましょう。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。





平成29年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成29年12月
海老名市立杉本小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 国語A全体として、結果は良好です。
- 目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読んだり、俳句の状況を捉えたりなど、読むことに関する能力が比較的高いです。
- 漢字やことわざなど、言語についての知識が全体的に身についています。

《努力を要する所》

- 手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題があります。
- 「対象」という漢字を書くことに課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモの良さを捉えることができています。
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができています。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることが、全国に比べてできています。

《努力を要する所》

- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題があります。
- 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題があります。

これまでの取組から

- 水曜日と金曜日に朝読書を行っています。読書習慣が身につく、時間を見つけては本を開いている児童が多くいます。
- 授業において自分の考えを述べるときは、できるだけ理由や根拠をもとに述べるよう指導しています。

今後の具体的な取組について

- 今年度より、校内研究において総合的な学習の時間と国語科の学習を関連づけながら、それぞれの教科で学んだことが相互に生かせるよう取り組みます。
- すべての学習の基礎となる「読む・書く・話す」については、繰り返し行うことで定着を図ります。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

【数量や図形についての技能】

- 未知数を口で表し、問題場面にあった式に表すことができます。
- 資料を二次元の表に的確に整理することができます。

【数量や図形についての知識理解】

- 立方体の展開図から平行になる面を探したり、円を使って正五角形のかきかたを考えたりすることが的確にできます。
- 乗法の性質を使って、小数の計算方法を的確に考えることができます。

《努力を要する所》

【数量や図形についての技能】

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

【数学的な考え方】

- 示された条件をもとに、適切な式を立てることができます。
- 測定値のデータから、飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を正しく判断することができます。
- 基準量・比較量・割合の関係を理解し、その関係を表した図を正しく選択することができます。

《努力を要する所》

- 考え方を記述する問題は、努力を要します。また、無解答率もやや高いです。

【数学的な考え方】

- 目的に合わせたグラフがどれであるかを考える場面に課題があります。

これまでの取組から

- 校内研究でめざしてきた「互いに伝え合い考えを高め合う子の育成」の成果を生かし、児童が相互に学び合う姿勢を大切に取り組んでいます。

今後の具体的な取組について

- 「数学的な考え方」においては知識・技能の定着の上に【図や式や言葉で理由を説明できる】【数値を根拠として説明できる】などの活用する力を高められるように指導の工夫・改善を図ります。
- 「基本的な数量や図形についての知識・技能」は、ドリル学習等を活用し、今後も繰り返すことにより定着を図ります。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 96%の児童が家で宿題に取り組んでいます。
- 多くの児童が読書を好んでいます。
- 授業の中で分からないことがあったらそのままにせず、先生や友だちに尋ねて解決しています。

《課題と思われる所》

- 宿題には多くの児童が取り組んでいますが、進んで予習や復習に取り組んでいる児童は少ないです。
- 算数の勉強を大切だと思っているものの、あまり好きではありません。
- 学級の友だちとの話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると考えている児童が少ないです。

生活について

《よかった所》

- 92%の児童が毎朝朝食を食べているなど生活習慣は、比較的良好です。
- 規範意識があり、学校のきまりを守ろう、いじめはどんな理由があってもいけないと思っている児童が9割以上います。

《課題と思われる所》

- 半数以上の児童が人前で自分の考えを発表することに苦手さを感じています。
- 難しいことでも、失敗を恐れずチャレンジすることに抵抗がある児童の割合がやや高いです。
- 地域社会などでボランティアに参加している児童が少なく、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心が低いです。

これまでの取組から

- 図書支援員により、図書室の蔵書を見直したり、環境の充実を図っています。朝の読書タイム（水・金）では、読書の楽しさを味わえるよう今後とも継続していきます。
- 低学年のうちから、学年に応じた宿題などにより家庭学習の定着を図っています。高学年では、自ら課題を見つけ予習や復習などの自主学習に取り組めるよう指導していきます。

今後の具体的な取組について

- 話し合い活動の中で、友だちの考えや意見から自分の考えが深まるような授業展開の工夫をしていきます。
- 友だちの前で自分の考えを発表できる学級の雰囲気づくりや失敗を恐れずチャレンジする大切さを伝えていきます。



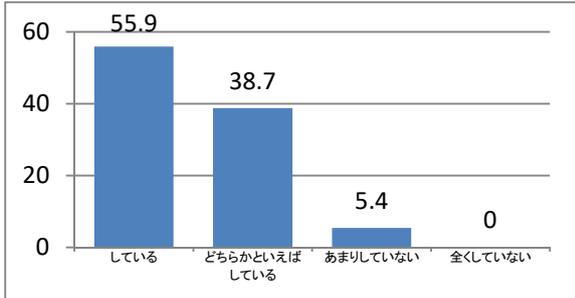
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

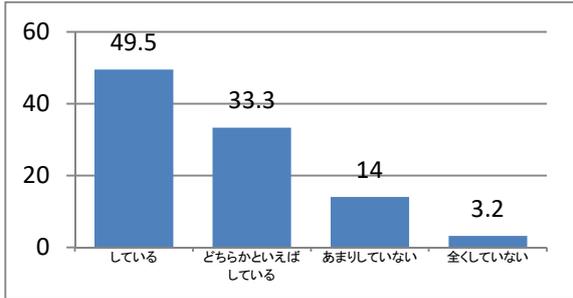
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

起床時刻に比べて、就寝時刻にばらつきがあるようです。夜更かしをしたり、テレビ画面などから強い刺激を受けたりすると、睡眠の質が低下するといわれています。就寝前の過ごし方の見直しや快適に入眠できる環境づくりに取り組みましょう。

毎日、同じくらいの時間に起きていますか。



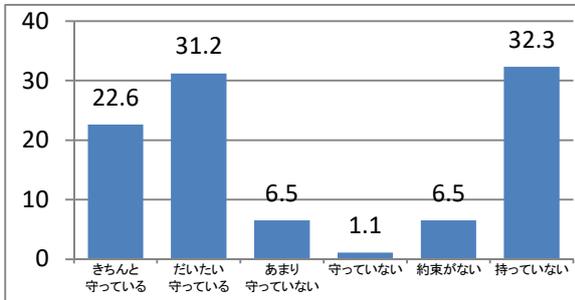
毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。



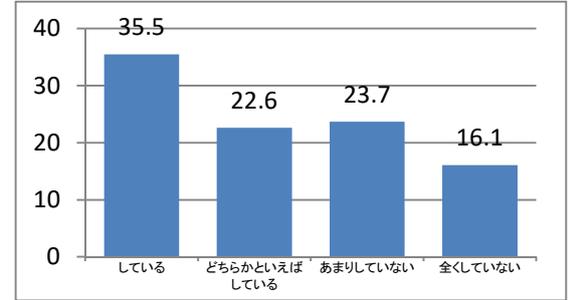
2 ルールを決めて使用しましょう。

携帯電話に関しては、使い方の約束が守れていると答えた割合が高いですが、テレビやゲームの使用に関しては、ルールを決めていない家庭が多いようです。児童が適切に使用できるように定期的にご家庭で話し合い、ルールを見直しましょう。

携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



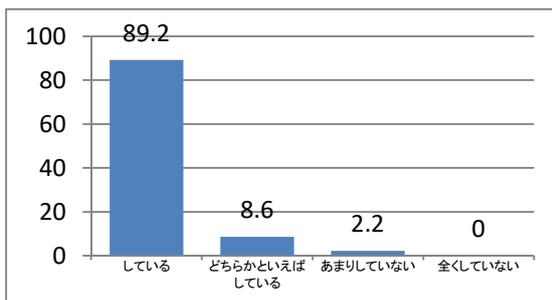
テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。



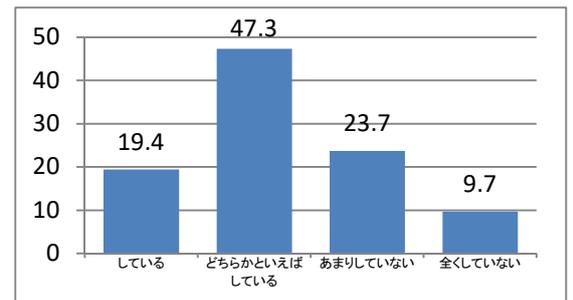
3 計画的に家庭学習に取り組みましょう。

家庭学習に関する項目では、ほとんどの児童が宿題に取り組んでいる様子がわかる一方で、計画を立てて学習に取り組んでいる割合が低いようです。自学自習の習慣を身につけるために、児童自らが計画を立てて学習に取り組めるような支援を図りましょう。

家で、学校の宿題をしていますか。



家で、計画を立てて勉強をしていますか。





平成29年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成29年12月
海老名市立海老名中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○目的や状況に応じて語句を選択する、文章の構成を工夫するなど、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力にすぐれています。

○古典の知識や行書の書き方といった伝統的な言語文化への造詣が深いです。

《努力を要する所》

○文脈に即した漢字の読み書きに課題が見られます。特に書く問題に関しては、他の項目より正答率が低く、無解答率が顕著に高くなっています。

○「読むこと」では文学的な文章において登場人物の描写をしっかりと読み込む力を身につけることが必要と考えます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○「書くこと」の設問に高い正答率を示しました。特に目的に応じて必要な情報を集め、それを整理して文章を構成する力が身につけています。授業の中で感想文や意見文、要約文などに日常的に取り組んできた成果だと考えられます。

○「活用」する力を問われる国語Bでも、無解答率が低く、設問に真摯に取り組む姿勢がうかがえます。

《努力を要する所》

○比喩などの表現技法をとらえる力に課題があります。知識として表現技法を覚えるだけでなく、文学的文章を読む際に内容理解に加えて表現の特徴についても読み取る力が求められます。

これまでの取組から

○スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションと各学年で系統立てて取り組んでいます。状況に応じて相手に分かりやすく伝えるという点において成果が表れていると考えられます。

今後の具体的な取組について

○昨年度に続き、言語の知識・理解・技能の設問において課題がみられました。漢字の小テストは現在も定期的に行っていますが、繰り返し学習することで漢字の定着を目指します。また、文章を読んで心に残った言葉や文、感想などをノートに書き留めておき、それを基にしてグループ学習を行うなど、言語に関する思考を深めていく指導につとめます。

数学に関する調査結果

数 学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 正負の数・文字式・方程式など、計算力はしっかり定着しています。
- 一次関数の意味を理解し、グラフや表から式を求めることができます。
- 確率に関しても、サイコロ・くじとともに、その仕組みを理解し求めることができます。
- 図形の仮定、合同条件を理解しています。
- 全体的に定着度は高く、計算も正確にできる、関数で関係を表す事柄を式に表すことができます。

《努力を要する所》

- 数量の関係を一次方程式で表すことには、課題が残ります。
- 空間図形の空間認知力にやや課題が残ります。
- 資料の整理で、言葉の意味を正確に理解する必要があります。

数 学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を式に表したり、その次を予測することができています。
- 表やグラフを基に事象を考察する場面では、正確に読み取ることができます。
- 図形の証明や、求角が正確に理解できています。

《努力を要する所》

- 記述式の設定において、数学的な表現を用いた理由の説明や、式の意味などの説明などに課題があります。
- 資料の整理では、根拠や特徴などを説明する語彙力に課題があります。

これまでの取組から

- 正確でスピードのある計算力と、あきらめずに最後まで取り組むことができます。そのため、記述式の設定に対して全国平均より正答率が高く、無解答率もすべての設問で低い結果につながっていると考えます。

今後の具体的な取組について

- 数学的な表現を用いて説明する場面をより多く設けて、課題解決の方法を説明する場面を多く作ります。
- 計算力のさらなる定着を目指し、ケアレスミスをどれだけ減らすことができるのか、練習を継続していきます。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○土日も含め、家庭で勉強する生徒が多く、計画を立てて取り組んでいます。内容は復習よりも予習をよく行っています。

○学校で好きな授業があると答えた生徒が87.4%で、全国や県を約9%上回っています。

《課題と思われる所》

○国語の授業はよくわかると答えた生徒が84.3%で全国や県を上回っています。しかし、自分の考えを他の人に話したり、文章にするのは難しいと考えている生徒が多く見られました。

○正確でスピードのある計算力、最後まで取り組む姿勢があるのに、数学への関心が全国に比べて少ないです。記述式の設問に対し数学的な表現を用いた説明などに課題があります。

生活について

《よかった所》

○基本的な生活習慣がきちんと出来ている生徒が多く、規範意識も高く96.8%の生徒が規則を守っていると答えています。

○物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがあると答えた生徒は96.9%で、全国や県を大きく上回っていました。

○「家の人と学校のことについてよく話をする」では、よく話しているが79.2%で全国や県を大きく上回っています。

《課題と思われる所》

○「失敗を恐れないで挑戦していますか」「困っている人を進んで助けていますか」「将来の夢や希望をもっていますか」の問いでは当てはまると答えた生徒が全国より少なかったです。

これまでの取組から

○言語活動の充実を図るため、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動を通して、発言する機会や友達の話聞いて考える活動を多く取り入れています。「学校で好きな授業がある」と多くの生徒が答えているのは、成果の表れだと思います。

今後の具体的な取組について

○授業の最初に学習目標を明確に伝え、目的意識をもった授業参加ができるように指導していきます。力量はあるのに、自信の無さから行動に移れないところがあるので、家庭とも連携を図りながら、自信を持って行動できるよう指導していきます。

○学校生活全体を通して、互いを認め合い、より有効な人間関係を構築し、一人ひとりの生徒を大切にしている指導を心がけていきます。



ご家庭で取り組んでいただきたいこと

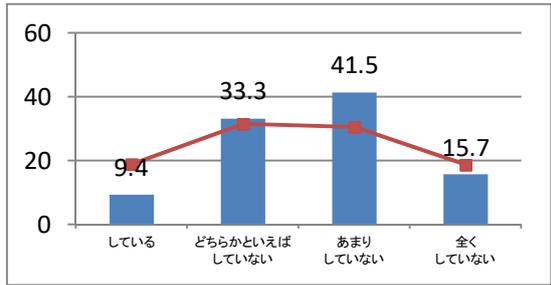
平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい5つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

棒グラフ(青)・・・海老名中学校 折れ線グラフ(茶)・・・全国

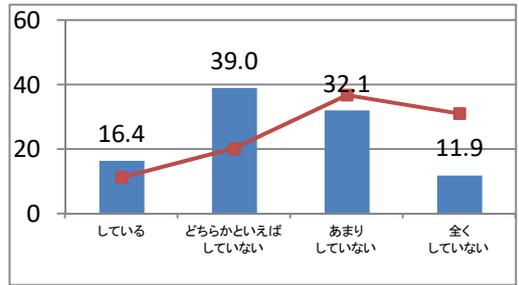
1 家庭でも意欲的に学習に取り組みましょう

家でもしっかりと意欲的に勉強しているようです。復習よりも予習に力を入れているようです。

家で学校の授業の復習をしますか



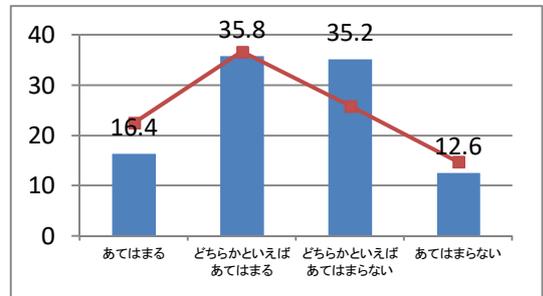
家で学校の授業の予習をしますか



2 地域に関わりましょう

地域の行事やボランティアに積極的に参加しましょう。助け合いの精神を持ちましょう。

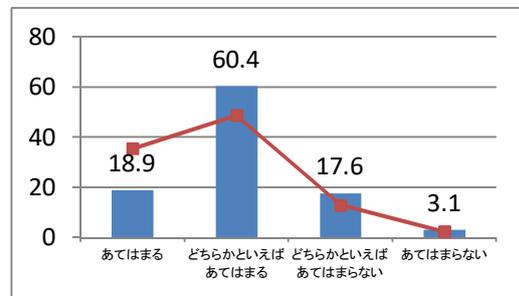
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



3 困っている人を助けましょう

困っている人を優しく助けてあげましょう。自分が困っている時には助けてくれるはずです。

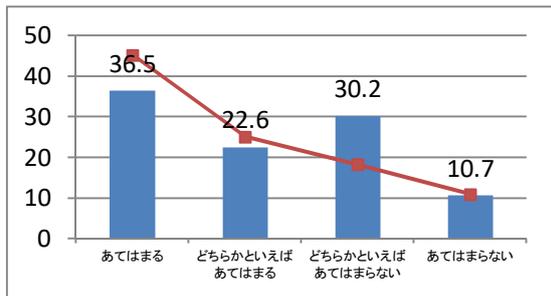
人が困っているときは進んで助けていますか



4 将来の夢や希望を大切にしましょう

将来の夢を持つことにより、日々の生活に活力が湧いてきます。

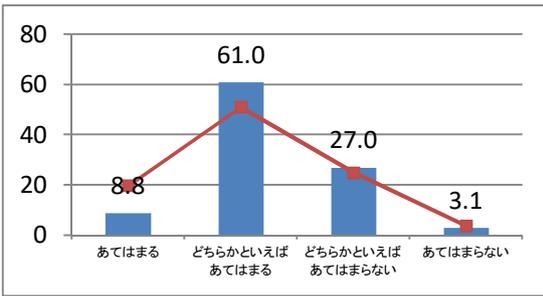
将来の夢や目標を持っていますか



5 積極的にいろいろなことにチャレンジしましょう

失敗と反省を繰り返して成長していきます。失敗を恐れて何もしないと成長しません。

失敗を恐れずに挑戦していますか





平成29年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成29年12月

海老名市立有馬中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「漢字の読み」はおおむねできています。
- 文章表現において、読者がその情景をより感じる表現方法や、効果的な言葉の使い方について理解しています。
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができます。

《努力を要する所》

- 「漢字の書き」に課題があります。
- 書写における楷書と行書の特徴を理解することに課題があります。
- 古典の種類についての理解に課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 選択問題はおおむねできています。
- 文章を読んで、筆者が伝えたい意味を理解することができます。
- さまざまな説明資料の内容を理解し、それぞれの使い方について工夫することができます。

《努力を要する所》

- 文章を書いて答える問題に課題があります。
- 感じたことや伝えたい内容を適切に盛り込んで、文章表現することに課題があります。
- 質問の意図を明確にして、文章表現することに課題があります。

これまでの取組から

- 「話すこと・聞くこと」の力がついてきています。授業で「グループワーク」を行うことにより、より分かりやすく伝えるためには、どのような表現が適切かを選択する力がついてきています。
- 定期的な漢字の学習により、「読み」の力が向上しています。

今後の具体的な取組について

- 漢字小テストを定期的に行い、反復することで「漢字の読み・書き」の定着を目指します。
- 「グループワーク」を授業に取り入れ、相手に伝えたい内容を、分かりやすく表現する力をさらに高めます。



数学に関する調査結果

数 学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 加減乗除の基本的な計算問題がよくできています。
- 文字式の基本的な計算問題ができています。
- 一元一次方程式を解くことができます。

《努力を要する所》

- 数量の関係など、具体的な場面で、一次方程式に表わすことに課題があります。
- 図形問題で角度や証明する問題に課題があります。
- 資料から答えを導き出すことに課題があります。

数 学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 図形での点が移動することによる角度の変化について、正しい記述を選ぶことができます。
- 作りたい万華鏡の形を作成するために、正しい模様を選ぶことができます。

《努力を要する所》

- 図形問題で、数学的表現を用いてその関係性を表現することに課題があります。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に表現することに課題があります。

これまでの取組から

- 定期的に基本問題を行うことにより、整数の計算問題や文字式の計算問題の正答率が上がってきています。

今後の具体的な取組について

- 1年次で実施している「少人数制授業」を継続して展開し、基礎的な知識・理解の向上を図っていきます。
- 手作り教材や小テストを実施し、学習意欲につながる「わかる」「できる」授業実践を行います。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「学校で、好きな授業がありますか」の問いに、「そう思う」と回答した生徒が全国平均よりもかなり上回っています。
- 「数学の勉強は好きですか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国平均を上回っています。

《課題と思われる所》

- 「家で、学校の宿題をしていますか」では、「している」と回答した生徒が全国平均をかなり下回っています。

生活について

《よかった所》

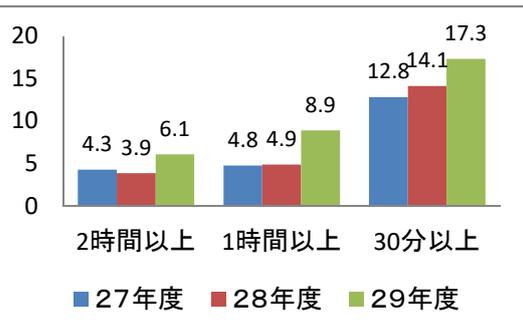
- 「人の役に立つ人間になりたいですか」の問いに、「当てはまる」と回答した生徒が全国平均よりもかなり上回っています。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」で、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が92%と、全国平均よりも上回っています。

《課題と思われる所》

- 「携帯電話・スマホ・インターネット」を1日に使う時間が「4時間以上」「3時間以上」と回答した生徒が全国平均よりもかなり上回っています。

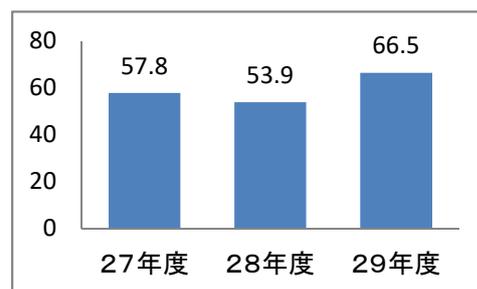
これまでの取組から

「1日に読書をどのくらいしますか」
読書をする生徒が、毎年増加しています。



「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」
「当てはまる」の割合(%)

授業での話し合い活動により、意見を発表し合う力が高まっています。



今後の具体的な取組について

- 「家で計画を立てて勉強していますか」で、「していない」と回答する生徒が多いことが課題ですが、「している」と回答する生徒が、毎年増加しています。
小中一貫教育9年間の学習のあり方で、家庭学習の定着を目指して取り組んでいきます。



ご家庭で取り組んでいただきたいこと

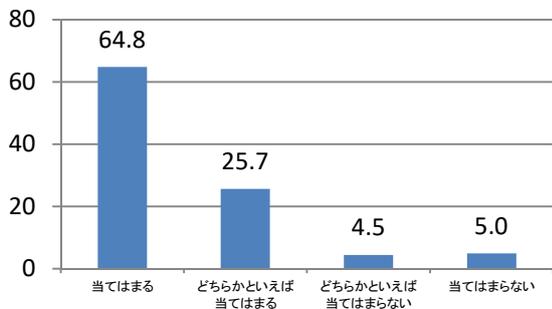
平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。

毎年、全国平均よりもかなり高い有馬中学校のよさです。さらなる向上を目指して取り組んでいきたい項目です。

1 協力して、やり遂げる力の育成。

意欲的に参加し、仲間と協力してやり遂げる楽しさを体験できる活動づくりに取り組みます。

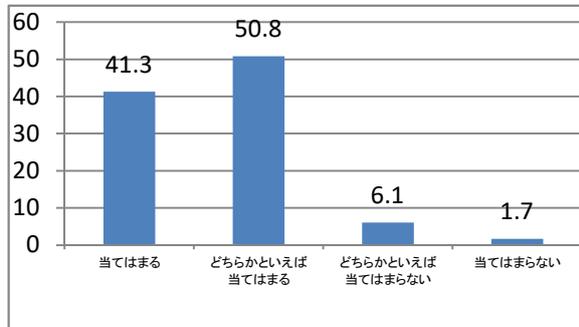
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



2 人に優しい「温かい」学校づくり。

仲間が困っていると声をかけ、励まし合って活動をしています。大人の温かい支援で学校づくりに取り組みます。

人が困っているときは、進んで助けていますか。

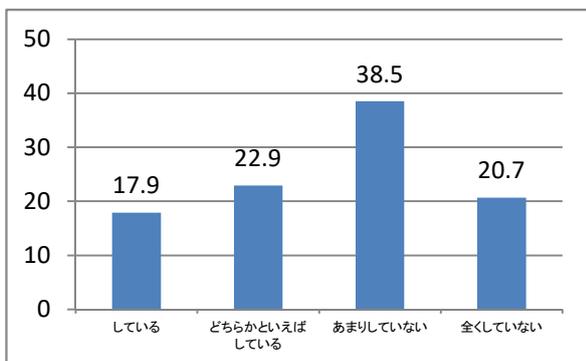


毎年、全国平均よりも低い有馬中学校の課題です。今後、改善を目指して取り組んでいきたい項目です。

3 家庭学習に取り組みましょう。

下記の「している」は全国平均と同じですが、「していない」と回答した生徒がかなり多いです。家庭学習の習慣づくりをしましょう。

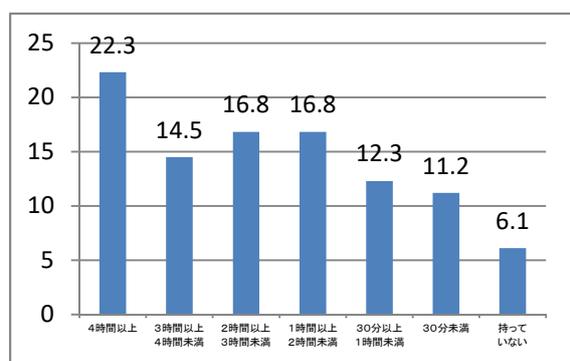
家で、計画を立てて勉強をしていますか



4 携帯電話やスマホでの通話やインターネットの使用時間を減らしましょう。

使用時刻や時間を決めましょう

平日は1日どれくらいの時間、携帯電話やスマホでメールやインターネットをしますか。(ゲームの時間を除く)





平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海西中イメージキャラクター
「カイチュウ」

平成29年12月
海老名市立海西中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○「話す・聞く」能力に優れています。

特に、設問2の一で問われた、目的に応じて資料を効果的に活用して話す力に優れています。また、設問7の二で問われた話すための材料を人との交流を通して集める力にも優れています。

○「書く」能力に優れています。

特に設問5の二で問われた、目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる力に優れています。

《努力を要する所》

○「言語についての知識・理解・技能」に努力を要します。

設問9の一で問われた文脈に即して漢字を正しく書く力に課題が見られました。また、設問9の五で問われた、事象や行為などを表す多様な語句について理解する力にも課題が見られました。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○「話す・聞く」能力に優れています。

特に、設問1の一で問われた、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する力に優れています。また、設問1の二で問われた、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する力にも優れています。

○「読む」能力に優れています。

特に設問3の二で問われた、目的に応じて必要な情報を読み取る力に優れています。

《努力を要する所》

○「言語についての知識・理解・技能」に努力を要します。

設問1の三で問われた、表現の仕方について捉え、自分の考えを書く力に課題が見られました。比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問いで、「本の一部」から比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出すことが不十分なためでした。全国的に正答率が低い設問ですが、無解答率が、全国平均よりとても低かったことは評価できます。

これまでの取組から

○学期ごとにテーマを設定し、スピーチを実施しています。学年が上がることに、難易度を上げるなどの取り組みが成果となっていると考えます。

○書く力の定着に向けて、読書感想文や、自分の意見をまとめるなどの取り組みを定期的に行っていることが成果となっています。

今後の具体的な取組について

○【言語についての知識・理解・技能】についての理解を深めます。特に文章中の表現に着目し内容を理解できるよう、計画的に取り組めます。

○話し合い、意見発表、論述などの言語活動で、自分の考えを記述する場面を多く設けます。その際、理由を明確にして相手にわかりやすく説明することに重点を置いた指導を積み上げていきます。



数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○「数と式」の領域における、「**数学的な技能**」に優れています。

特に設問の3(1)で問われた分数を含んだ連立方程式を正しく解く力に優れています。

○「図形」の領域における、「**知識・理解**」に優れています。

特に、設問の7(1)で問われた証明の根拠として用いられる三角形の合同条件についてよく理解しています。

《努力を要する所》

○「関数」の領域における、「**知識・理解**」に努力を要します。

特に、設問の9で問われた、長方形の縦の長ささと面積の関係を言葉で表すことに課題があります。独立した変数と、それに対応する値の関係が逆になっている誤答が多く見られました。

○「資料の活用」の領域における、「**数学的な技能**」に努力を要します。

特に、設問の14(2)で問われた度数分布表から階級の相対度数を求める力に課題があります。全体の度数を1と考えず、階級の度数や階級値を度数分布表から読み取り、導きだした誤答が多く見られました。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○設問全体を通して、無解答率が全国平均よりも低い点が評価できます。

○「図形」の領域における、「**数学的な見方や考え方**」に優れています。

特に、設問の4(1)で問われた図形の合同を、筋道を立てて証明する力に優れています。また、その他の図形の問いでは、図形の対称性を捉える力が身につけていることがわかります。

○「数と式」の領域における、「**数学的な見方や考え方**」に優れています。

特に、設問の2(1)で問われた、文字式を用いて事象を考察する力に優れています。

《努力を要する所》

○設問全体を通して、根拠を示し、説明する力に課題があります。

○「資料の活用」の領域における「**数学的な見方や考え方**」に努力を要します。

特に設問の5(3)で問われた資料の傾向を的確に捉え、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明する力に課題があります。

半数以上の生徒が記入しながらも、誤答となっていることから、資料の的確な読み取り、正確な表現が課題と考えられます。

これまでの取組から

○習熟度別少人数授業を展開しています。子どもの学力に応じた課題に取り組ませることで知識・理解を主とした基礎学力の定着を図っています。

○「図形」の分野では、一人ひとりの証明を添削したことで、筋道を立てた証明ができるようになってきていると考えます。

今後の具体的な取組について

○関数については、独立した変数とそれに対応する変数を確認する場面を設け、関数の関係を正確に理解できるよう指導します。

○資料の活用については、まず基礎的な知識の定着を目指します。中央値や度数分布等の定義や求め方を確認し、資料から読み取る活動を通して基礎・基本を指導します。

生徒質問紙の結果より

学習について

数値の単位は %、()内は全国平均

《よかった所》

○「国語の授業がよく分かりますか」の質問には「当てはまる」が33.1(26.8)、「どちらかといえば当てはまる」が49.4(48.1)合計82.5(74.9)でプラス7.6でした。

質問76で問われた「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の質問には肯定的な回答が70.5(62.7)でプラス7.8となっています。

「数学の授業の内容はよく分かりますか」では、「当てはまる」が44.0(31.5)「どちらかといえば当てはまる」34.3(37.9)合計78.3(69.4)でプラス8.9

《課題と思われる所》

○「総合的な学習の時間では自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」では「当てはまる」が15.1(21.3)、「どちらかといえば当てはまる」が44.0(43.0)計59.1(64.3)でマイナス5.2となっています。

「数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」の質問には「当てはまる」が28.3(47.0)「どちらかといえば当てはまる」が38.0(34.3)、計66.3(82.3)でマイナス16となっています。

生活について

《よかった所》

○規範意識が高いです。

「学校の規則を守っていますか。」の質問には「当てはまる」71.1(63.0)、「どちらかといえば当てはまる」が26.5(32.2)、計97.6(95.2)でプラス2.4となっています。「友達との約束を守っていますか」では、「当てはまる」71.1(69.4)「どちらかと当てはまる」28.9(28.0)で計100(97.4)プラス2.6でした。

○学習習慣に関しては平日の学校以外に1日どれくらいの時間勉強をしますかの質問に対しては1時間以上から3時間以上まで合計すると92.8(86.8)でプラス6となっています。

《課題と思われる所》

○生活習慣には課題が見られます。

「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)」では2時間～4時間以上が44.5(37.6)で6.9多いです。

また「1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)」では2時間～4時間以上では36.7(32.2)で4.5多い結果となりました。

また、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問には「当てはまる」が48.8(56.3)でマイナス7.5となっています。

これまでの取組から

○学校全体の取り組みである『海西中の心』(「挨拶」「時間」「約束」「思いやり」)を生徒に浸透させています。その結果、学習面・生活面に意欲的に取り組む等、成果が表れていると考えます。

○各教科の中でグループワークを通して言語活動を取り入れています。活発な活動により、学習内容の理解や規範意識の定着につながっていると考えます。

今後の具体的な取組について

○授業の導入の中で、目標やねらいを明確にできるように工夫するとともにグループワークを通して授業を展開します。また終末には目標やねらいに即した振り返りの場面を設定していきます。

○総合的な学習の時間ではPDCAサイクルを意識した探求的な学習の充実に一層努めます。

○生活習慣については学級活動、道徳、保健便りなどで重要性の啓発に努めるとともに、保護者との連携を図り更なる意識の共有を図ります。

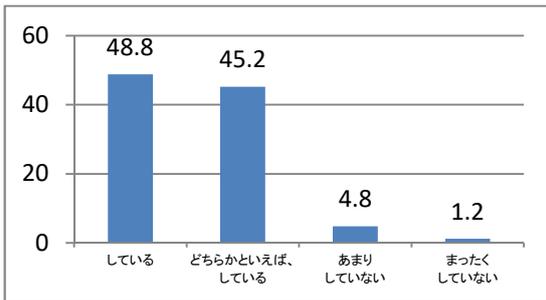
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 生活のリズムを整えましょう。

毎日同じぐらいの時間に就寝し、同じぐらいの時間に起床して睡眠時間を確保しましょう。

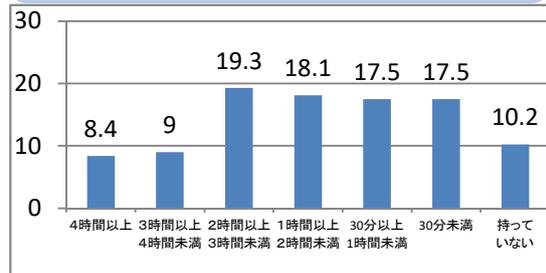
毎日同じぐらいの時刻に起きていますか。



2 スマホなど家庭でのルールを見直しましょう。

過度な使用は学習面だけでなく、生活面にも影響を与えます。約束した使用時間を守りましょう。

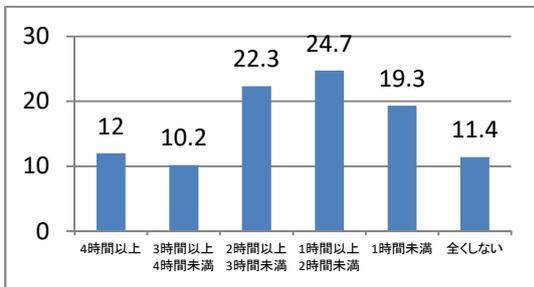
普段、一日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマホで通話やメール、インターネットをしますか。



3 家庭で過ごす時間の使い方を確認しましょう。

気分次第で時間を使うのではなく、目安をもって有意義に過ごしましょう。

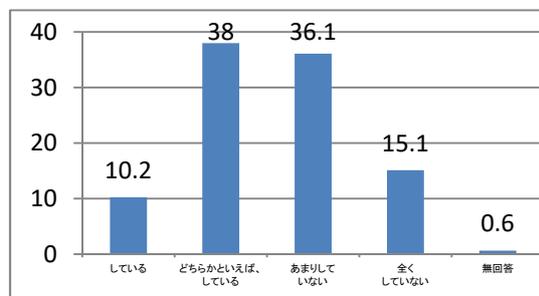
普段、1日当たりどれぐらいの時間、ゲームをしますか。



4 学習面について話し合いましょう。

突発的に行うのではなく、計画的に学習を進めましょう。

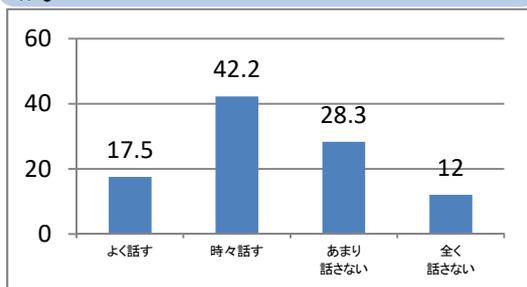
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



5 将来について考えてみましょう。

将来のことについて話し合い、希望をもちましょ。

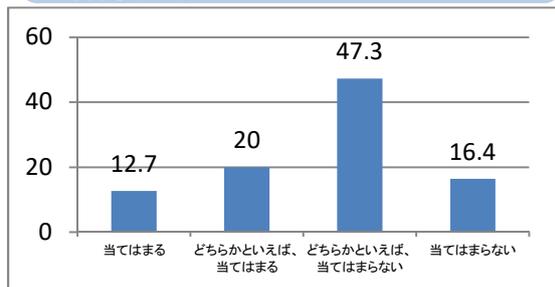
家の人と将来のことについて話すことがありますか。

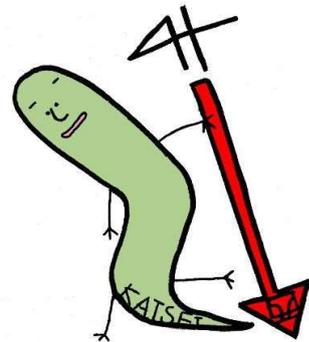
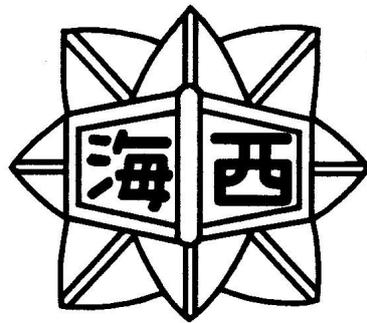


6 地域や社会に関心を持ちましょう。

ご家庭でも、地域のことや社会で起きている出来事について話をする機会を増やしましょう。

地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか。





海西中イメージキャラクター 次選
「タブブー」

平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



平成29年12月
海老名市立柏ヶ谷中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じて、資料を効果的に活用して話すことができます。
- 文章の要旨をとらえることができます。
- 文脈に即して、漢字を正しく書いたり読んだりできます。また、語句の意味を理解して、その語句を文脈の中で使うことができます。

《努力を要する所》

- 事実と考察との関係に注意して筋道を立てて話すこと、また、相手に分かりやすい言葉で話すことに、課題が見られます。
- 物語の場面展開や登場人物像をつかみ、内容を理解することが苦手です。
- 文章に書かれているものの見方や考え方について、自分の考えを持ったり広げたりすることに、課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じて、資料を効果的に活用して話すことができます。
- 目的に応じて、必要な情報を読み取ることができます。

《努力を要する所》

- 相手の反応を見ながら、伝えたい事実や事柄を分かりやすく話すことに、課題が見られます。
- 物語の情景描写（背景）、または登場人物の気持ちや行動を捉えて、その内容を理解することが苦手です。
- 課題を適切にとらえて、その課題に対する自分の考えや理由を書くことが苦手です。また、必要な材料を整理して文章を書くことに、課題が見られます。

これまでの取組から

- 今回の調査においては、提示された資料や情報を元に、目的に応じて話す力が身につけているという結果がうかがえました。また、文脈に即した漢字・語句の活用において、基礎的な力が身につけていることもうかがえました。
- 順序立てて論理的に話すこと、場面の展開を踏まえた内容理解、課題に対して自分の考えを持つことに、努力を要することがその結果からうかがえました。

今後の具体的な取組について

- 今回の調査結果を受けて、以下の指導実践が有効だと考えます。
- グループ活動などの言語活動をさらに活性化させる。また、活動の形態も討論形式（ディベートを含む）、バズセッション、インタビュー形式、ロールプレイング形式、など多岐にわたるように工夫する。
- 語句や言葉、文章が相互に関連した知識として習得させられるよう、「自発的な思考を促す」活動（テーマ学習）や学習課題（興味関心を喚起する学習プリントなど）の継続的な提供に努める。さらに、それらの学習活動を言葉の豊かさや語彙力の向上にもつなげていく。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」の領域における連立二元一次方程式をよく理解しており、「数学的な技能」に優れています。
- 「図形」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に優れています。特に、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件をよく理解しています。

《努力を要する所》

- 「関数」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。関数の意味や反比例の理解不足による誤答が多くありました。
- 「資料の活用」の領域における「数学的な技能」に努力を要します。特に、度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることに対する理解不足が見られました。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することに優れています。
- 「資料の活用」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することができています。

《努力を要する所》

- 「図形」の領域における「数学的な見方や考え方」に努力を要します。特に、証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだす力をつけることが必要です。
- 「関数」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。与えられた情報を適切に読み取る力をつけることが必要です。

これまでの取組から

- 本校では2年次に習熟度別少人数指導を取り入れることにより、問題に向き合う学習意欲の向上や、基礎的・基本的な知識・技能の習得について効果が上がっていると思われます。

今後の具体的な取組について

- 反復して問題に取り組み、基礎学力を養っていきます。特に、「関数」については、与えられた表やグラフ、式から必要な情報を選択し、数学的に表現する力を養っていきます。

生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思っている生徒が68%、将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思っている生徒が38%と全国平均よりも高く、外国への関心を持つ生徒が多くいます。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意だと答えた生徒が54%と全国平均を4ポイントと上回りました。

《課題と思われる所》

- 国語や数学の学習が、社会に出たときに役に立つと思う生徒、勉強は大切だと思う生徒の割合が全国平均に比べ高くありませんでした。
- 学習時間は確保しています。予習・授業・復習の学習サイクルを今まで以上に習慣化する必要があります。

生活について

《よかった所》

- 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」という質問があると答えた生徒は、県・全国平均を上回りました。
- 保護者の方が学校行事へよく来ると答えた生徒が64%と全国・県平均より10ポイント以上高い数値でした。

《課題と思われる所》

- 「家の人と将来のことについて話すことがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒が、全国平均より約10ポイント低く、将来のことを考える機会がやや少ないようです。
- 平日、スマートフォンでの通話やメール、インターネットを4時間以上する生徒が16.5%と高い数値でした。
- テレビ・ビデオの鑑賞、コンピューターゲームをする時間も全国や県より長くなっています。

これまでの取組から

- 総合的な学習の時間、学級活動での話し合いなどの取り組みを通して、自信を持って自分の考えや意見を発表できる生徒が多くなりました。
- 朝読書の時間を設けており、73%の生徒が読書が好きと答えています。また、読書をする時間も長い傾向にあります。

今後の具体的な取組について

- 授業の目標を明確にし、最後にまとめや確認ができるような授業を展開する工夫をします。
- 定期テスト前の学習計画表や長期の休みの計画表の作成を今後も続け、生徒が計画的に生活する習慣が身につく取り組みをします。
- スマートフォンの利用時間など、生活習慣全般について保護者会や学級懇談会で取り上げ、家庭と協力して、望ましいあり方について情報交換をします。

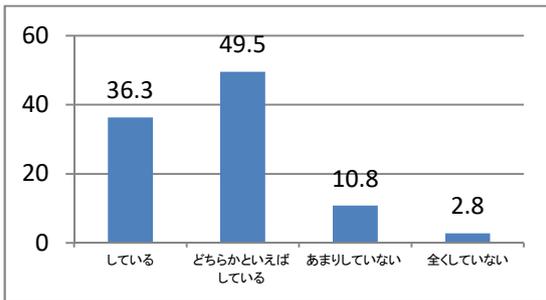
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 同じ時間に起床・就寝する生活習慣を身につけましょう。

起床・就寝の時間が不規則な生徒がやや多めでした。規則的な生活習慣のサポートをお願いします。

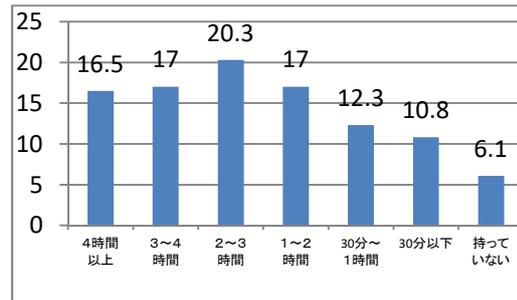
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



2 スマートフォンなどの使用ルールをしっかりと決めましょう。

半数以上の生徒が2時間以上通話・メール・インターネットをしていると回答しました。

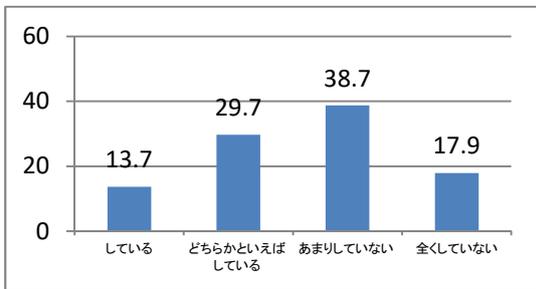
平日どれぐらいの時間メール・インターネットをしますか。



3 計画を立てて、継続して学習しましょう。

計画を立て、確認しながら学習することは、生活習慣の改善にも役立ちます。

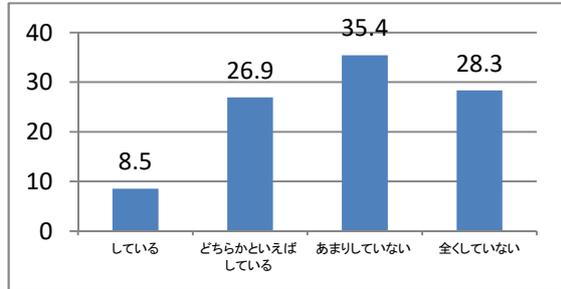
計画を立てて勉強をしていますか



4 工夫してバランスよく、予習・復習をしましょう。

約45%の生徒が毎日2時間以上、家庭学習などを行っています。授業の予習・復習の時間や方法も工夫しましょう。

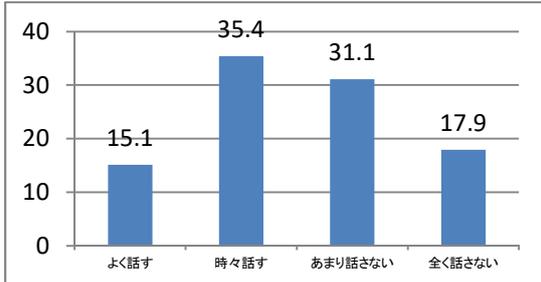
家で学校の授業の復習をしていますか



5 将来の夢や目標を家庭で話題にしてみてください。

学校の出来事については約7割の生徒が話をしています。将来のことも話題にしてみてください。

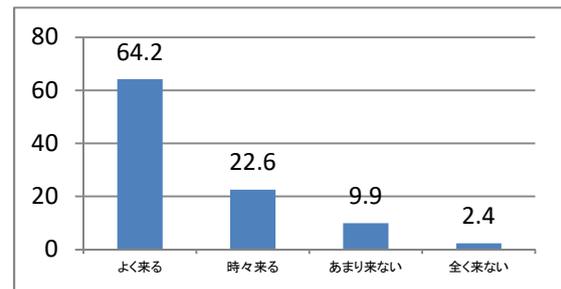
家の人と将来のことについて話すことがありますか



6 今後も学校行事などへのご協力をお願いします。

高い参加率です。生徒の励みになっています。

家の方は、学校の行事に来ますか





2017年10月26日 合唱祭 3年学年合唱

平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



平成29年12月
海老名市立大谷中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家的人是、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○古典を読む力に優れています。古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える力が身についています。また古典の種類などの知識も定着しています。

○書く力に優れています。特に、目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる力が身についています。

《努力を要する所》

○文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られます。特に、小学校五・六年に配当された漢字について、復習が必要です。

○読む力、特に問題4設問一で問われた文章の要旨を捉える力に課題が見られます。文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、整理する力を養う必要があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○書く力に優れています。特に問題1設問三で問われた、比喩などの表現の仕方について捉え、自分の考えを書く力が優れています。

○問題3設問一で問われた、集めた材料を整理して文章を構成する力に優れています。目的、情報のまとめ、効果的な配置等、構成の特徴を捉える力に優れています。

《努力を要する所》

○読む力、特に問題3設問二で問われた、複数の資料から目的に応じて必要な情報を読み取る力に課題が見られます。

○問題3設問三で問われた、必要な情報を集める力にも課題が見られました。どの情報を提示すれば意図が明確になるか、効果が期待できるかの見通しを持って情報を集める力を養う必要があります。

これまでの取組から

○相手に効果的に伝わるように書く力を高めるため、自己の表現を吟味したり、書き手の意図を説明したりする学習を工夫しました。

○書いた文章を推敲する際に、伝えたい事柄が具体的で明確になっているかに留意するよう指導を工夫しました。

今後の具体的な取組について

○漢字を正しく書く力の充実のため、話すこと・聞くこと、書くことの学習においても、同音や形の似ている漢字への意識を高めます。

○説明的な文章を読む際、提示された話題とその説明を正確に理解し、必要な情報を選択・整理する学習を工夫していきます。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○数と式の領域における、等式を目的に応じて変形する数学的技能に優れています。

○図形領域の、特に平面図形の技能や知識・理解に優れています。錯角の性質の理解や、問題8で問われた、命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取る技能に優れています。

《努力を要する所》

○資料の活用、特に問題14(2)で問われた、度数分布表について、指定された階級の相対度数を求める力に課題が見られます。

○図形領域のうち、空間図形には課題が見られます。空間における直線と平面の関係についての理解や立方体の面上の線分の長さを読み取る技能には努力が必要です。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○数と式の領域で、問題場面における考察の対象を明確に捉える数学的技能に優れています。

○図形領域の平面図形において、問題4(1)で問われた、角の大きさが等しいことを合同を利用して証明するなど、筋道を立てて考え、証明する思考力・判断力に優れています。

《努力を要する所》

○資料の活用、特に問題5(2)で問われた、与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈する思考力・判断力に課題が見られます。

○問題1(3)で問われた、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉える思考力・判断力に課題が見られます。

これまでの取組から

○事柄や数量の関係を捉え、文字式に表す練習を工夫しました。

○目的に応じて資料を整理し、傾向を読み取り、解決の構想を立てる活動を工夫しました。

今後の具体的な取組について

○資料の活用については引き続き学習を工夫し、特に相対度数は意味と必要性を実感する場面を設け、理解を深めます。

○空間図形については、見取図だけでなく、身近な立体を見たり、実際に触れたり、模型を製作したりしながら、様々な方向や視点から観察する場面を設定するなど、空間における直線や平面の位置関係の理解が深まるよう学習を工夫していきます。

生徒質問紙の結果より

※ 数値に付けた()内は全国平均との差
※「肯定的な回答」は「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」の合計

学習について

《よかった所》

○計画性、予習・復習の習慣が身につけている割合が高いです。特に予習については肯定的回答が全国平均を11ポイント上回っています。

○総合的な学習の時間に対する意欲が高いです。課題を設定し、自ら考え、話し合い、主体的に取り組む力を伸ばしています。

《課題と思われる所》

○文章を書く力に課題が見られます。原稿用紙2、3枚の感想文や説明文を書くことが難しいとの回答が46.3%(+10.7)ありました。

○文章で解答する課題に努力が必要です。最後まで努力したという回答が64.2%(-8.1)に留まり、諦めてしまった30.5%(+6.9)、解答しなかった3.7%(+0.4)と、書く意欲に課題が見られました。

生活について

《よかった所》

○友達との関係は概ね良好といえます。学校で友達に会うのが楽しいかの問いに95.8%(+1.2)が肯定的な回答をしています。

○思いやりの心が養われています。人を助けようとする態度、いじめをなくそうとする心とも肯定的な回答が全国平均を上回っています。

《課題と思われる所》

○生活習慣に課題が見られます。朝食、就寝・起床のいずれも、肯定的な回答が全国平均を下回っています。特に起床に関しては意識を高める必要があります。

○平日における携帯電話やスマートフォン等の使用時間に注意や改善が必要と思われます。1日2時間以上との回答が41.1%(+8.9)ありました。

これまでの取組から

○学習面においても生活面においても、基盤は人間関係作りという考えに基づき、校内研究の重点として取組を工夫してきました。

○学校生活全体を通して、話し合い活動の機会を増やすとともに、質の向上を図ろうと工夫してきました。

今後の具体的な取組について

○人間関係作りに重点を置き、学校生活全体を通してその向上に取組むとともに、構成的グループエンカウンターをはじめとする意図的・積極的なねらいをもった活動を定期的実施していきます。

○文章を書く機会を、学習場面に限らず、学校生活全体を通して増やし、書くことへ抵抗感を減らし、意欲と自信を高めていきます。

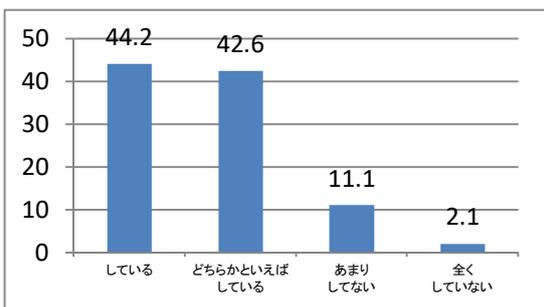
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 規則正しい生活習慣をさらに整えましょう。

朝食、就寝・起床といった生活のリズムを整えることは、学習成果の基盤となります。

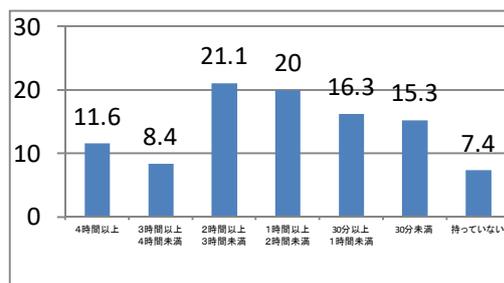
毎日同じくらいの時間に起きますか。



2 スマートフォン等を使う時間に注意しましょう。

使う時間にめやすを持たせましょう。併せて、人との直接的なかかわりを大切にしましょう。

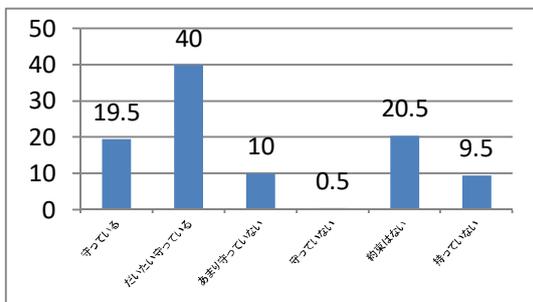
平日は1日どれくらいの時間、スマホ等でメールやインターネットをしますか。



3 スマホ等の約束を大切にしましょう。

約束について折々に親子で確認しましょう。

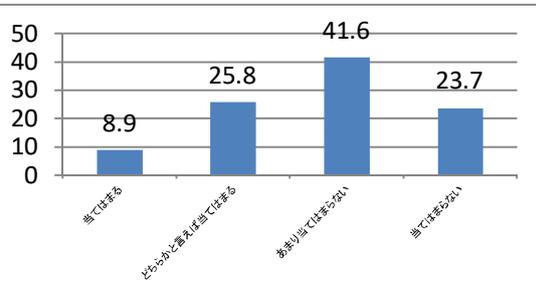
スマホ等の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



4 地域や社会について親子で話し合いましょう。

地域や社会の課題に関心を高めましょう。

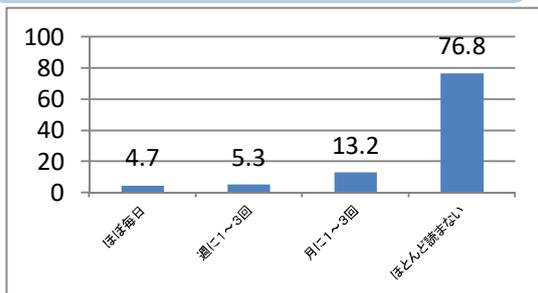
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。



5 新聞を読む価値について見直してみましょう。

テレビやインターネットのニュースのほかに、紙面で読む有効性もさまざまあると思います。

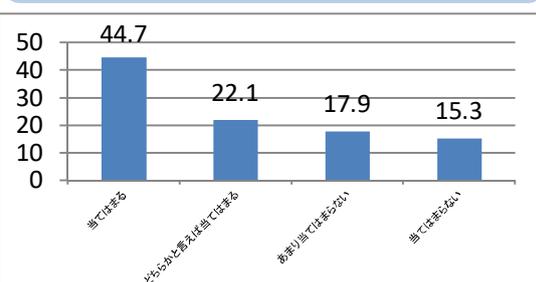
新聞を読んでいますか。



6 将来の夢についてご家族で話し合いましょう。

「夢＝職業」とらわれず、「どんな人になりたい」から話題を広げられるとよいと思います。

将来の夢や希望を持っていますか。





平成29年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



平成29年12月

海老名市立今泉中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- どの領域もおおむねバランスよく知識を習得している。
- 「話すこと・聞くこと」の領域において、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」問いの正答率が高い。
- 「書くこと」の領域において、「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」問いの正答率が高い。

《努力を要する所》

- 「漢字を正しく読む」問いに比べ、「書く」問いでは正答率の低さと無解答率が目立つ。
- 全国平均と同様に「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問いの正答率が低い。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「提示された資料から必要な情報を集めるための見通しをもって自分の考えを書く」問いの正答率が高い。
- 「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」問いの正答率が高い。

《努力を要する所》

- 「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問いでは、全国平均と同様に正答率が低く、無解答率もほかの問いと比べ高い。
- 「自分の考えを記述する」問いでは、正答率が低く、無解答率も高い。



これまでの取組から

- 授業の最初に漢字のワークを5分間取り組み、定期的に小テストを実施し、継続的に語彙習得に努めた。また、文章読解に先立ち、意味調べを行い、読解をより正確なものにした。
- アクティブラーニングの視点から、話し合い活動をはじめ、スピーチ、ディベート等を行った。
- 図書支援員と連携し、図書館を活用した授業を取り入れた。

今後の具体的な取組について

- 漢字の書きに関して知識の習得が不十分であるため、ワークを使った反復学習を継続していく。
- 文章の読解はおおむねできるが、限られた時間で、考えをまとめ文章化することに課題があるので、時間設定をした上での課題作文を積極的に取り入れる。

数学に関する調査結果

数 学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○数式では、計算などの数学的スキルが身につけており、正の数と負の数の意味を理解し、加法・減法についての計算問題がよくできている。また、文字式の計算についても正確に問題を解くことができている。

○図形では、位置関係や作図や、移動の根拠となる事柄についてよく理解している。「学習指導要領の領域」、「評価の観点」「問題形式」のいずれの項目についても、問題の正答率が高い。

○確率では、同様に確からしいという意味を理解し、簡単な確率を求めることができている。

《努力を要する所》

○比例や反比例などの関数についての理解の定着に課題が見られる。

○一次関数の傾きと切片についての問題の正答率が低い。

数 学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○数式では、数と式についての数学的な見方や考え方は比較的できている。

○与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することに関しても比較的できている。

○図形では、事象を図形間の関係に着目して、対称性を的確にとらえることができている。

○三角形の合同を用いて、対応する角の大きさが等しいことを証明する問題についても比較的できている。

《努力を要する所》

○資料の活用の単元で、度数分布表などから必要な情報を取り出す問題や解決する問題に課題が見られる。



これまでの取組から

○基本的な計算問題を中心に取り組んできたので、正負の数や文字式の計算はある程度できるようになっている。

○数学的な応用力を伸ばす観点での授業が少なかったと思われるので、改善していきたい。

今後の具体的な取組について

○基礎・基本的な事項をしっかり押さえて、必要に応じて個別指導等の支援を行っていく。

○既習の学習内容の中で、理解が十分でない単元などを振り返る時間を設定し、定着を高めていきたい。

生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「学校の授業以外で、月～金曜日に1日あたり1時間以上勉強している」と答えた生徒が全体の8割以上を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒が全体の6割弱を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている」と答えた生徒が全体の8割以上を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「学校で好きな授業がある」と答えた生徒が全体の9割弱を示し、県・全国平均を大きく上回っている。

《課題と思われる所》

- 「1日当たり、通話、メール、インターネットを1時間以上している」と答えた生徒が全体の5割強であり、全国平均を大きく上回っている。
- 「学校や地域の図書館を利用する」と答えた生徒が県・全国平均を下回り、全く利用しない生徒が6割弱を示している。

生活について

《よかった所》

- 「学校に行くのが楽しい」「学校で友達に会うのは楽しい」「友達の話や意見を最後まできくことができる」「友達の考えを受け止めて、自分の意見を持つことができる」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と答えた生徒が全体の9割を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「自分には、よいところがある」と答えた生徒が全体の8割を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と答えた生徒が全体の8割以上を示し、県・全国平均を大きく上回っている。

《課題と思われる所》

- 「地域の行事に参加している」と答えた生徒が全体の3割であり、「地域・社会の問題や出来事の関心」や「地域社会などでのボランティア活動への参加」も県・全国平均を下回っている。

これまでの取組から

- 「適切な人権意識の育成」や「自分を大切にし、他の人を大切にする心」を育む学習実践を進めてきたことが、落ち着いた学習環境をつくり、生徒の豊かな心を育みつつあります。

今後の具体的な取組について

- ◇学校教育目標「地域とともに生き、たくましく、しなやかに未来を拓く生徒の育成」を目指し、地域や家庭との連携をさらに深めていきます。
- ◇校内研究の柱として取り組んできた「自分を大切にし、他の人を大切にする心の育成」を目指した教育活動を継続し、さらに充実した活動にしていきます。
- ◇情報リテラシー教育をさらに進め、情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばしていきます。また、保護者会や学校便り等で、家庭への協力を繰り返し呼びかけていきます。

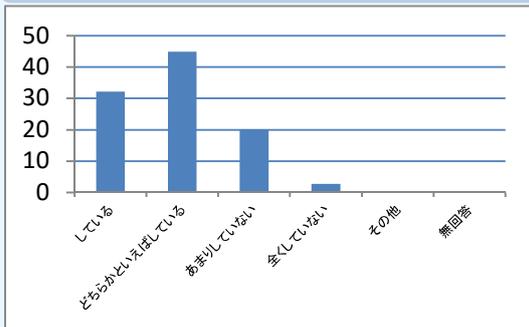
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「家庭で学力を育てる4項目」をまとめました。ご家庭の状況にあわせて、できることからぜひ始めてみましょう。

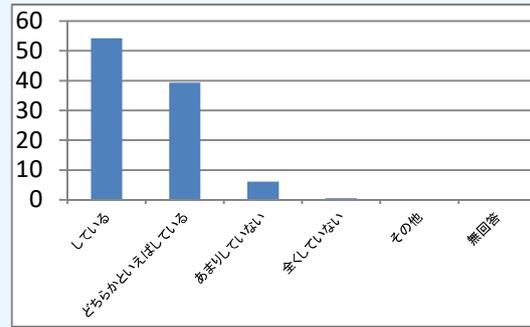
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「早寝・早起き・朝ご飯！」という合い言葉を聞いたことがありますか？平成22年度から「元々なびなっ子プラン」「えびなっ子しあわせプラン」として、平成29年度まで市をあげて実現に向けて取り組んでいる内容です。今後も、ご家庭での協力をお願いします。

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



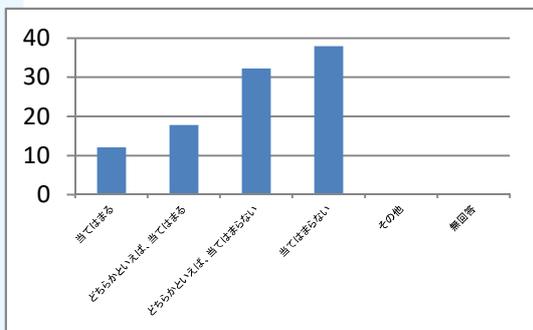
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



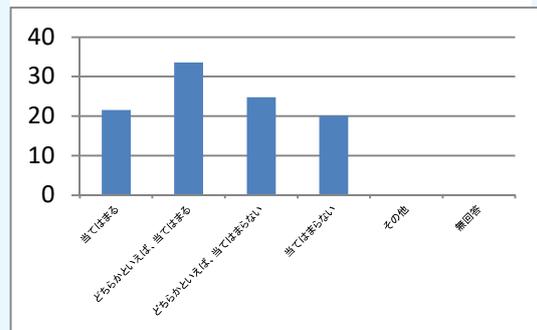
2 地域の活動には、家族で積極的に参加しましょう。

経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われています。近年、地域におけるボランティアや市民活動が、新たなつながりとして増加傾向にあります。さらに、少子高齢化、核家族化、地域の教育力の低下への対応として、地域が果たす役割への期待が大きくなっており、地域のつながりの重要性がますます高まっています。

今住んでいる地域の行事に参加していますか



地域や社会で起こっている問題や出来事に
関心がありますか



4 使用時間を決めてしっかり守りましょう。

1日あたりの使用時間を決めて使わないと、なかなかやめられないものです。また、SNS(ソーシャルネットワークサービス)でのトラブルにも気をつけましょう。

普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか

